和本の後題に曰く聖觀自在成就大悲蓮花部心瑜伽念誦法一卷と。

國譯觀自在大悲成就瑜伽蓮華部念誦法門 終

震十八、縮閏十二、藏十五奎九。此の尊は胎藏曼荼羅に被葉衣菩薩といふあり、孕めるなり、此と同尊の中に住し玉ふ、四臂の尊なり、又二臂もあり。

(一) 如幻三昧八地以上は何れの菩薩も皆此三昧に住す。

(二) 間 和本により加ふ。

(三) 種々の苦惱八難等の苦惱に遇ふ者なり。

(四) 世間云云 是は苦に遇はざる者なり、故に二世の果報を希望するなり。

國譯葉衣觀自在菩薩經

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空 詔を奉じて譯す

爾の時に婆伽梵、極樂世界に住して、諸の大衆と與に妙法を宣說したまふ時、金剛手菩薩、座より起ちて偏へに右肩を袒ぎ、雙膝を地に著けて觀自在菩薩摩訶薩の足を頂禮して觀自在菩薩に白して言さく、聖者大悲解脫(一)如幻三昧に住して、能く一切有情の苦惱を除き、世・出世(二)間の利益安樂を與ふるに、假使ひ三千大千世界の一切衆生、同時に(三)種種の苦惱及び八難の苦あるも、或は(四)世間出世の果報を希望するも、若し能く一心に觀自在菩薩摩訶薩の名號を稱念すれば、時に應じて大悲の誓願を捨てずして、種種の隨類の身を現じて、能く衆生一切の勝願を滿て、亦た能く國界を護持し苦難を拔濟し、亦た能く攝受し養育して吉祥を增長し、亦た能く囚禁苦刑を遮止し、亦た能く蠱毒鬼魅及び諸の惡病を鎖除し、亦た能く陣に臨んで刀杖を禁制し、亦た能く水火の災難を鎖除し、亦た能く厭禱呪詛を斷除し、亦た能く方隅地界を結護す、惟

だ願くは聖者、未來の一切有情國王男女の、若し三寶を淨信し佛法を護持せんものを哀愍して、王業を相承し斷絶せしむること勿らしめんことを。彼等のための故に軌儀陀羅尼加持方便を說かん。(一)爾の時に觀自在菩薩摩訶薩、座より起ちて佛足を頂禮し、右に遶ること三帀して還た本處に坐し、合掌して佛に向ひて佛に白して言さく、惟だ願くは世尊哀愍加持したまへ、我に葉衣觀自在菩薩摩訶薩陀羅尼あり、能く一切有情の災禍・疫病・饑儉・劫賊・刀兵・水旱調はず宿曜度を失ふを除き、亦た能く福德を增長して國界豊盛人民安樂ならん、我今說かんと欲す、惟だ願くは聽許したまへ。佛言はく善い哉善い哉、汝が意に隨ひて說くべし。

(一) 爾の時云云 聖觀音即ち葉衣の身と爲つて陀羅尼を說き玉ふ。

爾の時に觀自在菩薩、佛の威神を承けて陀羅尼を說いて曰く　曩謨、引囉怛曩二合怛囉二合　夜引野、一曩謨、阿弭跢引婆去聲野、二怛他去聲蘖跢引夜引囉賀二合　帝三去聲貌三去聲　沒馱引野、三曩謨、阿去聲引哩野、二合引　嚩路引枳帝、濕嚩二合囉野、四冐引地薩怛嚩引二合野、五摩訶引薩怛嚩引二合野、六摩賀引迦引噜捉尼整の切迦引野、七曩謨、摩賀娑佗去聲二合麼、鉢囉二合引跛跢二合引野、八冐地薩怛嚩二合野、九摩賀引薩怛嚩二合野、十摩賀引迦引噜捉尼整の切迦引野、十一嚩引麼寧怛鑁、二合引　(一)曩(二)謨寫去聲引弭十二怛鑁、二合引

(二) 和本は此の次に十二註あり。

(三) 謨　別本摩に作る。

(三) 和本怛鑁の下十三註あり。

曩謨寫去聲引弭十三嚩引摩(一)寧、妣舍止、鉢囉拏二合捨嚩哩、十四鉢囉拏二合捨嚩哩、妣舍止、十五婆去聲識嚩底、丁以の切、十六跛捨、跛囉輸、上聲播捨馱哩捉、十七夜引顎迦引顎質十八捺婆去聲夜引顎聿二合答跛二合你也麼引曩引顎聿二合答跛二合撚帝、十九夜入聲引迦引室質二合你泥の切多庾引十二夜入聲引迦引室質二合摩賀引麼引哩庾、二合引二十二曳計質努鉢捺囉二合嚩、無跛の切二十三曳計質努播引夜引娑、入聲引二十四(二)曳計質也畎藥、曳計質捺(三)地野二合引婆嚩、上に準じて引、二十五曳計質努跛(四)薩虐引二塢跛(五)薩誐三合去聲滿馱引嚩、引、二十七嗢鉢燕帝、二十八薩嚩引顎跢引顎、薩嚩引娑羅、二合引、二十九薩吠帝嚩、引攞多三十曀武無後の切、引怛鉢燕帝曩、三十一半旄多、娑多二合娜寧曩薩底曳、二合曩三十二薩底也二合嚩引計引曩、三十三惹自娜の切下同じ惹惹惹、三十四曀鼻室止二合半旄跢、引三十五地瑟耻二合帝、引漫怛囉二合鉢乃、三十六麼鼻聲麼上に同じ薩嚩薩怛嚩引二合囉迦愴引二合矩嚕、三十八(六)奠不井底孕の切二合矩嚕、三十九跛哩怛囉引二合哺矩嚕、四十跛哩槃囉二合怛上聲矩嚕、四十一跛哩播引攞曩矩嚕、四十二扇引井矩嚕、四十三娑嚩二合娑底野三合野曩矩嚕、四十四難上聲拏跛哩賀引嘲矩嚕、四十五設娑怛囉三合跛里賀嘲矩嚕、四十六尾瀧怒引瀧南矩嚕、四十七尾瀧曩引拾曩矩嚕、四十八枲引麼引滿蕩矩嚕、四十九馱囉捉滿蕩左矩嚕、

(一) 寧の下、十四註あり、法賢本亦た十三の註あり。

(二) 曳計等の六字和本高本共になし

(三) 地の上、趙宋法賢諱本吡の字あり。

(四)(五) 薩　和本に薩羅とあり。

(六) 奠不井　法賢本に玉鉢鼎に作る下の井も同じ。

(一)姤　姤の方よし。

(二)觀奴の上、法賢本には烏波設末の句あり。また彼の本には大陀羅尼の次に心眞言に連續して心眞言の次に多句あり。

(三)若しの上、和本には已下の文あり、何況んや七遍乃至多遍すれば能く六趣四生を饒益す、若し此法を作さんと欲せば先づ我前に於て此の葉衣陀羅尼を誦すること三十萬遍に滿て已らば、然して後に法驗に應ずることなしなり。

(四)少青綠　綠青

(五)吉祥菓　此の方に無し、柘榴にあらず。

(六)蓮華　和本には紅蓮華に作る。

五十　怛你也二合　佗、去聲引、五十一　阿蜜哩二合　帝、阿蜜哩二合　(一)姤、納婆二合　吠、五十二　阿濕嚩二合　婆黨二合引　霓、五十三　麼鼻聲引　麼囉、麼同前引　麼囉、五十四　捨麼、鉢囉二合　捨麼、五十五　(二)觀奴、鼻聲　尾觀奴、同上、五十六　觀黎、觀母黎、娑嚩二合引　賀引、五十七　心眞言に曰く　唵、一　鉢囉拏二合　捨嚩哩、二　吽引　發吒半聲三時に觀自在菩薩、此の陀羅尼を說き已て佛に白して言さく、世尊若し善男子・善女人あつて此の陀羅尼一徧を誦すれば、即ち自身を護り、若し兩徧を誦すれば即ち伴侶を護り、若し三徧を誦すれば即ち一家を護り、若し四徧を誦すれば一聚落を護り、若し五徧を誦すれば一國界を護らん、(三)若し國內疫病流行せば白氎を取るべし、濶さ一肘半長け二肘なり、先づ畫人をして潔淨齋戒せしめ、瞿摩夷の汁を以て(四)少青綠に和し、香膠を以て和し、皮膠を用ふること勿れ、鬼宿日を取て葉衣觀自在菩薩の像を畫け、其の像は天女の形に作り、首に寶冠を戴く、冠に無量壽佛有せり、瓔珞・環釧をもて其の身を莊嚴す、身に圓光あり、光焰圍繞す、像に四臂あり、右の第一手は心に當て(五)吉祥菓を持す、第二手は施願手に作り、左の第一手には鉞斧を持し第二手には羂索を持して(六)蓮華上に坐せり、像を畫き成已て竿上に懸け、一人をして執持せしむ、竿を

(一)擿枳王　古來降三世とするも、今の眞言は愛染の呪なり。宋の法賢譯の大教王第二に吒枳王の事を出す次の吉祥讃とは別なり

(二)吉慶讃

(三)蠡　ハマグリなり。

(四)坊市　是れ寺にあらず、此法は王城を結界する法なるが故に爾かいふ、俗舍なり、此に準じて凡人の家宅を結界するなり

(五)閻魔　云云　天行病鬼等は閻王所領の鬼等の所作なるが故に、彼に飲食等を供養して流行疫病を止めよと所求するなり。謂く行疫神を送るの相なり。

執るの人、間斷なく葉衣觀自在菩薩の陀羅尼を誦す、鼓を聲し磬を鳴す、擊つ所の杖は(一)擿枳王の眞言を用て加持すること二十一遍して方さに乃ち之を擊つ、眞言に曰く

唵一　擿枳吽短聲弱二

又た二人をして讃を誦せしむ、一人は(二)吉慶讃を誦し、一人は吉祥讃を誦す、知法の弟子三五人をして一人は香爐を持し安息香を燒く、其の香は葉衣觀自在菩薩の心眞言を以て加持すること一百八徧して、然して後に香爐を取て香を燒き烟を斷絕せしむること勿れ、一人は賢緋を持し香水を滿ち盛り、華果樹枝を挿む、緋を持す人をして前に在り、先に行いて像を引かしむる二人(三)蠡を吹き引いて王宮に入り、右旋することを一帀して南門よりして出づ、復た東より入て却き城內(四)坊市を繞り一帀して便ち城の南門より出づ、城の南門の外に一大水緋を置く、中に於て種種の飲食・雜果及び麨を置く、阿闍梨妙色身如來の眞言を誦して加持すること七遍して、然して後に葉衣觀自在菩薩陀羅尼を誦すること七遍す、眞言の句中に於て國王の名號を稱へて加持せよ、願くは王の國界諸の災難なからんことをと。然して後に路側曠野に於て水緋を棄擲して破せしむ、是の告を作して言へ、(五)閻魔界中行病鬼等、汝等此の飲食を領せよといふ

て、道を復して歸らんに、諸の有情に於て大(一)悲心を起し、此の國界をして諸の災難なからしめん。

又の法。長壽無病ならんことを欲求せば、意に隨ひて大小の、白氎上に於て葉衣觀自在菩薩の像を畫くこと前の如し、四臂なり、施願手の下に於て彼の求願の男女の形像を畫き、其の像を道場中に於て、毎日香華・飲食を以て如法に旋遶供養し發願すれば、常に加持を得、其の所願を滿せん。

又の法。若し國王の男女、長じ難く養ひ難く、或は薄命・短壽・疾病纏綿として寢食安からざるは、皆な宿業の因緣に由て惡宿直に生ず、或は數々(二)五曜に(三)本宿を(四)陵逼せられて、身をして安からざらしめば、則ち所居の處に於て牛黃を用て、或は紙或は素の上に(五)二十八大藥叉將眞言を書して、四壁の上に(六)貼せよ、先づ東方の壁上に於て四大藥叉將の眞言を貼し、東北の角より起首めよ、所謂る第一藥叉將の眞言に曰く

唵、你引囉伽、二合 吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第二藥叉將眞言に曰く、唵、一蘇寧怛囉二合 吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第三藥叉將眞言に曰く　唵、一布囉拏二合 迦、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第四藥叉將眞言に曰く　唵、一迦比攞、吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三

(一)悲　或は慈に作る。

(二)五　或は七に作る。

(三)本宿　本命宿。

(四)陵逼　七曜より本命宿を剋するなり。

(五)十八大夜叉鎮宅三舍あり、一には不動の鎮宅、二には八字文殊の鎮宅、三には葉衣の鎮宅、別して葉衣菩薩の鎮宅顯著なれども支度殊の外困難なり。

(六)貼　粘を以て張るなり。

次に南方の壁上に於て四大藥叉將眞言を貼せよ。第一藥叉將眞言に曰く　唵、一僧(一)伽、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第二藥叉將眞言に曰く　唵、一塢波僧伽、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第三藥叉將眞言に曰く　唵、一商企羅、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第四藥叉將眞言に曰く　唵、一難上娜上二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三

次に西方の壁上に於て四大藥叉將眞言を貼せよ。第一藥叉將眞言に曰く　唵　一訶哩、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第二藥叉將眞言に曰く　唵、訶哩計奢、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第三藥叉將眞言に曰く　唵、一鉢囉二合 僕、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第四藥叉將眞言に曰く　唵、一迦比羅、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三

次に北方の壁上に於て四大藥叉將眞言を貼せよ。第一藥叉將眞言に曰く　唵、一馱邏拏、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第二藥叉將眞言に曰く　唵、一馱邏難上那、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第三藥叉將眞言に曰く　唵、一塢你庾二合 誐、跛羅、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三　第四藥叉將眞言に曰く　唵、一尾灑拏、二吒枳吽弱、娑囉二合引訶引三

次に東北隅に於て一大藥叉將眞言を貼せよ。曰く　唵、一半支迦、二吒枳吽弱、娑囉

(一)伽　又は別本に實に作る。

二合引 訶引三

次に東南隅に於て一大藥叉將眞言を貼せよ。曰く　唵、一半左引羅(ハンシャラケンダ)嚴拏、二吒枳吽弱、婆(ボ)嚩二合引 訶引三

次に西南隅に於て一大藥叉將眞言を貼せよ。曰く　唵、一婆上(ボ)跢(タギ)儗哩、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三

次に西北隅に於て一大藥叉將眞言を貼せよ。曰く　唵、一(一)害(ケイマバタ)麼嚩多、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三

次に下方足の蹈まざる處に於て、石上に四大藥叉將眞言を鐫(きざ)み、四方の地下に置け。

東方地下一大藥叉將眞言に曰く　唵、一步(ボクマク)曩、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　南方地下一大藥叉將眞言に曰く　唵、一蘇(ソ)步(ボクマク)莫、吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　西方地下一大藥叉將眞言に曰く　唵、一迦羅(キャラ)、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　北方地下一大藥叉將眞言に曰く　唵、一塢波(ウハ)迦羅(キャラ)、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三

次に上方の四隅舍上に於て各の一大藥叉眞言を貼せよ。東北隅舍上一大藥叉將眞言に曰く　唵、一(二)蘇哩(ソリヤ)也、二合引 吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　東南隅舍上一大藥叉將眞言に曰く　唵、一阿銀(アギニ)儞、二合二 吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　西南隅舍上一大藥叉將眞言に曰く　唵、一蘇(ソ)摩、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三　西北隅舍上一大藥叉將眞言に曰く　唵、一嚩(バ)庾、二吒枳吽弱、婆嚩二合引 訶引三

眞言を貼し已て、二十八大藥叉將の位に於て各各白檀香を以て一小壇を塗り、壇上に香を燒き雜華を散し、飲食・燈燭・閼伽をもて虔誠にして啓告せよ、惟だ願くは二十八大藥叉將並に眷屬、各の本方に住して(一)某甲を護持し守護して、災禍・不祥・疾病・夭壽を除いて色力を獲得し、聰慧を增長して、威肅端嚴にして(二)具足し、養ひ易く長じ易く壽命長遠ならしめたまへ、是の加持を作し已て彼の二十八大藥叉將敢て諸佛に違越せず、觀自在菩薩及び金剛手菩薩の敎勅の如くして、晝夜擁護し臥して安く覺めて安うして大威得を獲。若し國王ありて此の法を作さば、其の王の境內災疾消滅し、國土安寧に人民歡樂ならん。

又たの法。本命宿直の像を畫いて毎月供養すべし、若し是の如くの法を作さば、其の惡宿直ちに轉じて吉祥と成らん。復た白檀香を以て葉衣觀自在菩薩の像を刻作し、並に(三)樺皮の上に於て此の葉衣の眞言を書して共に帶せよ、若し此の法を作して鬼宿の直

(一) 害　和本に彥に作る。

(二) 蘇哩也　日天なり。

(一) 某甲　願主の名を稱するなり。

(二) 具足の上、和本に果報の二字あり。

(三) 樺皮　カバザクラの皮に眞言を書くも今は柳の板に書く。

日を取り灌頂を受けよ、其の灌頂の絣は緡を以て項に繫け、香水を滿ち盛りて水中に七寶及び五種藥を著け、所謂る(一)娑訶者囉藥、娑訶泥藥、建吒迦哩藥、勿哩訶底藥、儗哩羯囉拏藥、及び五穀の種子諸香(二)等を、葉衣觀自在菩薩陀羅尼を以て水瓶を加持すること一百八徧し、以用て頂に灌ぎ諸の障難を洗ふ、灌頂し已らば一瓦椀を取て種種の飲食を盛り、彼の男女の頂上に於て旋遶すること三帀し、一人の知法の者をして遠く野外に送り出し、瓦瓶を擲破せしめ、即ち線索を結んで葉衣眞言を以て加持して其の頭上に繫けよ、若し是の如くの法を作して加持せば、身上の疾病●鬼魅●厭禱執曜、本命宿を陵逼し、及び惡星等惡宿の所作みな悉く殄滅せん（灌頂して像を戴くに由て、二十八大藥叉將常に隨ひ擁護す。）又たの法。若し人疫病せば舍彌佉木を取り（此の國になし、楮木を取て之に替ふ。）火を然して、然して後牛酥を護摩し人髮人骨等を護摩し、投ること一百八遍し、火中に於て燒き、七日已來每日葉衣觀自在菩薩を供養し、護摩の時ごとに彼の國城の名、聚落の名、村坊の名を稱せば一切の災難悉くみな除滅せん。是の如く(三)象疫●馬疫●牛疫●水牛疫には各の本類の骨本毛を取て護摩を作し、七日七夜するも亦たみな災滅せん。

又たの法。一緋を取て香水を滿ち盛り、葉衣眞言を誦して水瓶を加持すること一百八

(一) 娑訶者囉藥　五藥の名を擧ぐ。
(二) 等　五寶をいふ。
(三) 象疫馬疫象の疫病には象の骨毛等なり、例して之を知れ。

徧し、水を以て彼の畜等の身上に淋がんに、一切の疫病悉くみな消滅せん。

又たの法。若し人、頭痛せば、香氣ある華を取て加持すること一百八徧し戴き及び鼻に躾しめば即ち除愈することを得ん。

又たの法。若し人、鬼魅を患へば、粳米の粉を取り揑つて彼の魅形を作り、鑯鐵の刀を以て即ち段段に之を截り、七日護摩すれば即ち除差することを得ん。

又たの法。若し人、瘧を患ひて、若しは一日●二日●三日乃至七日或は長時に瘧を患へば、牛黃を用て此の眞言を書き之を戴け、即ち除差することを得ん。

又たの法。或は嬰孩鬼魅を患へば、此の眞言を書して帶せば則ち除愈することを得ん。

又たの法。劫賊の、坊市●村邑侵奪を被り、或は遠く(一)行遊せんと欲するに、道路に財を劫盜するを畏れなば、佉陀羅木の末を取て護摩し、眞言を誦すること一百八遍せば、去る所の處に諸の障難なからん。

又たの法。若し蟲の苗稼を食ひなば、砂を取て眞言を以て加持すること一百八遍せば、田中に散ずる蟲自ら遠く去りて五穀豐熟せん。

(一) 行遊已下は和本による、原本には「路に遊行するに劫奪を畏れなば」に作る。

國譯葉衣觀自在菩薩經終

國譯佛母大孔雀明王經卷上

唐特進試鴻臚卿開府儀同三司肅國公贈司空謚大辯正
號大廣智大興善寺三藏沙門不空　詔を奉じて譯す

(一)讀誦佛母大孔雀明王經前啓請法。

(二)南謨母馱野　南謨達磨野　南謨僧伽野　南謨七佛正徧智者
南無慈氏菩薩等一切菩薩摩訶薩、南無獨覺聲聞四果四向、我皆な是の如き等の聖衆を
敬禮したてまつる、我今、摩訶摩瑜利佛母明王經を讀誦して、我が求請する所の願み
な意の如く、所有ゆる一切の諸天靈祇或は地上に居し或は虛空に處し、或は水に住す
る異類鬼神、所謂る諸天及び龍●阿蘇羅●摩嚕多●蘖嚕拏●彥達嚩●緊那羅●摩睺羅誐●藥
叉●囉刹娑●畢嚕多●比舍遮●部多●矩畔拏●布單那●羯吒布單那●塞建那●嗢麽那●車耶●阿
鉢娑麽囉●塢娑怛囉迦、及餘び所有る一切の鬼神及び諸の蟲魅●人●非人等、諸惡毒害の
一切不祥、一切惡病、一切の鬼神、一切の使者、一切の怨敵、一切の恐怖、一切の諸毒

離一、續開六、藏十巻八。此の經に六本あり今六本の一なり。

(一)讀誦云云本書の上巻題額に讀誦佛母等とあれども今此の處に置けり、之れ讀誦前の作法の故に、次に又題額あり。

(二)南謨云云　已下は啓請の法なり

及び諸の呪術、一切の厭禱をもて佗命を伺斷し、毒害の心を起し不饒益を行ずる者、みな來りて我が佛母大孔雀明王經を讀誦するを聽かば、暴惡を捨除し咸く慈心を起し、佛●法●僧に於て清淨の信を生せん。我れ今、香華●飲食を施設す、願くは歡喜を生じ咸く我が言を聽け。

但爾也二合 佗、引去聲一 迦引 哩 迦囉引 哩、二 矩畔引 膩、三 餉棄顎、四 迦麼攞引(一)囉乞史二合 賀引 哩引 底、五 賀哩計引 施、室哩二合 麼底、丁以の切、六 賀哩冰畢孕の切四 誐黎、七 攪迷鉢囉二攪迷、八 迦引 攞播引勢、九 迦攞戍引 娜哩、十 焰摩弩引 底、十一 麼賀囉引 乞灑二合 泉、十二 部多蘖囉二合 薩顎、十三 鉢囉二合 底引 砌引 翰、十四 補澀嗨、二合 度引 嗨、十五 嚩淡、末隣、十六 左娜引 瀉引 弭、十七 囉乞灑二合 佗、麼麼、不甲十八 颯跋哩嚩覽、十九 薩嚩婆去聲 喻、引 鉢捺囉二合 吠引 毗藥、二合二十 餌嚩覩、韈囉灑二合 捨躭、二十一 鉢設都、二十二 捨囉喃引 捨單、二十三 悉鈿覩、四十 滿怛囉二合 鉢娜、娑嚩二合引 賀引二十五

諸の是の如き等の一切の天神、咸く來りて集會し、此の香華●飲食を受け、歡喜心を發して我某甲若しは國家のために、或は餘人のために讀誦せば、即ち彼の人の名字を稱說すべし、下みな此に准ぜよ。幷に諸の眷屬を擁護して、我等の眷屬の所有ゆる厄難、一切の憂惱、一切の疾病、一切の饑饉、獄囚繫縛恐怖の處、悉く

(一) 囉 和本になし、之を正さず。

みな解脫し、壽命百歲にして、願くは百秋を見、明力成就し所求の願滿せんことを。

(一) 此の經大例を知るべし、若し是れ尋常の字體にして徒に口を加ふれば、即ち舌を彈して之を呼ぶべし、但し此方に字なき爲めの故に音を借るのみ、自餘は唯だ字に依て直說すべし、漫りに聲勢の爲めに本音を失ふことを致すを得ず、即ち喚べば便ち梵韻に乖き、又た讀誦する時聲に長短を含み字に重輕あり、注の四聲を看て讀んで終に師授方さに能く愜當すべく、又た麤字義み識り、呼召すべし、始め情に隨ふべし、若し我れ某甲の處に至らば咸く具さに所求の事を述ぶべし、然るに此の經には大神力あり、求むる者みな驗あり、五天の地南海の十洲及び北方の土貨羅等の二十餘國、道俗を問ふことなく大乘・小乘みな共に尊敬し讀誦し、求請するに、咸く福利を蒙り、交報虛しからず、但し(二)舊經は文を譯するに闕くることありとなす、(三)神州をして多く流布せざらしむることを致す、厄難に遇ふと雖、讀む者尙ほ希ふが故に、今綜かに諸部の梵本を尋れ、勘へて委的ならしめ、重ねて更に審詳かに譯して三卷を成す、並に畫像壇場軌式利益無邊なるをもて之を永代に傳ふるのみ。

(二) 此經云云 此の細註全文は和本になし、後人義淨本より取り來て茲に挾めるものなるのみ。

(三) 舊經 梁朝衆鑑の譯經を指す。

(四) 神州 大唐の名。

(五) 已下序文。和本になし。

(六) 近圓 比丘の異名なり。

(七) 受具 和本に新受に作る。

(八) 是の如く云云

佛母大孔雀明王經卷上

(八)是の如く我れ聞きき、一と時薄伽梵、室羅伐城に在りて、逝多林給孤獨園に(五)住する時、一苾芻あり名けて莎底(シャチ)といふ、出家して未だ久しからずして(六)近圓を(七)受具し毗奈耶敎を學び、衆のために薪を破りて澡浴の事を營むに、大黑蛇ありて朽木の孔より出でゝ、彼の苾芻の右足の拇指を螫す、毒氣身に徧して地に悶絕し、口中より沫を吐き兩目上に翻す、爾の時、具壽阿難陀彼の苾芻の、毒のために中てられて極めて苦痛を受くるを見て疾く佛の所に往き、雙足を禮し已て佛に白して言さく、世尊、莎底苾

(一)爾の時云云　已下は正宗分なり　即ち孔雀明王の陀羅尼を以て中毒の比丘を救療し玉ふことを說く。

(二)彼等云云　以上は莎底一比丘の爲め以下は廣く衆生を救はんが爲めなり。

(三)持せられ　持せられ、魅され同じ意なり。

芻毒のために中てられて大苦惱を受くること具さに上の說の如し、如來の大悲云何してか救護したまへと、是の語を作し已るに、(一)爾の時に佛、阿難陀に告げたまふ、我れに摩訶摩瑜利佛母明王大陀羅尼あり、大威力ありて能く一切の諸毒・怖畏・災惱を滅し一切の有情を攝受し覆育して安樂を獲得せしむ、汝ぢ我が此の佛母明王陀羅尼を持して、莎底苾芻のために救護を作し、ために地界を結び方隅界を結び安隱を得、所有る苦惱みな消除することを得せしめよ、(二)彼等或は天龍に(三)持せられ、阿蘇羅に持せられ、摩嚕多に持せられ、誐嚕拏に持せられ、囉刹娑に持せられ、畢嚕多に持せられ、毗舍遮に魅され、步多に魅され、矩畔拏に魅され、布單那に魅され、羯吒布單那に魅され、塞建那に魅され、嗢麼那に魅され、車耶に魅され、阿鉢娑麼囉に魅され、塢娑跢囉迦に魅さる、是の如き等のために執へられ魅されん時、佛母明王悉く能く加護して憂怖なからしめたまひ、壽命百年ならしむ、或は他人の厭禱・呪術・蠱魅惡法の類を被ふらん、所謂る訖哩底迦・羯摩拏・迦具囉那・枳囉拏・吠哆拏・質者、他の血髓を飲み人と變じて驅役し鬼神を呼召し、諸の惡業・惡食・惡吐・惡影・惡視・惡跳・惡幕を造し、或は厭書を造し、或は惡冒逆にして是の如きの惡事を作し、相ひ惱亂せんと欲はば、此の

(一)頻　毎日なり

(二)四百四病　四大に各百病と又根本の一病宛となり

(三)麼　コブなり

(四)三集　風・黃・痰の三合集するなり。

(五)頭　和本になし。

(五)陀羅尼　第一大呪。

(六)帝嚧　和本には一帝嚧なし。

佛母明王彼の人並に諸の眷屬を擁護して、是の如きの諸惡も害を爲す能はず。又復た瘧病一日・二日・三日・四日乃至七日・半月・一月・或は復た(一)頻日、或は復た須臾に一切の瘧病(二)四百四病、或は常に熱病・偏邪(三)癮病鬼神壯熱・風黃・痰癮、或は(四)三集病んで飲食消せず、頭痛・半(五)頭痛・眼耳鼻痛・脣口頰痛・牙齒舌痛及び咽喉痛、胷脅背痛・心痛・肚痛・腰痛・腹痛・脛痛・膝痛・或は四肢痛み・隱密の處痛み、偏身疼痛す、是の如きの過患悉くみな除滅す、願くは我れ、某甲並に諸の眷屬を護り、我れ地界を結し方隅界を結し、此の經を讀誦して悉く安穩ならしめん。即ち伽佗を說いて曰く

我れ夜安く　晝日も亦た安からしめ　一切の時中　諸佛護念したまふ。

即ち(五)陀羅尼を說いて曰く　但儞也二合佗、引一伊上聲賦、二尾賦、三枳賦、四嗢賦、五弭賦、六顰賦、七頞儞、八伽上聲引儞、九努誐儞、十賀哩抳、十一嚩嚫賦、十二牓引蘇比舍唧顰、十三阿去聲嚧引賀抳十四汙嚧引賀抳十五曀嶮十六謎嚩十七(六)帝嚧帝嚧十八底哩底哩十九謎嚩謎嚩二十底謎底謎二十一努謎努謎二十二伊上聲置弭置二十三尾瑟置二合睇二十四左跛嚩二十五尾麼嚩二十六尾麼嚩二十七護嚕護嚕二十八阿濕薄二合目棄引二十九迦引哩三十麼賀引迦哩三十一鉢囉二合枳引囉拏二合計施三十二矩嚕矩嚕引三十三薄引普嚕三十四句引嚕句引嚕三

十五 護嚕護嚕三十六 覩譜嚕三十七 度引婆上聲引 努鼻嚩三十八 (一)努鼻努嚩引三十九 怒引麼努鼻嚩引四十
遇引攞夜引四十一 吠攞夜引四十二 比輪(二)比輪四十三 呬哩呬哩四十四 弭哩弭哩四十五 底哩底哩四十六 鼻哩
鼻哩四十七 祖嚕祖嚕四十八 (三)母護母護四十九 母護母護五十 母嚕母嚕五十一 母嚕母嚕五引十二 護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護護護護護護五十三 嚩引下同じ嚩嚩嚩嚩嚩嚩嚩嚩引五十四 惹引
攞引惹攞引惹攞引惹攞引惹攞引惹攞引惹攞引惹攞引惹攞引五十五 娜麼娜麼顊五十六 多跛多
跛顊五十七 入嚩引二合 攞入嚩二合 攞顊五十八 鉢左跛左顊五十九 嚩努鼻六十 糵惹顊六十一 韈囉灑二合
抳六十二 颯普二合 咤顊六十三 跢引 跛顊六十四 播引 左顊六十五 賀引 哩抳六十六 馱引 哩抳引 迦引 哩抳
六十七 劍跛顊六十八 沫那顊六十九 曼膩底計七十 麼迦哩七十一 設迦哩七十二 羯迦哩七十三 爍迦哩七十四
餉迦哩七十五 入嚩二合 攞顊七十六 努麼七十七 努鼻嚩哩七十八 努銘努銘七十九 遇引 攞引 野八十 鉢哩
吠攞引 野八十一 韈囉灑二合 覩禰嚩無博の切 三滿帝曩八十二 伊上聲 哩枳枲八十三 娑嚩二合引 賀引八十四

若し此の經を讀誦せば、此の處に至る時に、願求する所に隨てみな須らく其の事を稱說すべし、若し大旱の時は願天降雨さいふべし、若し大澇の時は願天止雨さいふべし、若し兵戈・盜賊・疫病流行・饑饉・變異及び餘の厄難あらば、事に隨て陳說して、一心に求請せよ、意に隨はずといふことなし。

阿難陀、諸の龍王の名字あり、當さに慈心を起して其の名を稱念すべし、諸の毒を攝除す、所謂る

(一) 努乃至嚩（引四十） 和本には怒麼引怒麼三十九努嚩引四十に作る
(二) 比輪 和本になし。
(三) 母護 和本には十母護あり母嚕の句なし。

持國龍王我れ慈念す　愛囉嚩拏常に慈を起す
尾嚕博叉亦た慈を起す　黒驕答麼我れ慈念す
麼抳龍王我れ慈愍す　婆蘇枳龍常に慈を起す
杖足龍王にも亦た慈を起す　滿賢龍王我れ慈念す
無熱惱池の嚩嚕拏　曼(一)娜洛迦・德叉迦
難陀・鄔波難陀龍　我れ常に彼に於て慈意を興す
(二)無邊龍王我れ慈念す　嚩蘇目佉にも亦た慈を起す
(三)無能勝龍常に慈を起す　瞞嚩龍王我れ慈念す
大麼娜斯我れ慈念す　小麼娜斯にも亦た慈を起す
阿鉢囉(四)迦鉢洛迦　(五)有財・沙彌龍王等
捺地穆佉及び麼抳　白蓮華龍及び(六)方主
羯句吒迦及び蠡足　毛毯・馬勝等にもみな慈をなす
娑鷄得迦・供鼻羅　針毛・臆行龍王等
(七)哩使迦龍我れ慈念す　滿耳・車面にも亦た常に慈をなす

(一) 娜 和本には闍に作る。
(二) 無邊云云 淨本に阿難得迦に作る。
(三) 無能云云 淨本に阿波羅市多に作る。
(四) 迦鉢 和本には羅迦に作る。
(五) 有財云云 淨本に蒲迦吽室羅末尼に作る。
(六) 方主 淨本に若鉢底に作る。
(七) 哩使云云 淨本頡利沙婆及哥羅に作る。

句略迦龍我れ慈念す　婆雌補多（バシボタ）・蘇難陀
愛囉鉢多大龍王　濫畝洛迦（ランボラキヤ）我れ慈愍す
非人龍王我れ慈念す　上人龍王も亦復た然なり、
蔑蘖囉龍常に慈を起す　母呰隣那（ボシリンダ）我れ慈念す
或は龍王あり地上を行く　或は龍王あり常に空に居す
或は恒に妙高山に依るあり　或は水中に在りて依止と作す
一首龍王我れ慈念す　及以び二頭も亦た復た然なり
是の如く乃至多頭あり　此等の龍王我れ慈念す
或は復た無足龍王の類　二足・四足等の龍王
或は復た多足の諸の龍王　各の慈心を起して相ひ護念す
此等の龍王威德を具し　色力豐美にして名聞あり
天、修羅と共に戰ふの時　大神通ありてみな勇猛なり
無足をして我を欺輕せしむる勿れ　二足も四足も相ひ侵す勿れ
及與び多足の諸の龍王も　常に我が身に於て觸惱するなし

諸龍及び神を我れ慈念す　或は地上に在り或は空に居し
常に一切の諸の衆生をして　各の慈心を起して相ひ護念せしむ
復た願くは一切含生の類　及以び靈祇諸大神
常に一切の善徴祥を見せしめよ　違情の罪惡の事を覩せしむること勿れ
我れ常に大慈悲の念を發して　彼をして諸の惡毒を滅除せしめ
饒益攝受して災(一)危を離れ　時方に在るに隨ひて常に擁護したまへ。

(一)曩謨窣覩二合　沒馱野、一曩謨窣覩二合　沒馱曳、二曩謨窣覩二合　目訖多二合　野、三曩謨窣覩二合　目訖多二合　曳、四曩謨窣覩二合　扇多野、五曩謨窣覩二合　扇多曳、六曩謨(二)窣覩二合　尾目訖跢二合　野、七曩謨(三)窣覩二合　尾目訖跢二合　曳八

諸有る淨行者　能く諸の惡業を伏して　是の如き等を敬禮したてまつる　我に於て常に衛護して
若し諸の恐怖　一切惱亂に逢はん時　幷に及び災害の時　疾病變怪等
及び毒に中てられ　不利益の時　我並に眷屬を護りて　病なく壽百歳ならしめよ。

(一)危　和本に厄に作る。
(二)曩謨云云　是を孔雀經の讃といふ、亦天龍八部の讃ともいふ。
(三)窣覩　和本になし。

(一)金曜　淨本に金光明といふ。

(二)努謎　原本になし、和本によりて加ふ。

佛、阿難陀に告げたまふ、往昔の時雪山の南面に(一)金曜孔雀王あり、彼に於て往し每に晨朝に於て常に佛母大孔雀明王陀羅尼を讀誦するに、晝は必ず安隱に、暮の時讀誦すれば夜は必ず安隱なりき、即ち陀羅尼を說いて曰く　曩謨沒馱引野、一曩謨達磨引野、二曩謨僧去聲伽去聲野、三怛儞也二合他、去聲引四護護護護護護、五曩誡嚩嚩、六努鼻上聲麼嚩嚩、七護野護野、入尾惹野尾惹野、九度蘇度蘇、十甕嚕甕嚕、十一曀攞謎攞、十二底哩謎攞、十三伊上聲哩蜜怛嚩、二合引十四底里蜜怛嚩、二合引十五伊上聲哩底哩蜜怛嚩、二合十六努鼻謎(二)努謎、十七蘇努鼻謎、十八妬引蘇帝、十九遇引攞引吠攞、二十左跛攞、二十一尾麼攞、二十二伊上置哩、二十三毗置哩、二十四伊哩置哩、二十五尾置哩、二十六曩謨窣覩二合沒馱引南、二十七唧哩枳粲、二十八遇引努嗎迦、引二十九曩謨囉曷二合耽、三十護引囉娜引囉、三十一鑁囉灑二合覩禰鑁、三十二三滿去帝曩、三十三捺拾蘇你舍引蘇、三十四曩謨母馱引南、三十五娑嚩二合賀引三十六

阿難陀、彼の金曜孔雀王、忽ちに一時に於いて此の佛母大孔雀明王陀羅尼を誦するを忘れて、遂に衆多の孔雀婇女と與に、林より林に至り、山より山に至りて遊戲を爲し、貪欲愛着放逸にして昏迷して山穴の中に入り捕獵す、怨家其の便を伺求し、遂に烏網を以て孔雀王を縛す、縛せらるゝ時本正念を憶し、前の如く佛母大孔雀明王陀羅尼を誦するに、繫縛せらるゝ所於り自然に解脫し、眷屬安隱にして本住處に至りき。復た此の明王陀羅尼を說いて曰く　曩謨母馱引野、一曩謨達磨引野、二曩謨僧去聲伽去聲引野、三曩謨蘇上聲嚩無鉢の反囉拏、二合引四嚩婆引薩寫、五麼庾引囉、囉引枳孃、二合六曩謨、摩賀麼引庾哩曳、二合七尾你也二合囉枳惹、二合八怛你也二合佗、引九悉第悉第、十蘇悉第、十一謨左顎、十二謨刹扼、十三目訖帝、二合十四尾目訖帝二合十五阿麼黎、十六尾麼黎、十七顎寧逸の切麼黎、十八曹誐黎、十九呬嚩孃蘖陛、二十囉怛曩二合蘖陛、二十一跋捺嚩、二合十二蘇跋捺嚩、二合二三滿多跋捺嚩、二合二十四薩嚩引囉佗二合娑引馱顎、二十五跋囉沫引佗娑引馱顎、二十六薩嚩引囉佗二合鉢囉二合嚩引馱上顎、二十七薩嚩曹誐囉娑去聲馱上顎、二十八麼曩粲、二十九麼曩粲、三十摩賀麼引曩粲、三十一曷步帝、三十二頞底也納部二合帝、三十三頞卒子律の切帝、三十四阿上聲惹嚩、二合三十五尾惹嚩、三十六尾麼黎、三十七阿上聲蜜哩二合帝、三十八阿上聲麼嚩、三十九阿上聲麼囉扼、四十沒囉二合憾謎、二合四十一沒囉二合憾麼二合娑嚩二合嚩、四十二布囉儞、二合四十三布囉拏、二合麼努引鼻囉剎、四十四(一)阿蜜哩二合多散唅引嚩顎、四十五室哩二合引跋捺嚩二合戰捺嚩、二合四十六戰捺囉二合鉢囉二合陛、四十七素哩曳、二合四十八素哩

(一)阿　淨本によつて加ふ。

(一)鑑の上に、淨本に、我名某甲并諸眷屬の所願求願滿し、常に擁護なし壽命百歲にして百秋を見ることを得んと。

(二)顯　和本になし。

(三)屈　和本に短に作る。

也、二合　建引帝、四十九　味多婆曳、五十　蘇鞞顎、五十一　沒囉二合　憾麼二合　具引魔、二合　沒囉二合　憾麼二合　乳入聲　瑟瑟、二合　五十三　薩嚩怛囉、二合　五十四　鉢囉二合　底賀帝、五十五　娑嚩二合引　賀、引五十六　那莫、薩嚩沒馱引喃、五十七　娑嚩二合　娑底二合　麼麼(一)曩五十八　誐寫(二)顎、颯跛　哩嚩引　囉寫五十九　囉乞產二合(三)屈挽引　覩、六十　唭嚩覩、六十一　鞞囉灑、二合　設單、鉢扇　覩、六十二　設囉難引　設單、六十三　護呰、六十四　襄呰、具上呰歇呰、六十五　娑嚩二合引　賀、引六十六

佛、阿難陀に告げたまはく、往昔の金曜孔雀王は豈に異人ならんや、即ち我が身是れなり、我今復た佛母大孔雀明王心陀羅尼を說いて曰く　怛你也二合　佗、去聲引一伊上　底蜜底、二　底哩蜜底、三　底哩弭里蜜底、四　底黎比、五　弭哩、六　弭哩底弭、七　底哩弭哩、八　蘇上頓嚩引　頓嚩、引九　蘇上聲　嚩左、十　唧哩枳枲野、十一　牝那謎膩、十二　曩謨沒馱引南、十三　唧羯枲、鉢囉二合引　多慕黎、十四　壹底賀嚧、十五　嚩引　嗢多慕黎、十六　膽嚩、十七　暗嚩、十八　俱置、十九　矩曩置、二十　底囉君去聲　左曩道、二十一　阿拏嚩引　多上聲引　野、二十二　韈囉灑二合　覩禰務、二十三　曩嚩麼引　娑、去聲二十四　娜捨麼引　細底、二十五　壹底弭哩、二十六　枳哩弭哩、二十七　計攞弭哩、二十八　計覩母黎、二十九　努努鼻迷、蘇努謎爛、三十　娜哩謎、三十一　散覩韈瑟、二十二　母娑韈瑟、三十三　母薩嚩、母薩嚩、三十四　噎拏嚩の切　窟多二合　囉計、捺迦攞、三十五　曩迦哩謎、三十六　佉上聲　囉麼囉、三十七　企黎壹底、三十八　薩惹自囉の反　黎三十九(一)頓吠、四十　覩頓鼻吠、四十一　頞曩瑟、四十二　鉢囉二合　曩瑟、二合　四十三　頞拏捺齡、四十四　韈囉灑二合　覩禰務、曩謨娜計曩、四十五　散怛齲妬、引四十六　三滿帝曩、四十七　曩引囉引野扼、四十八　播引(二)囉引野扼、四十九　賀哩多上聲引哩、五十　君上聲　多上聲引哩、五十一　伊上聲　哩蜜窟底、二合　五十二　吉底哩蜜窟底二合　五十三　伊上聲　哩謎、引悉鈿覩、五十四　捺囉二合引　弭拏、引五十五　曼怛囉二合　跛諾、引娑嚩二合引　賀引五十六

(一)頓　和本に覩に作る。

(二)引　和本になし。

(三)合死云云　罪に及ぶ可きを以て打たれて死なんを免るる等なり、杖は是れ罰物なり。

阿難陀、此の佛母大孔雀明王心陀羅尼は、若し復た人ありて聚落に入らんと欲するに應當に憶念すべし、曠野中に於て亦た憶念すべし、道路中に在りても亦た常に憶念し、或は非道路中にありても亦た憶念すべし、王宮に入る時憶念し、劫賊に逢ふ時憶念し、鬪諍の時憶念し、水火難の時憶念し、怨敵に會する時憶念し、大衆中の時憶念し、或は蛇蠍等に螫さるゝ時憶念し、毒のために中てらるゝ時憶念し、及び諸の怖畏の時憶念し、風黃痰癊の時憶念し、或は三集病の時憶念し、或は四百四病一一の病生ずる時憶念し、若しは苦惱至る時みな當さに憶念すべし、何を以ての故に、若し復た人ありて(一)合死すべき罪をば、罰物を以て脫することを得、罰せらるゝ應合ば、輕杖を以て脫

することを得、輕杖なる應合ば罵せられて脫することを得、罵せらる應合ば訶責せられて脫することを得、訶責せらる應合ば戰悚(シヨウ)して脫することを得、戰悚す應合ば自然に解脫し、一切の憂惱悉くみな消散せん。阿難陀、此の佛母大孔雀明王眞言は一切如來同じく共に宣說したまふ、常に當さに受持すべし、自ら名を稱へ已て加護を請求す、願くは我某甲(此に諸の眷屬を)攝受して諸の怖畏を除き、刀杖枷鎖をもて苦難するの時、願くは皆な解脫し、常に利益に逢ふて災危に値はず、壽命百歲にして百秋を見ることを得。

阿難陀、若し人天魔梵沙門婆羅門等あつて、此の佛母大孔雀明王陀羅尼を讀誦し受持して、其の地界を結し方隅界を結し、加護を請求して一心に受持せば、我れ天龍鬼神の能く惱害をなすことあるを見ず、所謂る天及び天婦・天男・天女及び父母並に諸の朋屬、是の如き等の類能く害をなすことなし、若しは龍・龍婦・龍男・龍女・及び龍の父母並に諸の朋屬、亦た害をなすこと能はず、若しは阿蘇羅及び婦・男女・父母・女屬等 害をなす能はず、若しは麽嚕多及び婦・男女父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは謙嚕拏及び婦・男女父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは迦樓羅及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは緊那羅及び婦男女・父母・朋屬等も害をなす能はず、若しは摩護囉誐及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは蘖叉及び婦男女・父母・朋屬等も害をなす能はず、若しは畢嚕多及び婦男女父母・朋屬等も害をなす能はず、若しは囉刹娑及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは步多及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは矩畔拏及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは布單那及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは羯吒布單那及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは塞建那及び婦男女・父母・朋屬等も害をなす能はず、若しは嗢麽那及び婦男女・父母・朋屬も亦た害をなす能はず、若しは車耶及び婦男女・父母・朋屬等も害をなす能はず、若しは阿鉢娑麽囉及び婦男女・父母・朋屬等も亦た害をなす能はず、若しは塢娑跢囉迦及び婦男女・父母・朋屬等もみな害をなす能はず、是の如き等の天・龍・藥叉及び諸の鬼神、所有る親眷朋屬等、惡心を發起して人の便を伺求し、諸の障難を作さば、此等の天・龍・鬼神、惡心を起すと雖、此の經を持する者を惱亂すること能はず、何を以ての故に、常に佛母明王陀羅尼を受持するに由るが故に。此等の天・龍・鬼神惱害をなさば、若し本處に還り彼の類、衆に入るこ

とを容さず、若し此の佛母明王眞言に違して界法を越ゆるあらば、頭破れて七分と作り、猶如し蘭香の稍のごとし（梵に(一)遏爾迦曼折哩といふ、是の蘭香の稍頭を舊には阿梨樹枝といふは訛なり、西方に元と阿梨樹なし。）

復た次に阿難陀、又た明王陀羅尼あり、汝當さに受持すべし、即ち明を說いて曰く

怛你也二合 佗去聲引一 伊上聲 哩弭哩、二 緊耨(二)契 目訖帝、三 二合蘇上 目訖帝、四 二合阿去聲引 拏 曩引拏、五 蘇上 曩引拏、六 韈囉灑二合 覩禰舞、引七 跛囉摩拏韈跢上聲引 焰、引八 阿去聲引 羅引 播引囉引(三)九 遇引 怒引(四)九 四迦、引十 伊上聲 哩弭哩十一 牡頻逸の切 爾哩迦、引十二 嗢努迦、引十三 嗢(五)嫩努迦、引十四 伊上聲 哩弭哩、十五 底哩弭哩、十六 三滿怛多、入聲 訖嚩二合 怛嚩二合引十七 護 嚕護嚕、十八 四哩四哩、十九 弭哩弭哩、二十 枳哩枳哩、二十一 室哩引二合 灑引 拏、二十二 沒哩二合 衫、二十三 畝嚕畝嚕、二十四 左攞左攞、二十五 唧哩唧哩、二十六 祖嚕祖嚕、二十七 尾置尾置、二十八 式棄式棄、二十九 壹置尾置、三十 式棄式棄、三十一 護祖去聲 祖 三十二 護祖護祖、三十三 護祖護祖、四三十 護祖護祖、三十五 護祖護祖、三十六 賀囉賀囉三十七 賀囉抳、引三十八 染陛、引三十九 鉢囉二合 染陛、引四十 薩嚩訥瑟吒、二合四十一 麼努瑟鷄、二合引四十二 染陛引 弭、四十三 麼麼、四十四 颯跛哩嚩引 囉寫、四十五 囉吃創、二合引 屈挽覩、迦嚕引 弭、四十六 唹嚩都、四十七 韈囉灑二合 設單、四十八 鉢捨都設囉腩引 設單、四十九 虞吳底孕二合 跛哩怛囉二合 喃、五十 跛哩乞囉二合 慽、五十一 跛哩播引 攞腩、五十二 扇引底孕、二合五十三 娑嚩二合 窟底也二合 野南、四五十 難上聲 拏跛哩賀引 覽、彈舌呼五十五 尾灑努灑喃、五十六 尾灑蘖引 捨難、五十七 泉去聲引 麼引 曼鄧、五十八 馱囉抳引 曼蕩左、迦嚕引 弭、五十九 唧怛嚩、二合引 六十 唧怛囉二合 麼嚩、一六十 賀黎、六十二 攞麼黎、六十三 頗黎、六十四 頗攞麼黎、六十五 鷄嚩鷄嚩、六十六 佉上聲 囉嚩嚩抳、六十七 味引 嚩、引六十八 瞪曳、引六十九 阿上聲 嚩麼嚩、七十 一切の毒と、七十一 及び惡心を起す者と七十二 根毒と牙齒の毒と、七十三 飲食の中の諸毒とを滅除す七十四願くは佛威光を以て七十五 毒害苦を滅除し七十六素嚩素嚩計、七十七嚩囉嚩囉計、七十八韈囉韈囉計七十九尾哩哩哩八十一 切の毒消(一)滅し八十二願くは相ひ侵害する勿れ八十三七佛諸の世尊八十四及び聲聞衆との八十五威光諸毒を滅す、八十六 曀攞引謎攞、八十七 壹哩謎攞引八十八 底哩底哩謎攞、引八十九 底賀努賀、九十 尾麼引 弩麼引、引九十一 曀蘇上聲 努鼻嚩、引九十二 逕嚩、引九十三 頓嚩、引九十四 三麼頓嚩、引九十五 阿去聲引 嬭曩引 嬭、九十六 矩攞矩(二)攞曩嬭、九十七 嚩囉灑二合 覩禰嚩、無博の切 伊上聲 枳采、九十八 三曼帝曩、一百 曩嚩麼引 娑去聲引一百一 娜娑麼引 娑、引一百二 味怛哩引二合謎、一百三 薩嚩薩怛吠二合引 數、一百四 畝薩嬭、一百五 畝娜引 哩抳、一百六 計嚩摘計、一百七 嚩吒迦嘉隸、一百八 伊上聲 底攝嚩囉、一百九 頓鼻吠引 覩頓吠、引一百十 畢哩二合 孕迦囉、一百十一

(一) 遏爾迦云云 淨本に曰ふ、類社迦は闍香なり、曼折利は稍頭なり。

(二) 契 和本に結弟に作る。

(三) 九 和本にない。

(四) 九 和本にあり。

(五) 嫩 正しくは懦（奴困の切）に作る。

(一) 滅 和本に除に作る。

(二) 攞 和本に頗に作る。

(三) 頓吠云云 和本には、覩吠覩吠と云ひ、淨本には耽鞞耽鞞といふ。

阿去聲引 罐蘇、一百十二 跋哩罐蘇、一百十三 那舞引那計引曩、一百十四 嚩囉灑二合 覩禰引舞、引一百十五 曩謨引婆誐嚩妬、此處に至て所有る求願懇勲に稱說す應可し。印捺囉二合 遇引跋菜迦引野、一百十六 壹賀吒引野、一百十七 遇引怒引咽迦引野、二百十八 勃嚧二合 誐引哩迦引野、一百十九 阿黎多黎、一百二十 君去聲多黎、一百二十一 阿去聲引 拾顎、一百二十二 播引 拾顎、一百二十三 播引 跋顎矩黎、一百二十四 曩謨引婆去聲誐囉跢引 唵一百廿五 悉細覩滿怛囉二合 鉢娜引 娑罐二合引 賀引一百二十六

(一) 毗鉢尸如來 無憂樹下に坐し 尸棄佛世尊 奔陀利に依止す

毗舍浮如來 娑羅林に住在し 拘留孫如來 尸利沙樹下

羯諸迦大師は 烏曇(二)跋羅樹 迦攝波善逝は 尼俱陀樹下

釋迦牟尼佛 聖種憍答摩は 菩提樹に坐して 無上正覺を證す

是等の諸の世尊は 皆大威德を具したまふ 諸天廣く供養し 咸く敬信の心を生ず

一切諸の鬼神 みな歡喜の念を生じ 我れ常に安隱にして 衰厄を遠離せしめたまふ

七佛世尊の說きたまふ所の明に曰く 怛你也二合 佗、去聲引一 壹哩弭哩、二 枳哩尾哩、三 計引哩嚩哩、四 嗢努囉、引五 蘇努謨引禰、引六 慕引薩囉、七 護護、八 迦囉劑、九 迦囉惹母引嚩、十 壹底捨嚩跢、引十一 矩覩哩、十二 曩引囉引野捉、引十三 跋捨顎、十四 跋捨跋捨顎、十五 劫比囉嚩窣覩、二合十六 伊上聲哩嚩、引悉鉗覩、十七 捺囉二合引弭拏、引十八 滿怛囉二合 跋娜、引娑罐二合引賀引十九

復た次に阿難陀、大藥(一)叉の名あり、是れ索訶世界主大梵天王・天帝釋・四大天王・(二)二十八大藥叉將、共に宣說したまふ所、若し是の如きの大藥叉の名を受持するものあらば、設ひ鬼神ありて惡心を發起し、相ひ惱亂せんと欲せば、頭破れて七分と作り、猶如し蘭香蒔のごとし、即ち藥叉の名を說いて曰く、

怛你也二合 佗、去聲引一 吉引底、丁以の切 慕嚩、提嚩慕嚩、二三滿多慕嚩、三 阿去聲引 嬭曩引 嬭四 矩薩曩引 嬭、五 伊上聲 帝弭帝、六 播嚕、七 阿嚕拏句、引入 麼嚕拏句、九 伊上聲 哩枳哩(三)唧哩尾哩、十 遇引努引 唎迦、十一 嗢鈍度麼引十二 牝娜吠拏引十三

願くは二足吉祥 四足も亦た吉祥 行路中吉祥 廻還も亦た吉祥

願くは夜中吉祥 晝日も亦た吉祥 一切處吉祥にして 諸の罪惡に値ふこと勿れ

(一) 毗鉢云云 以下は七佛の菩提樹を說く文なり。

(二) 跋 和本に跛に作る。

(一) 叉 和本になし。

(二) 二十八云云 業衣觀音の法の二十八大夜叉と同じ

(三) 唧哩 和本になし。

(一) 煩惱。

(二) 讀誦云云　此の經法を行ずる時、讀經の次第あり、大阿闍梨散念誦の一字の前に立座しつき、伴僧と共に之を讀む平座につき、開白の初夜と後夜と同く上卷を讀み夫より次に中下を讀み、中日の日中に中卷、結願の時に下卷を讀むなり此の初中後か取り合せて一部となす

(三) 「此の乃至讀誦するに」の一句淨本、和本になし。

(四) 阿拏挽多　淨本に阿宅迦伐多といふ、毗沙門なり。

一切の日みな善　一切の宿みな賢　諸佛みな威德あり　羅漢みな(一)漏を斷じ

斯の誠實の言を以て　願くは我れ常に吉祥ならんことを。

阿難陀、若し此の大明王經を(二)讀誦する時、是の如きの語を作さく、此の大孔雀明王佛の宣說する所なり、願くは神力を以て常に我を擁護し、饒益攝受して爲めに歸依と作り、寂靜吉祥にして諸の災患なし、刀杖・毒藥も相ひ侵損勿し、我れ今法に依て其の地界を結し方隅界を結して、(三)此の經を讃誦するに、諸の憂惱を除いて壽命百歲にして願くは百秋に度らん、復た次に阿難陀、大藥叉王及び諸の藥叉將あり、大海邊に住し、妙高山及び餘の諸山に住し、或は曠野に居し、或は諸河、川澤、陂池、屍林坎窟、村巷四衢・園苑林樹に住し、或は餘處に居す、大藥叉あり(四)阿拏挽多大王都處に住す、是の如く等の衆咸な願はくは、此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て我某甲　幷に諸の眷屬を擁護し、壽命百歲にして、願はくは百秋を見んことを。陀羅尼に曰く　怛你也二合佗、去聲一賀哩賀哩抳、二賀引哩抳、三左哩佐引哩顎、四怛囉二合引跋抳、五謨引賀顎、六娑擔二合婆去聲顎、七染婆顎、入娑囉二合演僕、引九娑囉二合引賀引十

復た次に阿難陀、此の東方に於て大天王あり、名けて持國と曰ふ、是れ彥達囉の主なり、無量百千の彥達囉を以て眷屬となし、東方を守護す、彼に子孫・兄弟・軍將・大臣・雜使あり、是の如き等の衆、彼も亦た此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て我某甲　並に諸の眷屬を擁護し、ために憂惱を除き、壽命百歲にして百秋を見んことを。陀羅尼に曰く　怛你也二合佗、一蘖蘖嚕、二蘖蘖嚕、三蘖蘖嚕、四蘖蘖引嚕、五蘖蘖引嚕、六蘖引嚕蘖引嚕、蘖引嚕謎、娑囉二合引賀引七

復た次に阿難陀、此の南方に於て大天王あり、名けて增長と曰ふ、是れ矩畔拏主、無量百千の矩畔拏を以て眷屬となし、南方を守護す、彼に子孫・兄弟・軍將・大臣・雜使あり、是の如き等の衆、彼れ亦た此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て我某甲　並に諸の眷屬を擁護し、爲めに憂惱を除き、壽命百歲にして願くは百秋を見んことを。陀羅尼に曰く　怛你也二合佗、一吠嚕計吠嚕計、二阿上蜜怛囉、二合伽去聲引多上聲顎、三嚩嚕拏囉底、四吠努弊引麼引里顎、五吠哩顎、六補怛哩二合計、七祖去聲祖唧引十娑囉二合引賀引八

復た次に阿難陀、此の西方に於て大天王あり、名けて廣目と名く、是れ大龍主なり、無量百千の諸龍を以て眷屬となし西方を守護す、彼に子孫・兄弟・軍將・大臣・雜使あり、是の如き等の衆、彼も亦た此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て我某甲　並に諸の眷

屬を擁護し、ために憂惱を除き、壽命百歳にして願くは百秋を見んことを。陀羅尼に曰く　但你也二合 佗、一 吠努哩吠努哩、二 麼置帝麼置帝、三 句引 胝 句引 胝、四 尾你庾二合 麼底、五 護護護護、護護護護、六 護嚕護嚕、護嚕護嚕、護嚕護嚕、護嚕護嚕、七 祖祖祖祖、祖祖祖祖、八 左左左左、左左左左、嚧(一)謎娑嚩二合引 賀九

復た次に阿難陀、此の北方に於て大天王あり、名けて多聞と曰ふ、是の藥叉王、無量百千の藥叉を以て眷屬となし北方を守護す、彼れに子孫・兄弟・軍將・大臣・雜使あり、是の如き等の衆、彼も亦た此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て我某甲 並に諸の眷屬を擁護してために憂惱を除き、壽命百歳にして願くは百秋を見んことを。陀羅尼に曰く　怛儞也二合 佗、引一 素引 哩素引 哩、二 施哩施哩、三 麼底賀哩、四 賀哩麼底、五 迦哩哩、六 賀哩哩、七 閉嚕閉嚕、八 冰誐黎、九 祖嚕祖嚕、十 鈍度麼底、十一 賀單尾衫十二鈍度引 麼底、娑嚩二合引 賀十三

東方を持國と名け　南方を增長と號し　西方を(二)廣目と名け　北方は多聞天なり

此の四大天王　世を護るに名稱あり　四方常に擁護し　大軍あて威德を具す

(一) 謎　和本になし。

(二) 廣　和本惡に作る。

外怨を悉く降伏して　他敵も侵す能はず　神力に光明あり　常に諸の恐怖なし

天と阿蘇羅と　或る時は共に鬪戰するに　此等も亦た相助けて　天勝て安穩ならしむ

是の如き等の大衆　亦た此の明王を以て　我並に眷屬を護り　病なうして壽百歳ならしむ。

陀羅尼に曰く　怛儞也二合佗、一 曀燄謎燄、二 底哩謎燄、三 嚩引 勢努鼻吠、努努鼻吠、四 若し祈雨の時は應さに、願くは天降雨したまへといふべし。 若し農災祈願の時は某甲他に諸の眷屬の所求を滿願したまへといふべし 哩五 弭哩、六 頓吠覩頓吠、七 頰燄嚩燄、八 跛羅麼努嚩燄、九 韈囉灑二合 覩禰務十 誐嚕彦跢引上野、十一 頓嬭覩頓嬭、十二 鏃計穆計、十三 伊哩膩、十四 弭哩膩、十五 哩四哩四黎、十六 護嚕護黎、十七 哩哩弭哩、十八 覩黎多嚕哩娑嚩二合引 賀十九

校譌

第十二紙第六行集南藏に作る。　第十三紙第一行屬の下、南藏亦の字なし。　第十七紙第七行主の下、南藏大の字なし。

音釋

蘖魚傑の切 磅莫盛の切 晦普閑の切 嶍魚偃の切 跳他弔の切、羅なり 慕莫白の切、越なり 頰古協の切、面旁なり 嬭女鼎の切 謎莫計の切 顎乃挺の切 颯蘇合の切 陀陟駕の切

の切 闊阻立切 呰蔣几切 嬰魚矩切 孃女良切 陛傍禮切 憾胡紺切 曬所戒切 蹂竹皆切 呆胥里切 嚬音は鷗丘禹切 蓿竹交切 訛五禾切 牝吡忍切 鴆或の劑在詣切 鏃作木切

國譯佛母大孔雀明王經卷上 終

國譯佛母大孔雀明王經卷中

唐特進試鴻臚卿開府儀同三司蕭國公贈司空諸大辯
正廣智大興善寺三藏沙門不空　詔を奉じて譯す

佛、阿難陀に告げたまはく、汝當さに大藥叉王及び諸の大藥叉將の名字を稱念すべし、所謂る

矩吠(クベイラ)囉の長子を　名けて珊逝(サンゼイヤ)耶と曰ふ　常に人を乘御して　弭擬(イチヲ)羅の國に住す

天の誠實の威を以て　衆みな從て願を乞ふ。

彼も亦た此の佛母大孔雀明王眞言を以て、我某甲　並に諸の眷屬を擁護して爲めに憂惱を除き、壽命百歲にして百秋を見んことを。即ち眞言を說いて曰く　怛儞也二合 佗、一 嚩黎、二 嚩勒迦二合 囉、三 摩引 證倪、四 戰拏引上聲 哩、五 補嚕灑抳、六 尾唧哩顰、七 遇引 哩、彥馱引 哩、八 摩引 證倪、九 戰拏上聲引 哩、十 麽引 哩顰、十一 哂哩哂哩十二 阿去聲 蘖底(ギヤティ)蘖底、十三 彥馱引 哩十四 句引 瑟恥(シユツト)二合十五 迦引 嚩引 哩十六 尾賀引 顰哂哩劒謎十七 娑嚩

(一)阿跋囉咯多無能勝なり。

(二)住　和本に住在すに作る。

(三)可畏形藥叉是は一種の藥叉の別名なり。

二合引賀引十八。

羯句忖那神は　波吒梨子處にあり　(一)阿跋囉咯多は　窣吐奴邑に住す

賢善大藥叉は　世羅城に住す　摩那婆大神は　常に北界に居す

大聖金剛手は　王舍城に住居して　常に鷲峰山に在はして　以て依止處となす

大神金翅鳥は　毗富囉山に住す　質怛囉笈多は　質底目溪に住す

薄俱羅藥叉は　王舍城に住して　營從並に眷屬は　大威神力あり

大小黑藥叉は　劫比羅城に住す　是れ釋族牟尼　大師所生の處なり

斑足大藥叉は　吠囉耶城に住す　摩醯首藥叉は　止羅多國に住す

勿賀婆鉢底は　舍衛城に住す　娑蘖囉藥叉は　娑鷄多處に住す

金剛杖藥叉は　毗舍離國に住す　訶里冰蘖囉は　力士城中に住す

大黑藥叉王は　婆羅拏斯國にあり　藥叉は善現と名く　占波城に住す

吠史怒藥叉は　墮羅國に住在す　馱羅扼藥叉は　護門國に(二)住す

(三)可畏形藥叉は　銅色國に住す　末達那藥叉は　烏洛迦城に住す

阿吒薄俱將は　曠野林中に住す　劫比羅藥叉は　多稻城に住す

護世大藥叉は　嗢近尼國に住す　韈蘇步底神は　阿羅拽底國にあり

水天藥叉神は　婆盧羯泚國にあり　歡喜大藥叉は　歡喜城に住す

持鬘藥叉神は　勝水國に住在す　阿難陀藥叉は　末囉鉢吒國にあり

白牙齒藥叉は　勝妙城に住す　堅固名藥叉は　末娑底國に住す

大山藥叉王は　山城處に住在す　婆颯婆藥叉は　吠儞勢に住居す

羯底鷄藥叉は　嚧呬多國に住す　此の藥叉童子は　名聞の大城に於てす

百臂大藥叉は　頻陀山に(二)住す　廣車藥叉神は　羯陵伽國に住す

能征戰藥叉は　寂鹿近那國にあり　雄猛大藥叉は　遏祖那林に住す

曼拏波藥叉は　末達那國に住す　山峰藥叉神は　摩臘婆に住す

嚕捺囉藥叉は　嚧呬多馬邑にあり　一切食藥叉は　奢羯羅に住す

波唎得迦神は　少智洛鷄に住す　商主と財自在とは　難勝國に住在す

峯牙及び世賢は　跋娑底耶國に　尸婆藥叉王は　尸婆城に(三)住食す

寂靜賢藥叉は　可畏國に住在す　因陀囉藥叉は　因陀囉國に住す

華幢藥叉主は　寂靜城に住す　那嚕迦藥叉は　那嚕迦城に住す

(一)住　和本は住在に作る。

(二)住食す唯住のみにあらず、其處を領して居るなり。

劫比囉藥叉は　常に邑城に在て住す　寶賢と及び滿賢とは　梵摩伐底に住す
能摧他藥叉は　健陀囉國に住す　能壞大藥叉は　得叉尸羅に住す
(一)驢皮藥叉神は　吐山に在て住す　三密藥叉主は　阿努波河の側にあり
發光明藥叉は　嚕鹿迦城に住す　(二)喜長藥叉神は　嗢隅摧國に住す
婆以盧藥叉は　婆以地に住居す　愛鬪諍藥叉は　濫波國に住在す
蘖踏婆藥叉は　末土羅城に住す　緋腹藥叉王は　楞伽城に住在す
日光明藥叉は　蘇那國に住在す　(三)屹頭山藥叉は　憍薩羅國に住す
勝及大勝神は　半尼國に住在す　(四)圓滿大藥叉は　末羅耶國に住す
緊那囉藥叉は　計羅多國に住す　護雲藥叉王は　伴拏國に住在す
(五)安立國に住在す　僧伽離藥叉は　必登蘖哩に住す
寒拏迦藥叉は　(六)怛楞蘖底に住す　孫陀囉藥叉は　那斯雞國に住す
引樂藥叉神は　阿僧伽藥叉は　難儞大藥叉と　及び子の難儞迦と
此の二藥叉神は　婆盧羯車に住す　羯訶吒迦に住す　垂腹大藥叉は　羯陵迦國に住す
大臂藥叉王は　憍薩羅國に住す　娑悉底迦神は　娑底羯吒國にあり

(一)驢皮云云　羅嚕窣鉢のこと。
(二)喜長云云　提跋達那のこと。
(三)屹　音は兀、禿山の貌なり。
(四)圓滿云云　嚕拏。
(五)安立國　鉢底悉佗。
(六)怛楞蘖底　大波國。

波洛迦藥叉は　常に林中に在て住す　賢耳大藥叉は　怛胝肩國に住す
勝財藥叉神は　陸滿國に住居す　毗囉莫迦に住す　氣力大藥叉は
喜見藥叉神は　阿般底國に住す　尸寒駄藥叉は　牛摧國に住在す
愛合掌藥叉は　吠爾勢に住居す　陛瑟致得迦は　蓋形國に住在す
(一)調摩竭藥叉は　三層國に住居す　廣目藥叉神は　一腋國に住居す
安拏婆藥叉は　優曇跋囉國にあり　無功用藥叉は　憍閃彌國に住す
微嚧者那神は　寂靜意城に住す　遮羅底迦神は　蛇蓋國に住居す
赤黃色藥叉は　劒畢離國に住す　薄俱囉藥叉は　嗢逝訶那に住す
布喇拏藥叉は　曼拏比國に住す　顎迦謎沙神は　半遮離城に住す
難摧大藥叉は　蘖度娑國に住す　堅頰藥叉神は　水天國に住在す
脯闍逝野神は　闘戰國に住在す　怛洛迦藥叉と　及び俱怛洛迦との
二りの大藥叉王は　俱盧土に住在す　大烏嚧佉羅と　及與び迷佉羅と
此の二りの藥叉女と　威德具名稱と　並に諸眷屬とは　亦た俱盧土に住す
徽帝播底神と　及以び義成就と　此の二りの藥叉王は　阿曳底林に住す

(一)調摩竭云云　莫鳥嚧誘醯。

(一)佗勝云云　脚間逝也國なり。

(二)堅實城　婆羅城。

往成就藥叉は　窣鹿近那に住す　窣吐羅藥叉は　窣吐羅國に住す
虎力と師子力と　並に大師子力と　俱胝年大將とは　(一)佗勝宮中に住す
華齒藥叉神は　占波城に住在す　摩竭陀藥叉は　山行處に住在す
鉢跋多藥叉は　瞿瑜伽處に住す　蘇嚧那藥叉は　那羅國に住す
勇臂大藥叉は　娑鷄多邑に住す　能引樂藥叉は　哥乾底に住在す
無勞倦藥叉は　憍閃彌國に住す　賢善藥叉神は　賢善國に住す
步多面藥叉は　波吒離子に住す　無憂大藥叉は　迦遮國に住在す
羯徵羯吒神は　菴婆瑟佗に住す　成就義藥叉は　天腋國に住在す
曼那迦藥叉は　難勝國に住在す　解髮藥叉神は　勝水國に住居す
寶林藥叉神は　先陀婆國に住す　常護護藥叉は　劫毗羅國に住す
羯吒微羯吒は　迦毗羅衞國にあり　慳恪藥叉神は　乾陀羅國に住す
墮羅藥叉神は　膩擺耶肩に住す　處中藥叉神は　賢善名稱に住す
吠瑠璃藥叉は　(二)堅實城中に住す　染薄迦藥叉は　沙磧地に住居す
舍多大藥叉と　及以び毗羯吒と　此の二りの藥叉神は　物那擿迦に住す

(一)跋勒　佉沙國なり。

(二)毗沙云云　勝頞里沙婆といふ。

(三)師子國　私訶羅。

毗摩尼迦神は　提婆設摩に住す　曼陀羅藥叉は　捺羅那國に住す
作光藥叉神は　羯濕彌羅國にあり　占博迦藥叉は　羯吒城に在りて住す
半支迦藥叉は　羯濕彌羅際にあり　五百子を具足し　大軍・大力あり
長子を肩目と名く　支那國に住在す　諸餘の兄弟等は　憍尸迦國に住す
牙足藥叉神は　羯陵伽國に住す　曼荼羅藥叉は　曼荼羅處に住す
摩伽自在神は　迦畢試に住す　摩利支藥叉は　羅摩脚蹉に住す
達磨波羅神は　(一)跋勒に住在す　大肩藥叉神は　薄佉羅國に住す
(二)毗沙門王の子は　衆德威光を具して　觀火羅に住在す　大軍大力あり
一俱胝藥叉は　而も其の眷屬たり　娑多山藥叉　及以び雪山神
此の二りの大藥叉は　辛都河の側に住す　執三戟藥叉は　三層殿に住在す
能摧大藥叉は　羯陵伽國に住す　半遮羅嚩拏は　達彌拏國に住す
財自在藥叉は　(三)師子國に住在す　鸚鵡口藥叉は　曠野處に住す
兢羯娑藥叉は　常に地下に依て住す　有光明藥叉は　白蓮華國に住す
設弭羅藥叉は　大城中に於て住す　能被佗藥叉は　捺羅泥國に住す

冰蘖羅藥叉は　菴末離國に住す　末末拏藥叉は　末末拏藏國にあり
摩但哩藥叉は　(一)施欲國に住す　極覺神藥叉は　布底嚩吒國にあり
那吒矩羯囉(ナタバラ)は　(一)迦畢試に住す　鉢羅設囉神は　鉢羅多國に住す
商羯囉藥叉は　爍迦處に住す　毗摩質多羅は　莫里迦城に住す
冰羯囉藥叉は　羯得迦國に住す　滿而藥叉王は　奔拏羯達那にあり
羯囉羅藥叉は　烏長(ウチヤウ)國に住す　甕腹藥叉神は　(二)憍薩羅國に住す
摩竭幢大神は　沙磧處に住居す　質怛囉細那は　僕迦那國に住す
囉嚩拏(アラバダ)藥叉は　羅摩陀(アラマダ)國に住す　赤黃色藥叉は　羅尸那(アラシナ)國に住す
樂見藥叉神は　鉢尼耶國に住す　金毗囉藥叉は　王舍城に住す
常に毗富羅に居す　大軍大力あり　萬俱胝の藥叉を　而も其の眷屬となす
瞿波羅藥叉は　蛇蓋國に住す　頻洛迦藥叉は　頻洛迦(ラクキヤ)城に住す
難提(ナンダイ)藥叉神は　難提國に住す　(四)末里(バツリ)大天神は　村巷處に住在す
毗沙門は　佛寶(ほうけ)堵より下りたまふ處と　遏拏挽多(アタバンタ)城とに居住して　億衆の神圍繞す

(一)施欲國　迦末睇。
(二)迦畢試　罽賓なり、此には殷種といふ。
(三)憍薩羅國　孤詞羅國。
(四)末里大天神　跋里悉體多。

是の如き等の藥叉は　大軍大力ありて　他の怨敵を降伏するに　能く勝つ者あることなし
名稱諸方に滿ち　大威德を具足し　天と阿修羅と　戰ふ時には力を相助く。
此等の福德諸神●大藥叉將は贍部洲に徧うして佛法を護持し、咸く慈心を起す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王眞言を以て、常に我某甲を擁護し攝受し饒益して安隱なることを得しめ、所有る厄難みな悉く消除す、或は刀杖のために損傷し、或は毒に中てられ、王賊水火に逼惱せられ、或は天龍藥叉のために持せられ、及び諸の鬼等乃至畢隷索迦(ヒツレイサクキヤ)の、惡病を行せば、みな我某甲並に諸の眷屬を遠離し、我れ地界を結し方隅界を結し、此の經を讀誦せば、諸の憂惱を除き、壽命百歲にして願くは百秋を見んことを。即ち眞言を說いて曰く　但你也二合　佗一　阿上聲　迦醯二　尾迦醯三　訶哩抳四　賀引哩抳五　駄引囉抳、駄引囉抳、六　護計、護計七　母計、母計八　我某甲　所有る病苦　(一)賀曩賀曩九　賀曩賀曩十　賀曩賀曩十一　賀曩賀曩十二　賀曩賀曩十三　我某甲　所有る恐怖　(二)娜賀、娜賀十四　娜賀娜賀十五　娜賀娜賀十六　娜賀娜賀十七　娜賀娜賀十八　我某甲　所有る怨家　(三)跛左跛左十九　跛

(一)賀曩　擊つなり、謂く彼の惡病を流行する惡鬼等を擊つなり。
(二)娜賀　燒くなり、故に是れ彼の惡鬼等を燒き殺すなり。
(三)跛左　煮なり

(一)度度　度は惡むなり。
(二)賀賀　摧惡勸善。

左跋左二十　跋左跋左二十一　跋左跋左二十二　跋左跋左二十三　我某甲　所有る不饒益の事　(一)度度度度度度度度度度二十四　我某甲　遭ふことある所の毒藥　(二)賀賀賀賀賀賀賀賀賀賀二十五　我某甲　所有る他人の厭禱　爾（皆以の切）置爾置二十六　爾置爾置二十七　爾置爾置二十八　爾置爾置二十九　爾置爾置三十　我某甲　所有る罪業願くはみな消滅せんことを。祖嚕祖嚕三十一　祖嚕祖嚕三十二　祖嚕祖嚕三十三　祖嚕祖嚕三十四　祖嚕祖嚕三十五　哂哩哂哩三十六　哂哩哂哩三十七　哂哩哂哩三十八　哂哩哂哩三十九　哂哩哂哩四十　弭哩弭哩四十一　弭哩弭哩四十二　弭哩弭哩四十三　弭哩弭哩四十四　弭哩弭哩四十五　普嚕普嚕四十六　普嚕普嚕四十七　普嚕普嚕四十八　普嚕普嚕四十九　普嚕普嚕五十　唧置唧置五十一　唧置唧置五十二　唧置唧置五十三　唧置唧置五十四　唧置唧置五十五　哂計五十六　弭計五十七　唧計五十八　尾計五十九　室哩二合、引六十　跋捺嚩二合、六十一　三去聲　滿多跋捺嚩二合引、六十二　薩嚩引　囉佗二合　娑引、去聲　馱顎六十三　阿上聲　麼嚩六十四　尾麼嚩六十五　贊捺囉二合　鉢囉陛六十六　素引　哩野二合　建引　帝六十七　努鼻　吠六十八　怒引　努鼻　吠六十九　畢哩二合　孕迦嚩七十　娑醯二合引　賀引七十一

惟だ願くは諸神等、常に我某甲　並に諸の眷屬を擁護して、壽命百歳にして、願くは百秋を見んことを。

(一)二十八　葉衣經に說ける二十八大將と全く同なり

佛、阿難陀に告げたまはく、(一)二十八藥叉大將の名號あり、汝當さに稱念すべし、此等の藥叉大將、能く十方世界に於て一切衆生を覆護して、ために衰患厄難の事を除く、四たりの藥叉大將あり、東方に住して東方の所有る衆生を擁護して、憂苦を離れしむ、其の名を你你逸（你の切）　伽去聲引一　蘇寧怛嗒引二合　布囉拏二合　迦三　劫比囉といふ。　彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て我某甲　並に諸の眷屬を擁護し、壽命百年ならしめよ。（所求の事を說け。）阿難陀、四藥叉大將あり、南方に住し南方の所有る衆生を擁護し、憂苦を離れしむ、其の名を　僧（愚孕の切）　賀一　塢跛僧上に准ず　賀二　餉企囉三　難上聲　那四　と曰ふ。　彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲　並に諸の眷屬を擁護し、壽命百年ならしめよ。（所求の事を說け。）阿難陀、四藥叉大將あり、西方に住して西方の所有る衆生を擁護し憂苦を離れしむ、其の名を　賀囉入聲一　賀哩計（入聲）　賀哩計櫟二　鉢囉二合　僕三　劫比囉四　と曰ふ。　彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲　並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年ならしめよ。（所求の事を說け。）阿難陀、四藥叉大將あり、北方に住して北方の所有の衆生を擁護し、憂苦を離れしむ、其の名を　馱囉拏、引一　馱囉難上聲　拏二　嗢你庾二合引　業播嚩三　尾瑟弩四二合　と曰ふ。　彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲　並に諸の眷屬を擁護し、壽命百年ならしめよ、

所求の事を說け。

阿難陀、四藥叉大將あり、各の四維に住して四維の所有る衆生を擁護し、憂苦を離れしむ、其の名を半止脚一半者羅嚩拏二娑去引跢儗哩三亘麼嚩多四と曰ふ。彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年ならしめよ

所求の事を說け。

阿難陀、四藥叉大將あり、常に地に居して、所有る地居の衆生を擁護し、憂苦を離れしむ、其の名を步莫一蘇上聲步莫二迦引囉入聲三塢跛迦引囉四と曰ふ。彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲並に諸の眷屬を擁護し、壽命百年ならしめよ

所求の事を說け。

阿難陀、四藥叉大將あり、常に空居に在て所有る空居の衆生を擁護し、憂苦を離れしむ、其の名を素引哩野二合一素謨引二阿儗顎二合三嚩引庾四といふ。彼れも亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲並に諸の眷屬を擁護し、壽命百年ならしめよ

所求の事を說け。

復た次に阿難陀、汝當さに多聞天王の兄弟軍將の名號を稱念すべし、此等常に一切の有情を護り、ために災禍厄難憂苦を除き、世間に遊行して大利益を作す、其の名を印捺囉二合一素摩二嚩嚕拏、三鉢囉二合惹引跛底、四入聲婆去聲囉納嚩二合惹、五伊舍那、六室戰二合娜諾、十迦引莫、八室嚩二合瑟吒、二合九矩顎建陀、十顎建陀脚、十一嚩賦麼扼、十二麼扼者略、十三鉢囉二合拏引那、十四塢跛半止脚、去聲十五娑去聲跢去聲儗哩、十六亥麼嚩多、十七布囉拏、二合十八佉上聲你囉、十九句引尾諾、二十遇引跛引囉藥叉、二十一阿去聲吒嚩句、二十二曩囉邏引閣、二十三捺囉乞灑婆、二十四半者囉嚩拏、二十五蘇母契、二十六你你逸の切伽藥叉、二十七薩跛哩惹曩、二十八唧怛囉二合細曩、二十九濕嚩二合彦達嚩、三十底哩二合頗哩、引三十一左怛哩二合建吒迦、三十二你伽爍底、三十三室左二合麼引多哩、四十と曰ふ。此れ等の藥叉は是れ大軍主にして諸神を統領し、大威力ありて皆な光明を具す、形色圓滿して名稱周徧す、是れ多聞天王の法の兄弟なり、多聞天王常に此等の藥叉兄弟に勅して、若し諸の鬼神の彼の人を侵擾せば、汝等ために擁護を作し惱亂せしむること勿く、安樂を得せしめよといふ、諸の藥叉聞き已て敎に依て奉行す、此等の藥叉大將も亦た、此の佛母大孔雀明王を以て、我れ並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならん、若し鬪諍苦惱の事、我が前に現ずることあらん時、願くは藥叉大將、常に我某甲並に諸の眷屬を衛護して、憂苦を離れしめ、或は天龍のために持せられ、阿蘇囉に持せられ、麼嚕多に持せられ、誐嚕拏に持せられ、彦達嚩に持せられ、緊那羅に

持せられ、摩護囉誐に持せられ、藥叉に持せられ、羅刹娑に持せられ、畢嚩多に魅まされ、比舍遮に魅まされ、步多に魅まされ、矩伴拏に魅まされ、布單那に魅まされ、羯吒布單那に魅まされ、塞建那に魅まされ、嗢麽那に魅まされ、車耶に魅まされ、阿鉢娑麽羅に魅まされ、塢娑跢囉迦に魅まされ、諸刹怛囉に魅まされ、隸跋に魅まされ、是の如き等の鬼神のために持せられ魅まされ、我某甲 並に諸の眷屬を擁護し、憂苦を離れしめ、壽命百年ならしめよ 所求の事を說け。

復た諸鬼あり、精氣を食ふ者、胎を食ふ者、血を食ふ者、肉を食ふ者、脂膏を食ふ者、髓を食ふ者、生を食ふ者、命を食ふ者、祭祠を食ふ者、氣を食ふ者、香を食ふ者、鬘を食ふ者、華を食ふ者、果を食ふ者、苗稼を食ふ者、火祠を食ふ者、膿を食ふ者、大便を食ふ者、小便を食ふ者、涕唾を食ふ者、涎を食ふ者、洟を食ふ者、殘食を食ふ者、吐を食ふ者、不淨物を食ふ者、漏水を食ふ者あり、是の如くの鬼魅に惱亂せらるゝ時、願くは佛母明王、我某甲 並に諸の眷屬を擁護して、憂苦を離れしめ、壽命百年にして願くは百秋を見、常に安樂を受けんことを。

若し復た人ありて、諸の蠱魅厭禱呪術を造り、諸の惡法を作す、所謂る訖嚕二合底迦、羯麽拏、迦具嚕那、枳囉拏、吠跢賀、賀嚩娜多、嗢度跢多、他の血髓を飲み、人を變して驅役し、鬼神を呼召して諸の惡業・惡食・惡吐・惡影・惡魂を造り、或は厭書を造り、或は惡跳・惡驀・惡冒逆、惡事を作さん時、みな我某甲 並に諸の眷屬を擁護して憂苦を離れしめよ、又た諸の怖王・怖賊・水火等の怖、或は他兵の怖、惡友・劫殺・怨敵等の怖・饑饉に遭ふの怖・夭壽死の怖・地震動の怖・諸惡獸の怖、是の如き等の怖あらんに、みな我某甲 並に眷屬を護りたまへ。

又た復た諸病・疥癩・瘡癬・痔漏・癰疽・身皮黑澁・飲食消せず・頭痛・半頭痛・眼痛・鼻痛・唇口頰の痛・牙齒舌の痛・及び咽喉の痛・胸脅背の痛・心の痛・腰の痛・肚の痛・腹の痛・脛の痛・膝の痛・或は四肢の痛・隱密處の痛・瘦病・乾消・徧身疼痛せん、是の如き等の痛悉くみな除滅せんことを。又諸の瘧病、一日・二日・三日・四日・乃至七日・七月・一月或は復た頻日・或は復た須臾なる、或は常の熱病・偏斜・癮病・鬼神・壯熱・風黃・痰癊(ヲシ)・或は三集病・四百四病・一切の瘧病、是の如き等の病を悉く珍滅せしめよ、我今其の地界を結し方隅界を結して此の經を讀誦せんに、悉く安隱ならしめたまへ、娑嚩二合引賀引 復た伽佗を說いて曰く　我が夜安らかに　晝日も亦安らかに　一切時中　諸

(一) 畢舍遮女 大方詞利帝母の眷屬なり、羅刹女なり。
(二) 賢麽 青色。
(三) 尾覽麽 赤色。

佛護念せしめたまへ。

復た次に阿難陀、十二大(一)畢舍遮女あり、亦た名を稱すべし、是の如くの鬼女、菩薩處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の鬼女常に守護を爲す、其の名を (二)覽麽、一尾覽麽、二鉢囉二合 覽麽、三塢覽麽、四賀引哩底五賀哩計試、六賀哩冰蘖擺、七迦哩、八迦囉里、九劒母仡哩二合 嚩、十迦枳、十一迦擺戍娜哩十二と曰ふ。

此等の鬼女、大神力ありて大光明を具す、形色圓滿して名稱周徧し、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て我某甲 並に諸の眷屬を守護し、壽命百年ならしめむ、眞言に曰く 但你也二合 佗、一賀嚩、二佉嚩、三鵝嚩、四麽黎、五弭黎、六母黎、七麽帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合 娑底、二合十六 娑嚩二合 娑底、二合十七 娑嚩二合 娑底、二合十八 娑嚩二合 娑底、二合十九 娑嚩二合引 賀引二十

阿難陀、復た八大女鬼あり、亦た名を稱すべし、是の諸の女鬼、菩薩處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の女鬼常に守護と爲る、其の名を 末那、一引 麽娜曩、二引 麽怒得迦二合 吒、三塢跛末娜、四畢嚩引二合 底、五引 汙引 惹賀引哩、六引 阿上聲 捨

顎、七引 乞囉二合 薩寧、八引 制底と曰ふ。 此等の女鬼大神力あり、大光明を具し、形色圓滿して名稱周徧す、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王眞言を以て、我某甲 並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならしむ。眞言に曰く 但你也二合 佗、一賀嚩、二佉上聲嚩、三鵝嚩、四麽黎、五弭黎、六母黎、七麽帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合 娑底、二合十六 娑嚩二合 娑底、二合十七 娑嚩二合 娑底、二合十八 娑嚩二合 娑底、二合十九 娑嚩二合引 賀引二十

阿難陀、復た七大女鬼あり、亦た名を稱すべし、此の諸の女鬼、菩薩處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の女鬼常に守護を爲す、其の名を 阿蘖嚩二合 你迦、一引 囉乞史二合 底迦、二引 質怛哩二合 比舍引 止迦、三引 布囉拏二合 跋捺囉二合 迦、四引 阿儗顎二合 囉乞史二合 底迦、五引 蜜怛囉二合 迦引 哩迦、六引 乙嘆二合 史囉乞史二合 底迦、七引 制底八と曰ふ。此等の女鬼常に血肉を噉ひて人を惱觸す、大神力あり、大光明を具して形色圓滿し、名稱周徧す、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護し、壽命百年ならしむ。眞言に

曰く　怛你也二合 佗、一賀囉、二佉上聲囉、三鳴囉、四麽黎、五弭黎、六母黎、七麽帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩二合賀引二十

阿難陀、復た五大女鬼あり、彼の名を稱すべし、此の女鬼等、菩薩處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の女鬼常に守護を爲す、其の名を　君上聲陀上聲引一 嚫君上聲陀引一難上聲娜引三尾史努二合攞引四切比攞引五と曰ふ。　此等の女鬼、大神力あつて大光明を具し、形色圓滿して名稱周徧す、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護し、壽命百年ならしむ。眞言に曰く　怛你也二合 佗、一賀囉、二佉上聲囉、三鳴囉、四麽黎、五弭黎、六母黎、七麽帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩二合賀引二十

阿難陀、復た八大羅刹女あり、菩薩處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の羅刹女常に衛護を爲す、其の名を　謨引賀、引一蘇上聲試引麽、鼻引二矩舍乞史、二合引三計矢嚫、引四劍冐引餌、引五蘇上聲蜜怛囉、二合六路引呬跢引乞史、二合引七迦引者囉引八と曰ふ。

此等の羅刹女大神力ありて大光明を具し、形色圓滿して名稱周徧す、天阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、常に童男・童女の血肉を取て食に充つ、新產家及び空宅の處に入り、光に隨ひて行き、人の名字を喚んで人の精氣を吸ふ、甚だ怖畏すべし、人を驚恐して慈愍の心なし、彼も亦た此の佛母大孔雀明王眞言を以て我某甲並に諸の眷屬を守護し、壽命百年ならしむ。眞言に曰く　怛儞也二合佗、一賀囉、二佉上聲囉、三鳴囉、四麽黎、五弭黎、六母黎、七麽帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩二合賀引二十

阿難陀、復た十の大羅刹女あり、菩薩の處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の羅刹女常に衛護をなす、其の名を　賀哩底羅刹女、一難上聲娜羅刹女、二冰必孕の切蘖囉羅刹女、三餉乘嚫羅刹女、四迦以迦羅刹女、五禰嚩蜜怛囉羅刹女、六禁婆囉羅刹女、七君上聲娜牙羅刹女、八覽尾迦羅刹女、九阿曩囉羅刹女、十と曰ふ。　此等の

羅刹女は大神力あり、大光明を具して形色圓滿し名稱周徧せり、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護して壽命百年ならしむ。眞言に曰く　怛儞也二合佗、引一賀嚩、二佉上擊嚩、三鳴嚩、四麼黎、五弭黎、六母黎、七麼帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩引二合賀引二十

阿難陀、復た十二の大羅刹女あり、(一)(諸の有情に於て常に觸惱し驚怖し欺誑することをなす、此等の羅刹女)菩薩の處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の(二)十二の大羅刹女、常に衛護をなす、其の名を　無主羅刹女　大海羅刹女　毒害羅刹女　施命羅刹女　明智羅刹女　持弓羅刹女　持燦底羅刹女　持刀羅刹女　持犂羅刹女　持輪羅刹女　輪圍羅刹女　可畏羅刹女といふ。此等の羅刹女は大神力あり、大光明を具し形色圓滿し名稱周徧せり、天と阿蘇羅と共に戰ふの時大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならしむ。眞言に曰く　怛儞也二合佗、引一賀嚩、二佉上擊嚩、三

(一) 諸乃至羅刹女和本に此の文なし。

(二) 十二の大和本になし。

鳴嚩、四麼黎、五弭黎、六母黎、七麼帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩引二合賀引二十

阿難陀復た十二の(一)天母あり、諸の有情に於て常に觸惱し驚怖し欺誑することをなす、此の諸の天母、菩薩の處胎の時、初生の時及び生じ已りたまふに於て、此の天母等常に衛護をなす、其の名を　(二)沒囉二合憾銘、一嚩捺哩、二合　矯麼哩、引三吠瑟拏二合微、四愛引捺哩、五囉囉四、六矯吠哩、七二合囉嚕抳、八夜弭野、二合九囉葉尾野、十二合阿伎顎二合曳、十一麼賀迦離十二と曰ふ。此等の天母大神力あり、大光明を具し形色圓滿し名稱周徧せり、天と阿蘇羅と共に戰ふの時、大威力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならしむ。眞言に曰く　怛儞也二合佗、引一賀嚩、二佉上擊嚩、三鳴嚩、四麼黎、五弭黎、六母黎、七麼帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合娑底、二合十六娑嚩二合娑底、二合十七娑嚩二合娑底、二合十八娑嚩二合娑底、二合十九娑嚩引二合賀引二十

(一) 沒囉云云初の八は是れ梵天母並に七母女天なり

(二) 天母　天女なり。

(一)一髻　是は實類の一髻羅刹なり　觀音所現の尊は是れ權者なり。

(二)答跛顎　淨本には此の一名なし

阿難陀、復た一の大畢舍支女あり、名けて(一)一髻と曰ふ、是の大羅刹の婦、大海の岸に居して血の氣香を聞で、一夜の中に於て八萬踰繕那を行く、菩薩の處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此の羅刹の婦常に衞護をなす、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲　並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならしむ、眞言に曰く　怛儞也二合　佗、一賀嚩、二佉上聲嚩、三鳴嚩、四麼黎、五弭黎、六母黎、七麼帝、八曼膩底計、九護嚕護嚕、十護嚕護嚕、十一護嚕護嚕、十二護嚕護嚕、十三弭膩弭膩、十四弭膩弭膩、十五娑嚩二合　娑底、二合十六　娑嚩二合　娑底、二合十七　娑嚩二合　娑底、二合十八　娑嚩二合　娑底、二合十九　娑嚩二合　賀引二十

阿難陀、復た七十三の大羅刹女あり、彼等菩薩の處胎の時、初生の時、及び生じ已りたまふに於て、此等の羅刹女常に守護をなす、其の名を　劫比囉羅刹女　鉢努麼羅刹女　摩嗢史羅刹女　謨哩迦羅刹女　娜膩迦羅刹女　入嚩攞顎羅刹女　(一)答跛顎羅刹女　羯攞施羅刹女　尾麼囉羅刹女　馱囉扼羅刹女　賀哩室戰引二合　捺囉二合　羅刹女　嚧嗢扼羅刹女　摩哩支羅刹女　護跢拾顎羅刹女　嚩嗢扼羅刹女　迦離羅刹女　君惹囉羅刹女　末囉羅刹女　蘖散寧羅刹女　迦囉離羅刹女　麼蹬儗羅刹女　冰蘖囉羅刹女　頻努囉羅刹女　具哩羅刹女　嚩馱哩羅刹女　矩伴膩羅刹女　迦嗢儗羅刹女　婆囉顎羅刹女　末娜寧羅刹女　阿捨寧羅刹女　食胎羅刹女　食血羅刹女　(一)包齒羅刹女　驚怖羅刹女　沒囉憾彌羅刹女　怛拏業播囉羅刹女　持金剛羅刹女　塞謇那羅刹女　答麼羅刹女　行雨羅刹女　震雷羅刹女　擊聲羅刹女　擊電羅刹女　足行羅刹女　炬口羅刹女　持地羅刹女　黑夜羅刹女　焰麼使羅刹女　(二)無垢羅刹女　(三)不動羅刹女　高髻羅刹女　百頭羅刹女　百臂羅刹女　百目羅刹女　常害羅刹女　摧破羅刹女　(四)猫兒羅刹女　末拏囉羅刹女　夜行羅刹女　晝行羅刹女　愛糙羅刹女　(五)忿怒羅刹女　留難羅刹女　持刀棒羅刹女　持三戟羅刹女　牙出羅刹女　意喜羅刹女　(六)寂靜羅刹女　(七)躁慕羅刹女　難多囉羅刹女　嗢林麼羅刹女　(八)青色羅刹女　質怛囉羅刹女　と曰ふ。此等の七十三の諸の羅刹女は大神力あり、大光明を具し形色圓滿し名稱周徧せり、天と阿蘇羅と共に戰ふの時大神力を現ず、彼も亦た此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲　並に諸の眷屬を守護して、壽命百年ならしむ、眞言に曰く　怛儞也二合　佗、引一嗢哩嗢哩、二弭哩弭哩、

(一)包齒　淨本に憚姤邏に作る。

(二)無垢　淨本には菴末羅に作る。

(三)不動　淨本には蘇跋邏に作る。

(四)猫兒　淨本には末折利に作る。

(五)忿怒　淨本には羯利嚴那に作る

(六)寂靜　淨本には蘇謄に作る。

(七)躁慕　淨本には旃茶に作る。

(八)青色　淨本には尼邏に作る。

三怛拏多嚩㗚、四嚩計嚩計、五護引囉護引囉、六馱囉馱囉、七賀囉賀囉、八左攞左攞、
九祖嚕祖嚕、娑嚩二合引賀、引十曩莫薩嚩母馱南、引娑嚩二合引賀、十一鉢囉二合底曳二合
迦母馱南、引娑嚩二合引賀、十二遏囉曷二合擔引娑嚩二合賀、十三毋引怛嚩二合野寫、
冒引地薩怛嚩二合寫、娑嚩二合賀、十四薩嚩冒引地薩怛嚩二合南、引娑嚩二合賀、引十五
阿曩引誐引弭南、引娑嚩二合賀、十六塞訖哩三合娜引誐引弭南、引娑嚩二合賀、十七素嚕
二合跢引半曩引南、引娑嚩二合引賀、引十八三去藐藐跢引南、引娑嚩二合引賀、引十九三去藐
鉢囉二合底半曩引南、引娑嚩二合引賀、引二十沒羅二合憾麼二合野、娑嚩二合賀、十一印
捺囉二合野娑嚩二合引賀、引二十二鉢囉二合惹引跛多上曳引娑嚩二合賀、引二十三伊上舍引曩引
野、娑嚩二合賀、十四阿上乞曩二合曳、引娑嚩二合賀、引二十五嚩野吠、引娑嚩二合賀、
引二十六嚩嚕拏鼻野、娑嚩二合賀、引二十七瑟麼鼻野、娑嚩二合賀、引二十八塢猋捺囉二合野娑嚩二合賀、
引二十九吠引室囉二合麼拏鼻野、三十藥乞灑二合地鉢多上曳、引娑嚩二合賀、引三十一地哩二合
多上拏囉、引瑟吒囉二合野、三十二彥達嚩引地鉢多上曳、娑嚩二合賀、引三十三尾嚕茶去迦引
野、三十四禁伴引拏上地鉢多上曳、引娑嚩二合賀、引三十五尾嚕引播引乞灑二合野、三十六
曩引誐引地鉢多上曳引娑嚩二合賀、引三十七禰嚩引嚩引娑嚩二合賀、十八曩引誐引南、引

娑嚩二合賀、引三十九阿上蘇上拏囉引嚩、引娑嚩二合賀、十引四麼嚕跢引嚩、引娑嚩二合賀、十一
誐嚕拏去引嚩、引娑嚩二合賀、十二彥達嚩引嚩、引娑嚩二合賀、十三緊那囉引嚩、引
娑嚩二合賀、引四十四摩護引囉誐引嚩、引娑嚩二合賀、十五藥乞灑二合嚩、引娑嚩二合賀、
引四十六囉引乞察二合娑引嚩、娑嚩二合賀、十七畢嚩二合跢引嚩、引娑嚩二合賀、十八比
舍引左引嚩、引娑嚩二合賀、十九部引哆引嚩、引娑嚩二合賀、十引五禁伴引拏上嚩引
娑嚩二合賀、十一引五布旦曩嚩、引娑嚩二合賀、十二引五羯吒布旦曩引嚩、引娑嚩二合賀、十三引五
塞建二合那引嚩、引娑嚩二合賀、十四引五嗢麼鼻娜引嚩、引娑嚩二合賀、十五引五車耶嚩、引
娑嚩二合賀、十六引五阿上鉢娑麼二合囉引嚩、引娑嚩二合賀、十七引五塢引娑跢二合囉迦引嚩、
引娑嚩二合賀、十八引五贊捺囉二合素引哩野二合喻、引娑嚩二合賀、十九引五諾乞察二合怛囉
二合嚩、引娑嚩二合賀、十一引六乞囉二合賀引嚩引娑嚩二合賀、十二引六乳の切底彭、引娑嚩
二合賀、引六十三乙喋史引嚩引娑嚩二合賀、十四引六悉馱沒囉二合跢引嚩、引娑嚩二合賀、十五引六
悉地野二合尾儞也二合嚩、引娑嚩二合賀、十六引六彥馱引
里引曳、引娑嚩二合賀、十七引六蘖窶哩引曳、引娑嚩二合賀、十八引六阿蜜喋二合跢引曳、引
娑嚩二合賀、十九引六皆婆去聲去顰引曳、引娑嚩二合賀、十引七佐引閉置引曳、引娑嚩二合賀、

引七十一 捺囉二合 弭膩引曳、引 娑嚩二合引 賀、七十二 捨嚩哩引曳、引 娑嚩二合引 賀、引十二 阿上闥
嚩捨嚩囉引曳、引 娑嚩二合引 賀、引十四 贊引 拏上聲哩引曳、引 娑嚩二合引 賀、引十五 麼上引 證儀研以の切引
曳、引 娑嚩二合引 賀、引十六 曩引 誐紇哩二合 乃夜引 野、娑嚩二合引 賀、引十七 誐嚕拏紇哩二合
乃夜引 野、娑嚩二合引 賀、引十八 麼鼻引 曩朶引 曳、引 娑嚩二合引 賀、十九 麼賀引 麼曩朶引 曳、引
娑嚩二合引 賀、引八十 灑拏上聲 乞灑二合 哩引 曳、引 娑嚩二合引 賀、八十一 麼抳跋捺囉二合 野、娑
嚩二合引 賀、引十二 三去聲 滿多跋捺囉二合 野、娑嚩二合引 賀、十三 麼賀引 三去聲 滿多跋捺囉二合
野、娑嚩二合引 賀、合十四 摩賀引 三去聲 麼上引 夜、野、娑嚩二合引 賀、十五 摩賀引 鉢囉二合 底薩
囉引 野、娑嚩二合引 賀、引十六 試多嚩曩引 野、娑嚩二合引 賀、十七 摩賀試引 多嚩曩引 野、娑
嚩二合引 賀、引十八 難上聲 拏女加の切、引 駄囉抳曳、娑嚩二合 賀、十九 摩賀引 難上聲 拏駄引 囉抳引 曳、
引 娑嚩二合引 賀、十 引九 母呰麟上聲 娜引 野、娑嚩二合引 賀、十一 摩賀母呰麟娜野、娑嚩二合引 賀、
引九十二 惹演底引 曳、引 娑嚩二合引 賀、引九十三 扇引 底引 曳、引 娑嚩二合引 賀、引九十四 阿上 濕嚩二合
訖哩二合引 跢引 野、娑嚩二合引 賀、引九十五 摩賀引 麼上引 庾引 哩野、二合 尾儞野二合引 囉引 惹引 野、
娑嚩二合引 賀、引九十六

是の如く等の大明大眞言は、大いに結界し大いに護し、能く一切の諸惡を除滅す、願くは一切の呪術惡業を破せん、願くは蠱魅・厭禱を除滅せん、願くは訖嚂底迦・羯摩拏・迦具嚂那・枳攞拏・吠多拏・質遮・畢嚩灑迦を除滅せん、願くは塞建那・嗢麼那・車耶・阿鉢娑麼囉・塢娑跢囉迦を除滅せん、願くは顛狂癲病消瘦疥癩を除滅せん、願くは種種の鬼魅諸の惡食の者を除滅せん、願くは佗の血髓を飲み、人と變じて驅役し、鬼神を呼召して惡業を造る者を除滅せん、願くは諸の怖、王の怖、賊の怖、水火等の怖、惡友劫殺怨敵等の怖、佗の兵饑饉夭壽死の怖、地動惡獸及び諸の死の怖を除滅せん、願くは惡食・惡吐・惡視・厭書を作す者を除滅せん、願くは惡跳・惡驀・惡冒逆を作す者を除滅せん、願くは一切の瘧病・一日・二日・三日・四日乃至七日・半月・一月なる、或は復た頻日なる、或は復た須臾なる、或は常に熱病する等を除滅せん、願くは一切の瘡癬・痔漏・癰疽・偏邪・癭病鬼神・壯熱・風黃・痰癊、或は三集病・四百四病を除滅せん、願くは頭痛・半頭痛・飲食消せず・眼耳鼻の痛・唇口頰の痛を除滅せん、願くは牙齒舌の痛及び咽喉の痛・匈脅背の痛・心の痛・肚の痛を除滅せん、願くは腰の痛・腹の痛・脛の痛・膝の痛・及び四支の痛・隱密處の痛・及び徧身の疼痛を除滅せん、願くは龍毒・蛇毒・藥毒・蠱毒・一切の諸毒を除滅して悉くみな殄滅せん、是の如く等の一切の鬼魅の惡病生ずる時、みな

我菜甲 並に諸の眷屬を擁護して、悉く解脫せしめ壽命百年ならんことを。
復た次に阿難陀、汝當さに諸の龍王の名字を稱念すべし、此等の福德の龍王若し名を稱すれば大利益を獲、其を名けて

龍王　大海龍王　海子龍王　娑蘖囉龍王　佛世尊龍王　梵天龍王　帝釋龍王　焰摩駄龍王　塢波難駄龍王　那羅龍王　小那羅龍王　善見龍王　婆蘇枳龍王　娑蘖囉子龍王　摩竭龍王　難德叉迦龍王　阿嚕拏龍王　婆嚕拏龍王　(一)師子龍王　有吉祥龍王　吉祥龍王　吉祥增長龍王　吉祥賢龍王　無畏龍王　大力龍王　設臘婆龍王　妙臂龍王　妙高龍王　日光龍王　月光龍王　大吼龍王　震聲龍王　雷電龍王　擊發龍王　降雨龍王　無垢龍王　無垢光龍王　(二)頻洛迦頭龍王　跋洛迦頭龍王　馬頭龍王　牛頭龍王　鹿頭龍王　象頭龍王　濕力龍王　(三)歡喜龍王　奇妙龍王　妙眼龍王　妙軍龍王　護嚕拏龍王　那母止龍王　母止龍王　母止隣陀龍王　囉婆拏龍王　囉笈婆龍王　囉笈婆子龍王　室哩龍王　(四)山孤龍王　濫母嚕龍王　有蠱龍王　無邊龍王　羯諾迦龍王　象羯磋龍王　黃色龍王　赤色龍王　白色龍王　醫囉葉龍王　商佉龍王

(一)師子　淨本に婆摩伽に作る。
(二)頻洛迦　梁に峰頭に言ふ。
(三)歡喜龍王の下淨本に人擊龍王の句あり。
(四)山孤　淨本に室哩孤に作る。

阿跋羅龍王　黑龍王　小黑龍王　力天龍王　那羅延龍王　劍麽羅龍王　石膊龍王　弶伽龍王　信度龍王　嚩多龍王　吉慶龍王　無熱惱池龍王　善住龍王　醫羅跋拏龍王　持地龍王　持山龍王　持光明龍王　賢善龍王　極賢善龍王　世賢龍王　力賢龍王　寶珠龍王　珠咽龍王　二黑龍王　二黃龍王　二赤龍王　二白龍王　華鬘龍王　赤華鬘龍王　犢子龍王　(一)賢句龍王　鼓音龍王　小鼓音龍王　菴末囉(二)津龍王　寶子龍王　持國龍王　增長龍王　廣目龍王　多聞龍王　車面龍王　占婆野迦龍王　驕答摩龍王　半遮羅龍王　五髻龍王　光明龍王　頻度龍王　小頻度龍王　阿力迦龍王　羯力迦龍王　跋力迦龍王　曠野龍王　緊質顎龍王　緊質顎迦龍王　緝駄迦龍王　黑驕答摩龍王　蘇摩那龍王　人龍王　根人龍王　上人龍王　摩證迦龍王　曼拏洛迦龍王　非人龍王　頞拏迦龍王　最勝龍王　勝龍王　末攞迦龍王　阿嚕迦龍王　醫囉龍王　醫囉鉢拏龍王　阿羅婆嚩龍王　麽囉婆路龍王　摩那私龍王　羯句擿迦龍王　劫比羅龍王　(三)勢婆洛迦龍王　青蓮華龍王　有爪龍王　增長龍王　解脫龍王　智慧龍王　極解脫龍

(一)賢句　淨本に賢處に作る。
(二)津　淨本に道に作る。
(三)勢婆洛迦　梁本に世羅婆爾に作る。

王　毛羨馬勝二龍王、　鬱羅迷囉二龍王　難陀跋難陀二龍王　阿齒羅龍王
大善現龍王　徧黑龍王　徧蟲龍王　妙面龍王　鏡面龍王　承迎龍王
駄囉龍王　師子龍王　師子洲龍王　達弭龍王　達弭拏龍王　二黑龍王
二白龍王　二小白龍王

是の如き等の(一)一百七十七諸大龍王を而も上首と爲す、及び種類の眷屬此の大地に於て或る時は震響し、或は光明を放ち、或は(二)甘雨を降して苗稼を成熟し、已曾に如來を見たてまつりて三歸依を受け、並に學處を受けて金翅鳥の怖を脫し、火沙の怖を離れ、王役の怖を免れ、常に大地を持し大寶宮に住し、壽命長遠にして大勢力あり、富貴自在にして無量の眷屬大神通を具し、能く怨敵を摧く、大光明あり形色圓滿して名稱周徧せり、天と修羅と共に戰ふの時、威神力をもて助け天をして勝つことを得しむ、彼の諸の龍王の所有る子孫●兄弟●軍將●大臣●雜使、みな此の佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護し、憂苦を離れしめ、壽命百年ならしむ、我及び眷屬若しは清淨、若しは不清淨、若しは迷醉、若しは放逸、若しは行住坐臥、若しは睡覺來去し、一切の時中、願くはみな我等を擁護し、或は天のために怖され、龍に怖され、阿蘇

(一) 一百七十七　和本になし、義淨の本には一百八十龍王といふ。
(二) 甘雨云云　新譯に此の法を修するは此の文の意かな

羅に怖され、麼嚕多に怖され、誐嚕拏に怖され、彥達囉に怖され、緊那羅に怖され、摩護囉誐に怖され、藥叉に怖され、羅刹娑に怖され、畢燄多に怖され、比舍遮に怖され、步多に怖され、矩伊拏に怖され、布單那に怖され、羯吒布單那に怖され、寒建那に怖され、嗢麼那に怖され、車耶に怖され、阿鉢娑麼囉に怖され、塢娑路囉迦に怖されん、是の如き等の怖れも悉くみな遠離せんことを。

又諸の怖あり、王の怖、賊の怖、水火等の怖、或は惡友●劫殺●怨敵等の怖、或は他兵の怖、饑饉に遭ふ怖、夭壽死の怖、地震動の怖、諸の惡獸の怖、所有る一切恐怖の時我某甲並に諸の眷屬をして悉くみな解脫せしめたまへ。復た伽佗を說いて曰く

我が夜安隱にして　晝日も亦た安隱ならしめ　一切の時中に於て　諸佛常に護念したまへ。

南謨寂觀母駄野　南謨寂觀母駄曳　南謨寂觀目訖多野　南謨寂觀目訖多曳
南謨寂觀扇多野　南謨觀寂扇多曳　南謨(一)尾目訖多野　(二)南謨尾目訖多曳
諸有の淨行婆羅門　能く一切の諸の惡業を除く　是の如き等の衆我歸依す　我身並に眷屬を擁護せんことを

(二×二) 南謨の下、淨和の二本に觀の字あり。

校譌

第三紙第十一行因南藏に受に作る、第十五行鑑皮南藏に錦繡に作る。

音釋

哂火利の切皆此禮の切緋蒲丁の切魽魚切の切謇九件の切磧七迹の切擿陟革の切蹉七何の切韈勿發の切挽無遠の切糊側羊の切、飾なり　鈔所經の切皆子感の切證唐亘の切磋七何の切緝七入の切

國譯佛母大孔雀明王經卷中　終

國譯佛母大孔雀明王經卷下

唐特進試鴻臚卿開府儀同三司肅國公贈司空謚大辯正廣智大興善寺三藏沙門不空　詔を奉じて譯す

佛、阿難陀に告げたまはく、過去の七佛正徧知者も亦復た此の佛母明王の眞言を隨喜し宣說したまふ、汝當さに受持すべし、微鉢尸如來正徧知者も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、(一)眞言に曰く　怛儞也二合佗、去聲引一　阿上聲囉嬭、二　迦囉嬭、三　麼禰、四　麼娜韈馱寧、五　阿上聲嚩嚩、六　捨嚩嚩、七　覩嚩覩嚩、八　母嚩母嚩、九　捨嚩嚩、十　鉢囉拏二合　捨嚩嚩、十一　戶止十二　戶止十三　戶止十四　戶止十五　戶止十六　戶止十七　娑嚩二合引十八　賀引十

(一) 眞言に曰く云云以下は七佛所說の眞言なり。

復た次に阿難陀、尸棄如來正徧知者も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く　怛你也二合　陀、去聲引一　壹蘇弭蘇、二　鬥嚩嚩、三　尾鬥嚩嚩、四　哂哩、五　弭哩、六　計覩母引黎、七　暗嚩嚩、八　暗嚩囉引嚩底の切丁以九　弩鼻音謎怒引弩十　哂哩哂哩十一　矩止矩止

十二母止母止十三 娑嚩二合引賀引十四

復た次に阿難陀、毗舍浮如來正徧知者も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く 怛你也二合陀、引一慕引哩慕引哩、二計跛知、入聲三滿賦滿賦底計、四賀囉賀囉五賀囉、六伽囉、七佉上聲囉、八頗黎、九頗哩賦難引上聲帝、十難底顎、十一難底黎、十二捨迦知、入聲十三麼迦知、入聲十四曩妳、十四曩賦顎、十五試哩試哩、十六試哩試哩、十七娑嚩二合引賀引十八

復た次に阿難陀、(一)羯句忖那如來正徧知者も、亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く 怛你也二合佗、引一咽賦、二弭賦、三矩賦母賦、四覩賦、五頞妳難上聲帝、引六難底黎、七櫟迦哩、八斫迦哩、九佗上聲誐哩、十多去聲誐哩、十一建引左寧、十二建引左曩引嚩底、十三嚩囉嚩囉、十四嚩嚩嚩囉、十五難帝悉地、十六娑嚩二合引賀引十七

復た次に阿難陀、(二)羯諸迦牟尼如來正徧知者も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ。眞言に曰く 怛你也二合佗、引一難上聲多黎、二怛多黎、三怛多上聲黎、四多上羅妬引多上聲黎、五味引顎、尾惹曳、引六尾孺引、馱囉、七阿囉薺、惹曳の切尾囉薺、八尾囉惹

(一) 羯句忖那 拘留孫佛。

(二) 羯諸迦牟尼 拘那含牟尼。

在娜の切麼斯、九麼底、十麼引哩、十一麼引哩二合引顎、十二門上妳、引試囉門聲妳、十三入嚩悉地、十四入嚩二合黎、十五入嚩二合黎、十六入嚩二合黎、十七跛捺囉二合嚩底、十八娑嚩二合引賀引十九

復た次に阿難陀、迦攝波如來正徧知者も亦た、此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く 怛儞也二合佗、引一頞拏上聲囉、二建拏囉、三曼拏囉、四寒去聲拏囉、五染謀染謀、六染謀曩儞、七染謀嚩底、八滿帝曼賦底計、九阿上聲麼囉、十僧の切思孕係、十一賀囉賀囉、十二賀囉賀囉、十三跛輸、跛輸、跛輸、十四跛輸跛輸、十五鉢底悉底十六娑嚩二合引賀引十七

阿難陀、我が釋迦牟尼如來正徧知者も亦た、此の佛母大孔雀明王の眞言を隨喜し宣說したまふ、諸の有情を利益せんと欲ふがための故に、眞言に曰く 怛你也二合佗、引一哂哩弭哩、二枳哩弭哩、三伊上聲哩黎、四羯怛黎、五計覩嚩黎、六阿拏麼哩、上納脾曩脾、八沒薩囉計、九沒薩蘇、十怛囉寒彌、十一迦引麼哩、十二劒母捺哩、十三怛嚕怛嚕、十四嚩囉抳、十五鉢囉二合訖哩二合底、能上聲瑟蘇、二合十六弭哩多黎、十七伊上聲底賀引納、十八阿左黎、十九哂多黎、二十嚩枳黎、二十一嚩致嚩致底計、二十二摎吒膽吠、(一)

(一) 若し所雨云云 是は御修法の時或は所雨、或は息災等入句の指南なり。

若し所雨の時は稱して囉囉灑二合 覩禰嚩といふ。若し息災求願の時は悉鈿覩滿怛囉二合 鉢那二十三といふべし。 曩謨引婆去聲 誐嚩姤、引二十四 伊上聲 哩惹曳、二十五 遇引怒引 嗢迦引曳、二十六 勃陵二合 誐引哩迦引曳、二十七 阿引去 嚕止二十八 曩引 嚕止、二十九 (一)捺𩕳、三十 捺𩕳嚩日囉、二合廿一 捺吒嚩日囉、二合三十二 嗢娜 野納鼻 畢哩二合 曳、三十三 阿攞跢引 黎、三十四 矩攞跢引 夜、引三十五 那引 囉引 野抳、三十六 鉢捨 顎、三十七 娑鉢二合 捨顎、三十八 悉鈿覩、三十九 捺囉二合 弭拏、引 滿怛囉二合 鉢娜、引 娑嚩二合引 賀、引四十

阿難陀、我已に汝に佛母大孔雀明王を受持する法を敎へて、莎底苾芻の蛇毒の難を救ふて、彼の苾芻をして安隱を獲得せしめつ、亦た一切の有情をして、是の經を讀誦し受持して大安樂を獲、壽命百年にして所求の願を遂げしむること、已に前に說くが如し。

復た次に阿難陀、慈氏菩薩も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く 怛你也二合 佗、引 一試哩試哩、二試哩跋捺囉、二合引三 孺引 底孺底、四孺底跋捺囉、二合引五 賀囉賀囉、六賀哩抳、七難上聲 底捨嚩囉、八試吠、九戍囉播引 抳顎、十冐引 地冐引 地、十一冐引 地冐引 地、十二冐引 地薩怛吠、二合十三 冐引 地鉢哩播引 左抳引 曳、娑嚩二合引 賀引十四

(一)捺𩕳 和本になし。

阿難陀、索訶世界の主大梵天王も亦た、此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說したまふ、眞言に曰く 怛儞也二合 佗、引一哂哩哂哩、二弭哩弭哩、三麽哩顎葬迦哩、四枳哩枳哩、五枳哩枳哩、六枳哩枳哩底、七沒囉二合 賀麽二合引 曳、八矩囉擿計、九尾拏引 訶普細、十駄囉駄囉、十一賀攞賀攞、十二普嚕普嚕、十三普嚕普嚕、十四普嚕、娑嚩二合引 賀引十五

阿難陀、此の眞言は能く一切の惡毒を滅し、能く一切の毒類を除く、佛力を以て毒を除き、菩薩摩訶薩の力を以て毒を除き、獨覺の力を以て毒を除き、阿羅漢の力を以て毒を除き、三果四向の聖力を以て毒を除き、(一)實語者の力を以て毒を除き、梵王の杖の力を以て毒を除き、帝釋の(二)金剛杵の力を以て毒を除き(三)吠率怒の輪の力を以て毒を除き、火天の燒の力を以て毒を除き、水天の羂索の力を以て毒を除き、阿蘇囉の幻士の力を以て毒を除き、龍王の(四)明力を以て毒を除き、嚕捺囉の三戟叉の力を以て毒を除き、塞謇那の爍底の力を以て毒を除き、佛母大孔雀明王の力を以て能く一切の諸の毒を除いて、毒をして地に入らしめたまふ。

阿難陀、復た一切の毒類あり、汝彼の名字を稱すべし、所謂る跋磋那婆毒、訶囉遏囉

(一)實語者 眞言を實語といふ、故に眞言者なり。
(二)金剛杵 一股。
(三)吠率怒 吠紐天。
(四)明 淨本には電に作る。

(一)豸に作る。和本に象

(二)嚩日囉二合和本になし、淨本亦た四嚩日囉といふ

毒、迦囉倶吒毒、牙齒の毒、螫毒、根毒、末毒、疑毒、眼毒、電毒、雲毒、蛇毒、龍毒、蟲毒、魅毒、一切鼠毒、蜘蛛の毒、(一)豸毒、蝦蟆の毒、蠅の毒、及び諸蜂の毒、人毒、非人毒、藥毒、呪毒、是の如く等の、一切の諸の毒を、願くはみな除滅し、我某甲及び諸の眷屬をして、悉く諸の毒を除き安隱を獲得せしめ、壽命百年にして願くは百秋を見んことを。

阿難陀、帝釋天王も亦た、此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說す、眞言に曰く　但儞也二合　一　佗、引一　惹邏引二　謄覩黎、三　摩引邏引　謄都黎、四　佐閉底、五　謄覩黎、六　末佗上聲顎、七　伽引多上顎、八　佗囉二合　薩顎、九　賀哩、十　矢哩、十二合　儞庾二合　底矢哩、十二　但嚕但嚕、拏上聲嚩底、十三　賀引賀引賀引賀引賀、四引十　僧胥孕の切係、十五　地底十六　地底、十七　矩嚕矩嚕、十八　尾囉惹、十九　咄吒咄吒枲、二十　韈多韈多枲、二十一　悉哩悉哩、二十二　刼比黎二十三　刼比羅母引黎、二十四　賀引嗢引護、引二十五　薩嚩訥瑟吒、二合廿六　鉢囉二合　訥瑟吒二合　喃、引二十七　染婆去聲能上　迦嚕引弭、二十八　曷娑多二合　播引能上聲引　誐上引廿九　鉢囉二合　底孕二合　誐、三十　顎蘖囉二合　悍上聲　迦嚕弭、三十一　娑賀但哩二合　娜引勢、三十二　嗢禰引吠嗢、三十三　嗢徵上儗抳、三十四　素囉跛底韈底、三十五　罅日囉二合　罅日囉、二合廿六　嚩日囉、二合(二)罅日囉二合三十七　嚩日囉二合　鉢多曳、娑罅二合賀引三十八

(一)一切云云本に云く、一切鬼神、一切使者と。和淨二本鬼神の二字なし。

(二)死王　焰摩の眷屬なり、謂く焰王死の三昧に入る時の名なり。

阿難陀、四大天王も亦た此の佛母大孔雀明王を隨喜し宣說す、眞言に曰く　但儞也二合　一　佗、引一　入嚩二合　攞、入嚩　攞曩、二　答跛　答跛曩、三　跛多跛多曩、四　馱麼馱麼曩、五　薩囉薩囉囉拏、六　矩底矩底、七　母底母底、八　弭底弭底、九　薩囉薩囉、十　賀囉賀囉、十一　但囉但囉、十二　娜引娜引娜引娜引娜、引十三　罅引罅引罅引罅引罅、引十四　賀攞賀攞賀攞賀攞、十五　悉地悉地悉地悉地、十六　娑罅二合　娑底、二合十七　娑嚩二合　娑底、二合十八　娑嚩二合　娑底、二合十九　娑罅二合　娑底、二合二十　娑罅二合　娑底、二合二十一　娑嚩二合引　賀引二十二　我某甲並に諸の眷屬をして、みな一切の(一)鬼神の使者、琰摩の使者、黑夜母天、黑索を持する者、及び(二)死王の罰する所、梵天の罰する所、帝釋の罰する所、仙人の罰する所、諸天の罰する所、龍王の罰する所、阿蘇羅の罰、麼嚕多の罰、誐嚕拏の罰、彥達嚩の罰、緊那羅の罰、摩護囉誐の罰、藥叉の罰する所、羅刹娑の罰、畢鞞多の罰、比舍遮の罰、步多の罰する所、矩畔拏の罰、布單那の罰、羯吒布單那の罰、塞建那の罰、嗢麼那の罰、車耶の罰する所、阿鉢娑麼囉の罰、塢娑跢囉迦の罰、吠跢拏の罰、王の罰する所、賊の罰する所、水火の罰する所を遠離することを得せしめ、一切處に

於て所有る譴罰及び輕少の治罰を、我れ某甲 並に諸の眷屬をして、みな遠離することを得せしめ、常に擁護せられ、壽命百年にして願くは百秋を見んことを。

阿難陀、汝當さに諸の大河王の名字を稱念すべし、其の名を (一)殑伽河王 (二)信度河王 (三)薩芻河王 (四)枲多河王 設臘部河王 (五)阿㗚囉伐底河王 (六)琰母娜河王 句賀河王 尾怛娑多河王 設多訥嚕河王 微播捨河王 愛嚩伐底河王 戰捺囉婆誐河王 薩囉娑嚩底河王 羯縒比顎河王 盃喩史扼河王 迦尼哩河王 擔沒囉鉢拏河王 末度末底河王 吠怛囉二合嚩哩河王 益芻伐底河王 遇末底河王 捺末娜河王 燥蜜怛囉河王 尾濕嚩蜜怛囉河王 阿麽囉河王 跨麽囉河王 牢者囉河王 素婆窒堵河王 鉢囉婆捺哩迦河王 答布多河王 (七)尾麽囉河王 遇娜嚩哩河王 泥(八)連繕那河王 嗢囉孃韈底河王。

是の如く等の諸大河王は、此の大地に依て住す、彼の諸河の處の、若しは天若くは龍、若しは阿蘇囉、摩嚕多、誐嚕拏、彥達嚩、緊娜囉、摩護囉誐、若しは藥叉、羅刹娑、畢鞞多、比舍遮、若しは步多、矩畔拏、布單那、羯吒布單那、塞建那、嗢麽那、車耶、阿鉢娑麽囉、塢娑跨囉迦、及び精氣を食ふ者、胎を食ふ者、血を食ふ者、肉を食ふ者、

(一) 殑伽 天堂來。
(二) 信度 驗河。青河。
(三) 薩芻 冷河。
(四) 枲多 無。
(五) 阿㗚云云 勝即跋提河。
(六) 琰母娜 勝金河。
(七) 尾麽囉 無垢河。
(八) 泥連繕那 不樂著河。

脂膏を食ふ者、髓を食ふ者、生を食ふ者、命を食ふ者、祭祠を食ふ者、氣を食ふ者、香を食ふ者、鬘を食ふ者、華を食ふ者、果を食ふ者、苗稼を食ふ者、火祭を食ふ者、膿を食ふ者、大便を食ふ者、小便を食ふ者、涕唾を食ふ者、涎を食ふ者、淚を食ふ者、殘食を食ふ者、吐を食ふ者、不淨物を食ふ者、漏水を食ふ者、是の如く等の種種の形貌、種種の顏色あて樂に隨ひて身を變ずる諸の鬼神等、彼の河に依て住す、彼等も亦た此の佛母大孔雀明王を以てみな、我某甲 並に諸の眷屬を擁護して憂苦を離れしめ、壽命百年にして常に安樂を受けしめよ。

(一)阿難陀、汝當さに諸の大山王の名字を稱念すべし、其の名を 妙高山王 雪山王 香醉山王 百峯山王 (二)揭地洛迦山王 金脊山王 持光山王 (三)顎泥達羅山王 輪圍山王 大輪圍山王 因陀羅石山王 梵宅山王 有吉祥山王 善現山王 廣大山王 出寶山王 多蟲山王 寶頂山王 出金剛山王 阿蘇囉巖山王 毗摩質多羅山王 電光山王 (四)馬耳山王 月光山王 日光山王 摩羅耶山王 頻陀山王 賢石山王 質怛囉矩吒山王 金峯山王 播哩耶怛囉山王 妙臂山王 有摩尼山王 蘇嚩那山王 梵勢山王 智淨山王

(一) 阿難陀云云 已下二十八宿を說く、星の名は漢音に讀むべし。
(二) 揭地云云 檐木山。
(三) 顎泥云云 魚山。
(四) 馬耳 阿說他。

(一)摩羅云云　妙髮。

(二)阿難陀　已下二十八宿。

牛耳山王　(一)摩羅質怛囉山王　劍形炎熱山王　安繕那山王　積聚山王　鹿色山王　達達山王　罽羅娑山王　大帝山王と曰ふ。

是の如く等の諸の大山王、此の大地に居す、彼等の山に於て所有る　天●龍●阿蘇囉●摩嚕多●誐嚕拏●彦達嚩●緊那囉●摩護囉誐●藥叉●囉剎娑●畢嚕多●比舍遮●步多●矩畔拏●布單那●羯吒布單那●塞建那●嗢摩那●車耶●阿鉢娑麼囉●塢娑路囉迦●諸の鬼神等、及び持明大仙、並に諸の營從眷屬の、彼の山に住する者も亦た、皆此の佛母大孔雀明王を以て我某甲並に諸の眷屬を擁護して壽命百年ならしめ、惡事を除滅し、常に吉祥を覩せしめ、諸の憂惱を離れしめよ。復た伽陀を說いて曰く

我をして夜安隱に　晝日も亦た安隱ならしめよ　一切の時の中に於て　諸佛常に護念したまへ。

(二)阿難陀、汝當さに諸の星宿天の名號を稱念すべし、彼の星宿天は大威力ありて、常に虛空に行いて吉凶の相を現ず、其の名に曰く　昴星と及び畢星と　觜星と參と及び井と　鬼宿の能く吉祥なると　柳星とを第七と爲す

此等の七宿は、東門に住して東方を守護す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年にして諸の憂惱を離れしめよ。

星宿は能く怨を摧く　張と翼とも亦た是の如し　軫星と及び角と亢と　氐星を第七に居く。

此等の七宿は南門に住して南方を守護す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年にして諸の憂惱を離れしめよ。

房宿は大威德あり　心尾も亦復た然なり　箕星と及び斗と牛と　女星を第七と爲す。

此等の七宿は、西門に住して西方を守護す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年にして諸の憂惱を離れしめよ。

虛星と危星と　室星と壁星等と　奎星と及び婁星と　胃星を最も後に居く。

此等の七宿は、北門に住して北方を守護す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年にして諸の憂惱を離れしめよ。

阿難陀、汝當さに稱念すべし、九種の執曜の名號あり、此の執曜天、二十八宿を巡行するの時、能く晝夜の時分をして增減し、世間の所有る豐儉苦樂みな先づ其の相を表

(一)熒惑　火星。
(二)辰歲太白　水木金星。
(三)鎮・彗　土・計都星。

さしむ、其の名を

日と月と及び(一)熒惑と　辰と歲と並に太白と　(二)鎮と及び羅睺と彗と　此れみな執曜と名く。

此等の九曜は大威力ありて能く吉凶を示す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して壽命百年ならしめよ。復た伽陀を以て諸の星宿を讃ず。

宿に二十八あり　四方に各の七を居く　執曜に復た七あり　日月を加へて九となす

總じて三十七を成ず　勇猛にして大威神あり　出沒して世間を照す　其の善惡の相を示し

晝夜をして增減せしめ　勢あり大光明あり　みな清淨の心を以て　此の明に於て隨喜す。

此等の星宿天もみな亦た、此の佛母大孔雀明王を以て、常に我某甲並に諸の眷屬を擁護して、壽命百年ならしめよ。

(一)禁戒　和本に成就禁戒に作る。
(二)婆　和本は娑に作る。
(三)等聲　三忙祇羅。
(四)高勇　嗢揭多。
(五)等高勇　三沒揭多。

阿難陀、汝當さに諸の大仙人の名號を稱念すべし、此の諸の仙人はみな(一)禁戒を持し成就して常に苦行を修してみな威德を具し大光明あり、或は山河に住し、或は林藪に居す、善惡を作さんと欲して吉凶を呪願すれば、言に隨ひて成就す、五通自在にして虛空に遊行し、一切の爲す所、障礙あることなし、汝當さに稱念すべし、其の名を

阿瑟吒迦大仙　嚩麽迦大仙　嚩麽禰嚩大仙　摩利支大仙　末建妳耶大仙
種種友大仙　婆私瑟佗大仙　跋臘弭迦大仙　迦葉波大仙　老迦葉波大仙
勃陵隅大仙　勃哩囉(二)婆大仙　惹儗囉大仙　婆儗囉娑大仙　阿怛賴耶大仙
補攞悉底耶大仙　鹿頭大仙　焰摩火大仙　洲子大仙　黑洲子大仙　賀哩多大仙　賀哩多子大仙　(三)等聲大仙　(四)高勇大仙　(五)等高勇大仙　說忍大仙　名稱大仙　善名稱大仙　尊重大仙　黃大仙　補怛洛迦大仙　阿濕嚩攞野那大仙　香山大仙　雪山大仙　赤目大仙　難住大仙　吠陝播野那大仙　嚩攞弭迦大仙　能施大仙　訥摩娑大仙　設臘婆大仙　麽努大仙　主宰大仙　帝釋大仙　歲星大仙　嬌大仙　光大仙　鸚鵡大仙　摩羅禰彌大仙　鎮星大仙　辰星大仙　持毒大仙　乾陀羅大仙　獨角大仙　仙角大仙　蘖

(一)阿難陀云云已下卅九尊名を明す。

誐大仙　單拏野那大仙　建姹野那大仙　烟頂大仙　可畏大仙　刼比羅大仙
喬答摩大仙　摩蹬伽大仙　朱眼大仙　妙眼大仙　娜囉那大仙　山居大
仙　訖哩弭囉大仙と曰ふ。

此等の諸仙はみな是れ往古の大仙、四明論を造り善く呪術を閑ひ衆行備はり成じて、自他倶に利す、彼も亦た此の佛母大孔雀明王を以て、我菜甲 並に諸の眷屬を擁護して壽命百年にして諸の憂惱を離れしめよ。復た眞言を說いて曰く　怛儞也二合 佗、一 唎哩唎哩、二 唎哩佉哩、三 麼哩護哩、四 素哩賀哩、五 唎哩唎哩、六 弭哩弭哩、七 嗢普嗢普、八 拏囉普、九 乞囉二合 薩顎、十 沫陀顎、十一 諸賀顎、十二 伽去引 多顎、十三 跛左顎 十四 播引左顎、十五 播引多顎、十六 跢引 跛顎、十七 賀曩顎、十八 娜賀顎、十九 娜賀娜賀娜賀、二十 娜囉娜囉娜囉一 娜囉顎、二十一 播引吒顎、二十二 播引吒顎、二十三 邏引賀顎、二十四 謨引賀顎、二十五 娑擔二合 婆去聲顎、二十六 誓婆顎、引 娑嚩二合 賀引二十七

(一)阿難陀、汝當さに稱念すべし、此の大地の中に大毒藥の名字あり、其の名を 頞拏囉、引 半拏囉、引 迦囉引 擡、引 計庾引 囉、引 四 部引 蹬誐麼、五 部引 多鉢底、六 泥弩鉢底、七 悉哩鉢底、八 帝惹鉢底、九 帝祖引 乞囉二合 鉢底、十 拽戍引 鉢底、十一 拽戍乞囉二合

鉢底、十二 阿囉拏、引 三 多囉拏、引 四 阿囉赧、十五 怛囉拏、十六 難上聲 跢引 諸賀、引 七 濟賀、引 濟邏、引 八 發邏嚫邏、引 九 止囉、引 難覩囉、引 十二 伊哩枳止迦、引 十一 捨且覩囉、引 十二 尾補哩、三 十二 曩矩哩、四 十二 枳哩比、五 十二 怛嘮誐哩瑟吒、廿六 二合 闍母麼底、七 二十 眷母麼底、八 二十 麼度麼底、九 二十 迦麼黎、三十 尾麼黎、一 三十 軍拏黎、二 三十 阿唎覩唎、三 三十 嚩計、四 三十 嚩迦弩引 帝、五 三十 嚩擦曩陛、六 三十 摩賀誐黎、七 三十 覩覽迷、八 三十 蘇覽迷、九 三十

と曰ふ。

阿難陀、此の大毒藥及び諸の藥神も、亦た此の佛母大孔雀明王を以て我菜甲 並に諸の眷屬を守護して、壽命百年にして、諸の毒害を離れしめよ。

復た次に阿難陀、此の佛母大孔雀明王の敎は、七(一)佛正徧知如來の宣說したまふ所なり、所謂る微鉢尸、尸棄、毗舍浮、羯句忖那、羯諾迦牟尼、迦葉波、我れ釋迦牟尼正徧知等、みな此の佛母大孔雀明王を、隨喜し宣說し、慈氏菩薩も、亦た隨喜し、宣說す、索訶世界の主、大梵天王、並に天帝釋、四大天王、持國天王、彥達嚩のための主、增長天王、矩畔拏のための主、廣目天王、龍のための主、多聞天王、藥叉のための主、並に二十八大藥叉將も、みな此の佛母大孔雀明王の眞言を隨喜し宣說す、(二)散支迦大

(一)佛 和淨二本なし。

(二)散 淨・和二本には般に作る。

將訶利底母及び五百子並に諸の眷屬も、亦た隨喜し宣說す。

阿難陀、此の佛母大孔雀明王の眞言は、能く違越するものなし、若しは天、若しは龍、若しは阿蘇囉・麼嚕多・誐嚕拏・彥達嚩・緊那囉・摩護囉誐等も、亦た能く違越する者なし、若しは藥叉若しは羅刹娑、若しは畢嚩多・比舍遮・步多・矩畔拏・布單那・羯吒布單那・塞建那・嗢麼那・車耶・阿鉢娑麼囉・塢娑跢囉迦等の一切の鬼神も、亦た能く違越する者なし、及び一切の諸の惡食の者、精氣を食する者、胎を食する者、血を食する者、肉を食する者、脂膏を食する者、髓を食する者、生を食する者、命を食する者、祭祠を食する者、氣を食する者、香を食する者、鬚を食する者、華を食する者、果を食する者、苗稼を食する者、火祠を食する者、膿を食する者、大便を食する者、小便を食する者、涕唾を食する者、涎を食する者、淚を食する者、殘食を食する者、吐を食する者、不淨物を食する者、漏水を食する者、是の如く等の諸の惡食の者も、亦た此の佛母大孔雀明王を違越すること能はず。又た諸の蠱・魅・厭禱・呪術・諸の惡法の者、訖嘌底迦・羯麼拏・迦具嘌那・枳刺拏・吠跢拏・質者・畢嚩灑迦も、亦た違越すること能はず。又た他の血髓を飲み人と變じて驅使し、鬼神を呼召し、諸の惡業・惡食・惡吐・惡影・惡視

を造り、或は厭書を造り、惡跳・惡驀或は惡冒逆・惡事を作す者あり、亦た此の佛母大孔雀明王に違越すること能はず。又た諸の王の賊・水・火・佗兵・饑饉・非時夭壽・地動・惡獸・怨敵・惡友等も亦た違越すること能はず、悉くみな遠離す。又た諸の惡病・疥・癩・瘡癬・痔漏・癰疽・身皮黑澁・飲食消せず・頭痛・半頭痛・眼耳鼻の痛・唇口頰の痛・牙齒舌の痛・及び咽喉の痛・胸脅背の痛・心痛・肚痛・腰痛・胯痛・及び膝膝の痛・手足・四支・及び隱密處の痛・瘦病・乾消・徧身の疼痛、是の如く等の痛も亦た違越すること能はず、みな遠離することを得。又た諸の瘧病、一日・二日・三日・四日乃至七日・半月・一月なる、或は復た頻日なる、或は復た須臾なる、或は常に熱病し、偏邪癮病・鬼神・壯熱・風黃・痰癊、或は三集病・四百四病みな此の佛母大孔雀明王に違越すること能はず。

阿難陀、復た鬼魅・人・非人等の諸の惡毒害、一切の不祥及び諸の惡病、一切の鬼神並に及び使者怨敵の恐怖、種種の諸毒及び呪術、一切の厭禱あり、みな此の摩訶摩瑜利佛母明王に違越すること能はず、常に一切不善の事を遠離することを得、大吉祥を獲、衆聖加持して所求滿足せしめたまふ。

復た次に阿難陀、若し人ありて纔かに此の摩訶摩瑜利佛母明王の名字を稱念すれば、

便ち自身を護り及び他人を護り、或は線索を結んで、身の上に帶持せば、如し其れ此の人死罪すべきには罰物を以て脫することを得、罰を被るべきには輕杖を以てすべきには罵を被むつて脫することを得、罵を被むるべきには戰慄を以て脫することを得、戰慄すべきには自然に解脫して、一切の苦難悉くみな消散せん、此の人も亦た王●賊●水●火●惡毒●刀杖に侵害せられず、人天鬼神も敢て違越することなし、睡にも安く覺めても安く、諸の恐怖を離れ、福德增長し壽命延長ならん。

阿難陀、唯し宿世の定業の必ず報を受くる者を除いて、但し此の經を讀めば必ず應効を獲。

阿難陀、若し天の旱せん時、及び雨澍の時にも此の經を讀誦せば、諸の龍歡喜して若し澍雨には即ち晴れ、若し亢旱には必ず雨ふり、彼の求むる者をして意に隨て滿足せしめん。

阿難陀、此の佛母大孔雀明王を纔かに憶念せば、能く恐怖怨敵一切の厄難を除く、何に況んや具足讀誦受持せば、必ず安樂を獲ん。阿難陀、此の摩訶摩瑜利佛母明王、是れ能く災禍を除き怨敵者を息め、四衆苾芻尼●鄔波索迦●鄔波斯迦を守護し、諸の怖畏を離れしめんと欲するための故に、復た眞言を說いて曰く　怛儞也二合　佗、引　野嚩底、二駄引顚、三駄囉枳、四矩嚕覩嚕銘、五娑嚩二合引賀引六

貪欲瞋恚癡は　是れ世間の三毒なり　諸佛はみな已に斷じ　實語を以て毒を消除す

貪欲瞋恚癡は　是れ世間の三毒　達磨はみな已に斷じ　實語を以て毒を消除す

貪欲瞋恚癡は　是れ世間の三毒　僧伽はみな已に斷じ　實語を以て毒を消除す

一切の諸の世尊の　大威神を有すと　羅漢の名稱を具せるとは　毒を除いて安隱ならしむ。

我等並に眷屬　常に災厄を離るゝことを得　願くは佛母明王一切をして安隱ならしめよ。

爾の時に具壽阿難陀、佛世尊是の經を說きたまふを聞き已て、雙足を頂禮し、右に繞ること三帀して、佛の聖旨を承け、涉底苾芻の所に往き、便ち此の佛母大孔雀明王の法を以て彼の苾芻のために而も救護を作し、其の地界を結し方隅界を結し、攝受饒益

(一)爾の時　已下流通分なり。

(二)天阿蘇羅等　此の偈を天龍八部の讃と名く。

して其の苦惱を除く時、涉底慈芻の苦毒消散し、身安隱なることを得て、地より起ち、具壽阿難陀とともに佛の所に詣し、雙足を禮し已て一面に在て立てり。

(一)爾の時に世尊、阿難陀に告げたまはく、此の因緣に由て汝當さに普ねく四衆の苾芻・苾芻尼・鄔波索迦・鄔波斯迦・及び國王・大臣・世間の人等に告ぐべし、勸めて一心に此の法を受持して佗人のために說き、經卷を書寫して在處に流通せしめ、當さに壇場を嚴飾し建立して香華・飲食、分に隨ひて供養せしむべし、一切の有情諸の憂惱を離れて福を得ること無量にして常に安樂を獲、壽命百年ならしめん。爾の時に世尊是の經を說き已りたまふに、人・天・藥叉及び諸の鬼魅、佛の敎勅を奉じて敢て違越せず、みな慈心を起し是の經を持する者を護らんと。時に具壽阿難陀及び諸の大衆・天・龍・藥叉・彥達嚩・阿蘇囉・摩嚕多・乾闥婆・緊那囉・摩護囉伽・人・非人等、佛の所說を聞いて、みな大いに歡喜し信受し奉行しき。

(二)天阿蘇羅藥叉等　來て法を聽く者至心に
佛法を擁護し長く存せしめ　各各世尊の敎を勤行すべし
諸有る聽徒此に來至し　或は地上に在り或は空に居し
常に人の世に於て慈心を起し　日夜自身の法に依て住す
願くは諸の世界常に安隱に　無邊の福智をもて群生を益し
所有る罪業並に消除し　衆苦を遠離して閑寂に歸し
恒に戒香を用て體に塗瑩し　常に定服を持して以て身を資け
菩提の妙華をもて徧ねく莊嚴し　所住の處に隨ひて常に安樂ならんことを。

校譌

第十六紙第四行解南藏には得に作る、第十三行王の下南藏には是の字あり。　第十七紙第九行隧、南藏には樂に作る、第十六行持の下南藏には是の字なし。

音釋

弄而涉切　拶子葛切　戟紀逆切　豸池爾切　縒千可切　罽居列切　昂莫袍切　背將支切　軫章忍切　氏鄙黎切　熒惑熒は戶扃の切、惑は胡國の切　彗徐醉切　陝朱冉切　盧敢切　宦陟駕切　嗔日涉の切(又拖羊列切)　姹尼駕の切　嗔盧蔗切　擦七曷切　胯苦化切

國譯佛母大孔雀明王經卷下　終

離六、縮閏七、藏十六套五。

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷上

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼輪

曩莫、薩嚩怛佗孽多南、唵、尾補攞、孽、陛、麼抳鉢囉陛、怛佗蘖多、儞捺拾寧、摩抳摩抳、蘇鉢囉陛、尾麼黎娑孽囉、儼鼻嚩、吽吽入嚩攞、入嚩攞、沒馱尾盧枳帝、襄哂夜、地瑟耻多、孽陛娑縛訶。

(一)経に云く云云　已下は飜譯者經中の肝要たる大意を取りて此に書す

(二)餘の人に轉觸　是は結緣の功德を明す、謂く、讀經の人に轉觸し、又誦經の人に觸るゝ等の風に觸るゝ等なり。

(三)殑伽羅恒河沙なり。頻婆は數のなり。

(一)經に云く、此の陀羅尼は大威德あり、佛此に由て成道し、此に由て魔を降したまふ、能く惡障を滅し能く六度を成ず、若しは紙素牌壁幢閣の上に書せんに、人ありて暫く視て讀誦し受持し、及び聲を聞き身に佩び、並に(二)餘の人に轉觸せば、是の人の五逆●四重●十惡等の罪消滅して、刀毒●水●火●劫賊●邪魅あることなく、瘧疫●寒熱の一切の病苦皆な悉く遠離して、見に福處を獲、所求意に遂ひ、臨命終の時諸佛安慰して、淨土に生ずることを得、所有る禽獸飛蛾蠢蚩蟲等影に遇ひ塵を蒙るもの、みな解脫を得。

序品第一

是の如く我れ聞きき、一と時薄伽梵、王舍大城に在して、初會の時に於て俱胝の魔軍を降伏し、及び一切の外道を調伏して生死を捨離せしめ、諸の瀑流を度したまふ。是の時に那由他百千(三)殑伽羅頻婆羅の魔軍、贍部洲に徧す、時に世尊、佛の神力を以て此の大地を變じて盡く金剛となして、贍部洲の有情の類をして、恐怖を聞かざらしむ。時に彼の魔軍諸の器仗を雨すに、みな變じて華となしたまふ、王舍城の四衢道の中に於て、自然に地より大蓮華を涌出す、其の華千葉にして七寶莊嚴せり、黃金を臺となし、瑠璃を莖となして、高さ梵天に至れり、種種の光明を出して十方に普徧す、其の華の中に於て自然に聲を出して、陀羅尼を說く、名けて警覺となす。陀羅尼に曰く

曩莫、薩嚩怛他引蘖帝毗喻、二合一　曳底瑟綻二合　底、娜捨儞勢、二唵、麼抳上聲嚩日囉、二合　紇哩二合　娜也、三嚩日囉、二合　磨囉賽儞也、上聲二合　尾捺囉二合　寧、四上聲　賀曩賀曩、五嚩日囉二合　孽陛、六怛囉二合　細也、怛囉二合　細也、七娑嚩二合　磨引囉、婆上聲嚩曩引儞、八吽引吽、引九散駄囉、散駄囉、十沒駄引昧上聲底利、二合引十一薩嚩怛他引孽多、十二嚩日囉二合　迦臘跛、二合引地瑟耻二合　帝、娑嚩二合引訶引十三

時に彼の蓮華の中より此の陀羅尼を流出し已て、復た妙聲を出して三千大千世界に徧滿して讚して言く、善い哉釋迦牟尼如來、已に生死の大海を度し魔軍を殄滅し、煩惱の塵を離れ無明の殼を破し、大法炬を然す、此の陀羅尼の威德力に由るが故に、此の大地をして變じて金剛と成らしめて魔軍を降伏したまふと。爾の時に金剛手祕密主菩薩歡喜し踊躍し、身の毛竦り堅うして、佛足を頂禮して佛に白して言さく、世尊今此の陀羅尼は、何れの佛の會に於て最初に而も得たまへる、我れ昔より來た諸の世間に於て未だ曾て聞見せずと。爾の時に佛、金剛手祕密主菩薩に告げたまはく、陀羅尼あり大

麼尼廣博樓閣善住秘密と名く、此の陀羅尼の威德力に由るが故に、能く三千大千世界をして變じて金剛と成し、一切の魔軍の所有る器仗咸く變じて華とならしむ、此の陀羅尼の威神力に由るが故に諸の魔衆を降し、及び俱胝の餘類の有情を化して悉く調伏せしむ、此の陀羅尼の威神力に由て、四衢道に於て蓮華を涌出す。復た金剛手に告げて言はく、我れ若し此の陀羅尼に因らずんば、等正覺を成ずること能はじ、俱胝の魔衆を降伏すること能はじ、煩惱の大海を枯竭すること能はじ、大法炬を然すこと能はず、金剛手、我れ無量俱胝百千劫より來た、難行苦行すと雖も、猶ほ菩提の果を成ずること能はざりき、(一)纔かに此の大陀羅尼を聞いて、加行相應するに由るが故に、正覺を成ずることを得たり、金剛手、此の陀羅尼は大威力あり、大殊勝あり、是れ一切如來の眞實の法性なり、諸の如來をして圓かに法身を證せしむ、金剛手、此の陀羅尼の名號を稱するに由て、則ち已に十方の諸佛如來の名號を稱するになんぬ、若し能く纔かにも念ずれば、則ち爲れ一切如來を禮拜し供養するなり。爾の時に金剛手菩薩摩訶薩、種種の華●種種の香●塗香●末香を以て佛を供養したてまつる、既に供養し已て右に遶ること三帀して佛足を頂禮して而して佛に白して言さく、世尊此の陀羅尼は大威德

(一) 纔かに云云是亦密教に入らざれば成佛せざるの證文なり。

あり、大殊勝あり、惟し願くは世尊、普ねく一切有情のために說きたまへ、彼の世界に何れの殊勝の功德をか現ずる、一切の有情は少善根を以ては、此の陀羅尼を聞くことを得ず、此の陀羅尼は如來の身に等同なり、舍利法性に同なり。爾の時に世尊、金剛手菩薩に告げて言く、金剛手衆生下劣にして勤めて精進せず、心多く惑亂し愚癡闇鈍にして諸欲に耽著し、正法を信ぜず父母を敬せず、沙門婆羅門を敬せず、尊者を敬せず、是の故に此の陀羅尼は彼の人の手に入らず、薄福少智少慧ならん、此の如くの衆生は聞くことを得ること能はず、受持すること能はず、淨信を生ぜず、此の陀羅尼は能く一切の罪を滅す、是れ諸の如來の秘密の藏なり。爾の時に世尊復た金剛手菩薩に告げて言はく、善男子、今汝がために說かん、此の世界より東方、無量恒河沙數俱胝那庾多の佛世界を過ぎて彼に世界あり、寶燈と名く、此の世界は七寶の所成なり、其の城の四面廣さ一由旬なり、諸の人民多くして安隱豐樂なり、彼の諸の男子及び諸の女人●童男●童女、一切の瓔珞をもて其の身を莊嚴し、上妙の寶冠をもて其の首を嚴飾し、容貌端嚴にして大威力あり、勇健精進にして智慧具足し衆藝に通達す。城中に王あり、名けて妙寶といふ、八十俱胝の大臣ありて輔佐し圍繞せり、其の王の皇后を光

(一)二萬　流支本には二十萬に作る

(二)みなの下、和高の二本共の字あり。

明寶と名く、(一)二萬の宮人あり、みな天女の如くして前後に侍奉せり、彼の世界の中の所有る華樹及び諸の香樹、みな是れ七寶の所成なり、水生の諸の華も亦た是れ七寶の所成なり、陸生の諸の華はみな是れ閻浮檀金の所成なり、其の國の人民は壽八萬劫なり、彼れみな十善業道を成就せり、佛法僧に於て大淨信を發す、其の王は正法を以て養育して非法を以てせず、諸の有情に於て常に利益を作す、彼の世界の中に佛あり、端嚴麼尼種種清淨建立如來應正等覺と名く、彼の世界に於て成佛して廣く佛事を作す、無量の大菩薩摩訶薩衆、及び俱胝の大持明仙衆と與んじて、以て眷屬と爲したまへり、彼の如來の身は紫金色にして、三十二相八十隨形好を具し、圓光一尋なり、其の光周徧して猶し七寶のごとく、熾盛に照曜せり、諸菩薩の身悉くみな金色にして、晃曜あて相好端嚴にして、七寶の蓮華に坐せり、彼れみな辯才智礙の智境、明處に通達しみな(二)大寶麼尼廣博樓閣善住祕密陀羅尼を思惟す、此の陀羅尼の威神力に由るが故に、是の如くの殊勝の功德を出生す、彼の佛世尊、一切の有情のために此の陀羅尼の法を演說したまふ、彼の諸の有情此の陀羅尼を聞くに由るが故に、常に安樂を獲、彼の一切の有情諸の地獄●傍生及び烟魔界●阿修羅の身を離れて、みな解脫することを得、諸

(一)哺婆未詳、布羯娑は天竺の死人を荷ふ者、又厠糞を除くもの賤職のものなり。

(二)盲者　目は明てあれども瞳なきなり。

(三)瞎者　眥塞がり見えざるものなり。

の惡趣の門悉くみな關閉し、諸天の門を開き及び諸の善趣を開き、彼の世界の有情悉くみな無上菩提に安住す、彼の一切の有情悉く慈心に住すること、水乳の合するが如し、彼の佛世尊往昔久遠に、菩薩の道を行じたまひし時、此の陀羅尼の法を修して是の如くの願を作したまふ、一切の有情我が刹土に生ずる者は、彼れみな決定して無上正等菩提を退轉せじ。若し衆生ありて此の陀羅尼を聞いて、受持し讀誦し精勤し修習し、憶念して捨てずして、大成就を求め、乃至名を聞き或は復た手に觸れ、或は身の上に佩び、或は纔かに眼に視ん、或は經卷を書し、或は帛素に書し、或は牆壁に書せんを、一切の衆生若し見ることある者は、五逆●四重、正法を誹謗し聖人を誹謗し、捕獵屠兒●魃膾●(一)哺婆●布羯娑●(二)盲者●聾者●(三)瞎者●傴者、人に惡まるゝ者、瘂者●癲者●貧窮下劣不定業の者、魔網に縛せらるゝ者、邪見に墮する者●毗那夜迦に觸れらるゝ者、惡星に陵逼せらるゝ者、七曜に害せらるゝ者、彼等の諸の人、此の陀羅尼を聞かば、決定してまさに無上正覺を證すべし、乃至傍生●鹿●鳥●蚊●●飛蛾●螻●蟻、及び餘類の胎生●化生●濕生等の諸の衆生、此の陀羅尼の名を聞かば、當さに決定して阿耨多羅三藐三菩提を證得すべきこと疑惑すべからず。爾の時に世尊是の語を說き已りたまふに、

一切の大衆みな大いに歡喜して、身の毛聳え豎つ、是の時に天より波頭摩華●芬陀利華●(一)曼陀羅華●摩訶曼陀羅華を雨らし、虛空の中に於て、種種の微妙の天樂ありて、鼓せざるに自ら鳴る。爾の時に會の中の大衆、各各にみな身に光明あるを見る、如來の前に於て自然に七寶の樓閣を踊出す、端嚴麗好にして人見んことを樂ふ、其の寶樓閣は四柱四門、及び四の階道あつて光明照曜せり、樓閣の(二)四角に四の大寶あり、日の熾盛なるが如し、復た無量の摩尼寶珠ありて羅網を綴り、無量の寶鐸而も其の上に懸り、無量の繒旛以て莊嚴をなし、種種の妙華間錯して垂れ下れり、是の時に大地(三)六種震動す、所謂る動●搖●震●動●吼●湧●沒の相なり、諸天の宮殿光明照觸し、光の到る所の處はみな悉く覺悟す、四大天王●持明仙等も亦復た是の如し、一切の魔宮に熾盛なる燈起り、一切の障者毗那夜迦みな、大いに驚怖して十方に馳走し、大聲を以て號哭す。爾の時に世尊、眉間の毫相より大光明を放ちて、其の光普ねく照して、十方一切の佛刹の中の諸佛を警覺す、既に警覺し已て其の光復た收まりて、却りて佛の頂に入る、時に十方の佛咸くみな聲を同じうして、釋迦牟尼如來を讚歎して言はく、善いかな善いかな、釋迦牟尼如來、今寶燈世界の端嚴摩尼種種清淨建立如來の所に往いて

(一) 曼陀羅華　古には白花と翻じ、新には適意と云ふ、見るもの意に適ふ故なり。

(二) 四角に云云　此の文意は曼荼羅の四角に寶珠を安くなり。

(三) 六種震動　六種とは形に三つ、故に六種といふ、震動とは六種の中の二種なり。

此の大衆をして相ひ隨從することを得、瞻禮し供養し、又た廣く大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼の法を聞くことを得しむ、何を以ての故に、此の陀羅尼は大威德あり、大功能あり、一切の過去の諸の如來等の、共に加持したまふ所なり、若し人ありて此の陀羅尼を聞くことを得る者、乃至名字をさへに、及び手に觸るゝ者は、彼の人決定して不退轉を得て無上正覺を證すと。爾の時に釋迦如來、彼の十方世界の中の諸の如來の請を聞き已りて、復た無量俱胝百千萬億の光明を放ちて、諸の大會の諸人等に告げて言はく、我今寶燈世界に往かんと欲ふ時、將さに已に至れり、汝等當さに共に速かに嚴りて隨從すべしと。爾の時に如來、座より起ちて即ち七寶の樓閣に昇りて、手を以て之に觸れたまふに、其の樓閣の中より忽然として金剛師子の妙座を出す、其の座は七寶の所成にして莊嚴殊勝なり、見る者意を喜ばしむ、又た座の上に於て妙蓮華を生ず、七寶の所成にして黃金を莖となし、紅寶を臺となす、時に佛世尊、蓮華の上に於て座を敷いて坐したまへり、爾の時に世界みな大いに震動す、如來即ち大(一)會清淨三摩地に入りたまふ、三昧力を以て一切の大衆を安慰して、諸を虛空に接して一切の衆會並に諸の眷屬、及び大菩薩眷屬の大(二)衆天龍●藥叉●彥達縛●阿蘇囉●誐嚕拏●緊那囉●

(一) 會　高和の二本に寶に作る。流志本も亦た然れば今の本誤り明かなり。

(二) 衆　高和二本なし。

摩護囉誐●人及び非人、無量俱胝の持明仙衆と與んじ、金剛手秘密主、一切釋梵護世四大天王等と與に、虛空に上昇して東方に往いて、無量恒河沙數俱胝那庾多百千の佛刹を過ぎ、刹那の頃に於て寶燈世界に至りて、空より下て彼の端嚴摩尼種種清淨建立如來の所に詣りて、恭敬して少病●少惱●起居輕利なりやと問訊したまふ、時に釋迦牟尼如來、千葉の七寶所成の蓮華を以て彼の佛に奉獻したまふ、時に彼の如來大衆會處の天妙宮殿に在して、金色の臂を舒べて釋迦牟尼應正等覺を安慰したまふ、安慰し已て寶樓閣の中に坐して、釋迦牟尼如來に謂つて曰く、婆伽梵已に大法輪を轉じ、魔軍を降伏し、大法炬を然し法幢を建立し、大法鼓を擊ち大法螺を吹き、彼の世界に於て已に佛事を作し、薩婆若智を證したまふ、婆伽梵今復た第二の法輪を轉じたまふて、當さに閻浮提に於て正法藏を開きたまふべしと。纔かに是の語を作したまふに、彼の諸の佛刹十八種に動ず、所謂る(一)動●極動●徧動●搖●極搖●徧搖●震●極震●徧震●吼●極吼●徧吼●擊●極擊●徧擊●涌●極涌●徧涌なり。爾の時に天より妙華を雨らして大神變を現ず、虛空の中に於て種々の音樂ありて、鼓せざるに自ら鳴り其の聲意を悅ばしむ。又た諸の天子諸の音樂を奏す、所有る天龍種種の寶●種種の香●種種の栴檀香水●種種の衣服●種

(一) 動は三千世界を一四天下を動す、搖は上下にユル、極搖は橫にユル、徧搖は上の如し、震は初めて是は響く、吼は大響の大なるもの、擊は打つが如くになる。涌は凹凸の如くなる。

種の莊嚴の具を雨らし、天妙の赤珠●碼碯●毗盧遮那●大寶●日藏●月愛●日愛を雨らし、吉祥藏大摩尼寶を雨らし、天妙の烏鉢羅蓮華●拘勿頭蓮華●芬陀利蓮華を雨らし、曼陀羅華●大曼陀羅華を雨らし、天妙の閻浮檀金華を雨らし、天妙の銀華を雨らし、天妙の眞珠を雨らすに、諸の天子虛空の中に於て、微妙の音を出して歡悅し讃歎す、其の音展轉して相ひ告ぐ、善いかな善いかな、釋迦牟尼如來、今此の時に於て再び法輪を轉じたまふて、閻浮提に於て大妙寶如意法幢を建てたまふ、所謂る大寶廣博樓閣善住秘密陀羅尼大敎法王なり、今閻浮提に於て廣大に流布せん。爾の時に端嚴摩尼種種清淨建立如來應正等覺、眉間の毫相より光を出したまふに、其の光復た三千大千世界及び諸の天宮●一切の龍宮●一切の地獄●傍生●閻魔羅界●阿蘇囉衆を照して、普ねくみな照曜し警覺し已て、其の光復た收まりて右に彼の佛及び釋迦牟尼如來を遶ること三帀して、便ち頂より沒る。爾の時に十方世界の無量恒河沙(一)等の一切の諸佛、各各に彼の本土に於て大神變を作し、神變を現じ已て彼の世界に詣して、各各に大神通を以て七寶の樓閣を變化し、樓閣の中に於て閻浮檀金の師子座を出生し、彼の一切の佛並に諸の眷屬、樓閣の中に於て坐せり。

(一) 等　和本に數に作る。

爾の時に端嚴摩尼種種清淨建立如來、彼等一切の如來を安慰して、大神通を以て大供養を作して、彼等の諸佛を供養し已て、還りて師子座に坐したまふ、爾の時に摩尼藏菩薩摩訶薩、端嚴摩尼種種清淨建立如來の所に詣りて、頭面に足を禮して佛に白して言さく、世尊今大集會の諸佛菩薩並に天●龍●藥叉●彥達嚩●阿蘇囉●孽嚕拏●摩護囉誐●人●非人等、並に大持明仙會を現ず、所謂る金剛手菩薩を上首と爲して、大摩訶薩と與に大神變を現せり、惟し願くは大寶廣博樓閣善住秘密陀羅尼を宣說したまへ、今正しく是れ時なりと、乃至第二●第三までに是の如きの請を作す。爾の時に端嚴摩尼種種清淨建立如來、摩尼藏菩薩摩訶薩に告げて言はく、汝釋迦牟尼如來の所に往いて、彼の佛に啓請せよ、當さに汝がために說きたまふべし。時に摩尼藏菩薩、釋迦牟尼如來應正等覺の所に詣りて、佛を遶ること三帀して、合掌し頂禮し前へに住して佛に白して言さく、世尊、我今世尊に請したてまつる、大寶廣博樓閣善住秘密陀羅尼を說きたまへ、一切の有情を哀愍し利益したまはんがための故に。爾の時に釋迦牟尼如來、摩尼藏菩薩の請を受け已て、即ち金剛手秘密主菩薩に告げて言はく、秘密主、汝大衆のもとに往いて、金剛杵を以て地を扣擊せよと。時に金剛手秘密主、佛の聖旨を承けて大衆道場の中に於て、杵を以て地を擊つ、纔かに地を擊ち已るに其の地四つに裂けぬ。時に三千大千世界六種に震動して、彼の裂る處より七寶の樓閣を涌出す、其の樓閣は四角にして四柱四門あり、嚴麗殊特にして相好圓備し、光明赫奕たり、四の階道あり、高さは三由旬、縱廣は正等にして五由旬あり、樓閣の中に於て閻浮檀金の寶堵婆を現ず、種種の寶珠を以て而も嚴飾することをなす、七寶の羅網を以て其の上に覆ひ無量の寶鐸を四角に懸け、妙華と繒綵とを以て而も間錯することをなす、彼の寶堵婆の中に三の如來の身あり。爾の時に一切如來並に諸の菩薩、みな大衆と共に寶樓閣寶堵婆の中の三如來を供養したてまつる、所謂る華鬘●燒香●塗香●末香●幢旛●寶蓋なり、諸の音樂を奏して合掌して禮敬したてまつる。時に諸の天●龍●藥叉●彥達嚩●孽嚕拏●緊那羅●摩護囉誐●人●非人等、一切の衆會咸悉く瞻仰して、みな奇特希有の心を生じて、咸く是の言を作さく、此の寶樓閣の寶堵婆何くよりか來れると。高聲に讚じて言さく、奇なるかな希有なりと、旋遶し歌詠し華香●塗香●末香並に諸の音樂を以て、寶樓閣の寶堵婆を供養し、合掌し頂禮し瞻仰して住す。爾の時に樓閣の中より聲を出して告げて言く、汝諸の大衆空中を觀るべしと。衆此の聲を聞き已て咸な空中を觀るに、即ち

廣大吠瑠璃寶所成の雲葉虛空に在るを見る、其の寶雲葉の上に金を以て、此の大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼を書す、虛空の際に於て復た聲を出して曰く、汝等一切の諸佛並に菩薩大衆咸く、此の寶雲葉上の陀羅尼を讀むべしと。此の聲を出し已るに、十方の來りたまふ諸佛の一一の佛の前に於て、みな吠瑠璃寶所成の雲葉の上に、金を以て此の陀羅尼を書けるを現ず。復た是の聲を出さく、南謨釋迦牟尼如來今此の寶樓閣の窣堵婆の門を開きたまふべし、彼の窣堵波の中に於て三如來の身あり、此の三如來の威神力に由るが故に、大神變殊勝の相を現ず、彼の三如來此の會の中に於て、當さに具さに此の大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼並に曼荼羅成就の明法を說くべし。爾の時に十方より同く來りたまふ諸佛咸く是の言を作したまはく、惟し願くは釋迦牟尼如來應正等覺、諸の大衆のために此の窣堵波の門を開いて、諸の大會をして三如來を見せしめたまへ、所謂る摩尼寶華幢三如來●種種摩尼如來●金剛超涌王如來應正等覺なりと。爾の時に釋迦牟尼如來、大神通を現じて寶樓閣の窣堵波に往詣して、百福莊嚴の金色の臂を舒べて窣堵波の門を開き已りて、三如來の身を示したまふ、時に三如來釋迦牟尼如來を讚じて言はく、善いかな善いかな釋迦牟尼如來、今贍部洲に於て再び法輪を

轉じたまふ、薄伽梵此に於て坐したまふべしと。爾の時に釋迦如來、即ち寶塔に昇りて、三如來と與に座を同じふして坐したまふ。爾の時に金剛手菩薩摩訶薩、釋迦牟尼如來を頂禮して白して言さく、世尊今此の樓閣及び窣堵波の中の三如來は何よりか來りたまへる。佛の言はく、乃往古昔不可思議無量無比過無數劫に、此の閻浮提に於て諸の人衆多く、安隱豐樂にして香稻あつて種えざるに自然に成熟し、人彼我なく亦た貯積することなかりき、彼の時に當りて佛の出世したまふことなかりき。一の寶山王あり、彼の山王の中に三たりの仙ありて居住しき、一をば寶髻と名け、二をば金髻と名け、三をば金剛髻と名く、彼の三たりの仙人決定して佛●法●僧寶を思惟し、復た是の念を作さく、我等何れの時にか成佛して無上等正覺を證し諸の有情を度せんと。時に彼の仙等是の思惟を作し已て、須臾默然として復た前の念を起すが故に、即ち諸の有情慈心歡喜種種樓閣三摩地を證す、即ち天眼を獲て上方を觀るに淨居天を見る、復た宮中に於て聲ありて言はく、善いかな善いかな正士能く勝心を發す、所謂る阿耨多羅三藐三菩提心なり、汝豈に曾て大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼を聞けりや、過去の一切如來諸の有情を利益せんが爲めの故に、已に曾し演說したまへり、纔かに此の陀羅

一、六、二 亂脫

四、三 亂脫

五、七 亂脫

尼を聞く者は、當さに無上菩提に於て退轉せざるべし、一切の佛法當さに現前に說得することを得べし、一切の三摩地一切の陀羅尼の法、悉くみな現前し善能く一切の魔軍を降伏し、大法炬を然し一切の善根當さに現前することを得べし、六波羅蜜を滿足し、能く一切の地獄●餓鬼●傍生●焰魔界●阿蘇囉衆及び生老病死憂悲苦惱を解して、七永く解脫を得べし。二當さに後世の時に於て此の贍部洲の有情の、父母に孝せず沙門●婆羅門を敬はず、耆舊を敬はず、正法を誹謗し聖人を毀謗し、四應さに地獄に墮すべからん、三諸佛菩薩を誹謗し阿羅漢を殺し、五無間罪を作り婆羅門を殺し、及び牛を殺す者抄劫し竊盜し、妄語の者、與へざるを取る者、慾邪行の者、和合を離間する者、雜染語の者、稱小斗の者、强いて財物を奪ふ者、他の財物を匿す者、言を委て信に背く者、先生の惡業に持せらるゝ者、五彼の一切の有情の類も、此の陀羅尼の威力に由り、七若しは讀み若しは誦し受持し、若しは身上に佩び、若しは衣中に書し、若しは幢上に置き、若しは經卷に書し、若しは素氎及び牆壁牌板に書し、乃至聲を聞き手に觸れ、及び其の身に影し、及び餘人に轉觸する、決定して當さに無上菩提を退轉せざることを得べし、能く現世に於て無量百千の功德を獲、諸の罪を遠離し一切の善根を成就し、諸魔を摧伏し、諸の世間に於てみな敬愛を得、一切處に於てみな供養を得、一切の國王●王子●宰官●後宮並に諸の眷屬みな歡喜を得、一切の沙門●婆羅門も亦たみな歡喜し、言音威肅あて人に聞かんことを樂はれ、千脚柔輭に聲相和雅に、貧窮を離れて世の苦を受けず、毒藥●刀杖●水火等の難、諸の惡獸の怖、害をなす能はず、諸賊の怖なく、劫盜の怖なく、旃陀羅の怖なく、喃摩の怖なく、大小路を行くに悉くみな怖なし、鬼神の怖なく、羅刹比舍遮の怖なく、拏吉儞の怖なく、毒蛇の怖なし、乃至一日●二日●三日●四日、寒瘧●常瘧●一切の瘧病悉く身に著かず、眼病●耳病●鼻病●舌病●齒病●唇病●喉病●項病●諸の支分の病●手病●背病●腰病●齋病●痔病●淋病●痢病●瘻瘡病●臂病●脛脚痛病●丁瘡腫病●瘰癧●斑病●肚痛●疥病●疱●跛●癩●癬●是の如き等の病なし、頭痛なく、盲ひず瞎せず偃せず、橫災死なく、聾ならず瘂ならず、輕欺せられず是のかき等の類現世に受けず、無礙辯を得て命終に臨まん時心散動せず、一切の諸佛現前して安慰し、亦た厭禱蠱毒呪詛のために身に著かず、臥ても安く覺めても安く、其の夢中に於て百千の佛刹を見、及び諸佛並に諸菩薩圍遶したまふを見、此の祕密陀羅尼の威力に由るが故に、是の如きの殊勝の功德を獲と。時に彼の仙人法を得て歡喜し心に踊躍を生じ、

其の住處に於て便ち身命を捨つ、捨つる所の身は猶ほし生酥の銷鎔して地に入るがごとし、即ち沒處に於て三の竹を生ず、金を莖葉となし、七寶を根と爲す、枝梢の上に於て皆な眞珠あり、香氣芬馥として常に光明あり、所有る見る者欣悅せざるはなし、其の竹生長し十月にして便ち自ら剖裂て、各の竹の內に於て一童子を生ず、顏貌端正にして、人をして見んことを樂はしむ、最勝端嚴にして光色殊麗、相好成就す、時に三童子即ち是の地の竹下に於て結跏趺坐し、即ち正定に入て第七日に至て、其の中夜に於てみな正覺を成ず、其の身金色にして三十二相八十種好あり、圓光嚴飾す、時に彼の三竹悉くみな變じて七寶の樓閣と成る。又た虛空中に於て大寶廣博樓閣善住秘密陀羅尼あり、金を以て字となす、忽然として現ずる時四たりの大天王あり、所謂る寶髻龍主天王●寶藏鳩槃茶主天王●妙珠光摩護囉誐主天王●摩尼金剛藥叉主天王●各の寶蓋を持して其の上を覆ひ佛の功德を唱ふ。是の四天王に各の無量百千の眷屬あり、悉く妙華を持して以て供養し、咸く是の言を作さく、今佛世尊世に出現したまへりと。爾の時に世尊金剛手菩薩摩訶薩に告げて言はく、昔しの三仙人は豈に異人ならんや、今此の寶樓閣の窓堵波の中の三如來是れなり、彼の時の三竹は今の妙樓閣是れなり、彼の時の地は今の此の地是れなり、彼の時の世界は今の此の世界是れなり、彼の三仙人此の陀羅尼を聞いて勤めて修習せしに由るが故に、彼の身を捨てて等正覺を成ず。復た次に金剛手、彼の時空中にして此の陀羅尼を讃歎せし淨居天子は豈に異人ならんや、則ち我身は是れなり、(一)復た侍者あり名けて淨居と曰ひき、常に勤めて彼の三仙人に承事す、其の三仙人正覺を成じ已て亦た復た供養しき、彼の淨居のために授記して曰く、汝來世に於て當さに作佛するを得べしと。其の淨居は豈に異人ならんや、今此の端嚴摩尼種種清淨建立如來是れなり。

(一)復に作る。和本に彼

爾の時に十方世界より來りたまふ所の一切諸佛、咸く釋迦牟尼如來を讃じて言はく、善いかな善いかな能く如來の神通加持を以て此の往昔の因緣を說き、如來祕密陀羅尼を示現したまふ、此の陀羅尼は是れ一切如來の祕密、是れ一切如來の母、是れ一切如來の心祕密陀羅尼、是れ一切如來轉法輪祕密陀羅尼、是れ一切如來往詣したまふ菩提道場祕密陀羅尼、是れ一切如來の詣したまふ金剛師子座祕密陀羅尼、是れ一切如來神通遊戲祕密陀羅尼、是れ一切如來波羅蜜圓滿祕密陀羅尼、是れ一切如來般若波羅蜜攝受祕密陀羅尼、是れ一切如來眞言祕密陀羅尼、是れ一切如來曼荼羅祕密陀羅尼、是れ

一切如來堅持印祕密陀羅尼、是れ一切如來放俱胝光祕密陀羅尼、是れ一切如來實際祕密陀羅尼、是れ一切如來三摩地神變加持祕密陀羅尼、是れ一切菩薩菩提心莊嚴祕密陀羅尼、是れ一切菩薩安立如來地祕密陀羅尼、是れ一切三摩地通達祕密陀羅尼、是れ摧一切障祕密陀羅尼、汝今說くや。爾の時に釋迦牟尼如來應正等覺、正念智に住して一切如來を觀察し、大梵音を出し、復た百千萬俱胝那庾多種種の光明を放ちたまふ、所謂る青●黃●赤●白●紫なり、十方の諸佛世界に普徧して照曜し已り、一切如來を警覺したまひ、其の光復た收まりて佛を遶ること三帀して佛の頂に沒る、光既に沒り已て爾の時に世尊、淨妙の梵音を以て大衆中に於て即ち(一)警覺陀羅尼を說いて曰く　唵、引　薩罰怛他孽多、一摩(ニ)抳(シヤタ)捨多、你(ニ)跛(ハチ)底、二合引二　入嚩二合　攝入嚩二合　攝、三達麼馱覩(ヤラベイ)孽韈、四麼抳麼抳、五摩訶摩抳、六怛他孽多、紇哩二合　怛(ダ)野、麼抳、娑嚩二合引　訶引七

此の警覺大明陀羅尼を說き已りたまふに、山林●大地六種に震動し、一切如來聲を同ふして讚じて言く、善い哉善い哉釋迦牟尼如來善く此の最勝祕密陀羅尼を說きたまふと。虛空の中に於て(二)贍部金雲を現ずるに十方に徧滿し、其の雲中於り七寶の雨を下し、復た龍堅旃檀末を雨らし、復た優曇鉢華を雨らし、一、三而も以て二及び餘の種種の妙華

(一) 警覺陀羅尼以下三種の眞言を破地獄の眞言といふ。

(二) 贍部金雲　贍部金を以て雲葉となすこと上の瑠璃雲葉の如し。

一、三、二、四　亂脫

を供養し、四復た蓮華●拘物頭華●芬陀利華●蘇嚩地迦華●曼陀羅華●摩訶曼陀羅華●盧遮華●摩訶盧遮華●曼殊沙華●摩訶曼殊沙華●蘇摩那華●末利師(バツシ)華●贍蔔華を雨らして、佛を供養す、一切魔宮熾然として火起り、一切魔衆愁憂し萎悴し、皆大いに驚怖し、一切の障者毗那夜迦驚懼して、身みな惡氣臭穢を流汚し、十方に馳走す、所有る諸天、佛敎の中に於て淨信を生ずる者、及び天●龍●藥叉●彥達嚩●阿蘇囉●孽嚕拏●緊那囉●摩護囉誐●人●非人等、各の供具を持し虔誠をもて如來を供養したてまつる、復た摩尼照曜思惟菩薩ありて上首と爲す、無量俱胝那庾多百千の菩薩と與に、悉く種種の妙寶を持して佛を供養したてまつる。時に金剛手菩薩を上首と爲して無量百千の持明仙と與に各の種種百千の天衣を持して佛に供養したてまつる。復た四大天王あり、無量百千萬億の四天王衆と與に、種種の香華●塗香●末香●華鬘●衣服●旛蓋を以て佛に供養したてまつる。復た梵天あり、梵衆の諸天と與に來りて供養したてまつる。復た三十三天あり、百千萬億の天子と與に、帝釋を上首と爲して佛を供養したてまつる。是の如く那羅延●大自在天●寶賢●滿賢●賢力天等同じく來て供養したてまつる。復た日月天子あり、空中に在て佛に供養したてまつる。復た大吉祥天女●大辯才天女●餉企尼天女●訶利底

藥叉女あり、無量の百千の藥叉と與に、而も眷屬爲り。復た毗摩大天女●金剛迦離天女●華齒天女●使者大天女あり、百千萬億なり、各各天の宮殿を以て佛を供養したてまつる。復た無量の彥達嚩衆あり、百千種の天妙の音樂を奏して佛を供養したてまつる。復た無量百千の龍王ありて集會す、所謂る娑竭羅龍王●難陀龍王●鄔波難陀龍王●嚩魯拏龍王●善住龍王●寶髻龍王●普徧形圓滿龍王●種種光味寶を以て佛を供養したてまつる。復た轉輪王あり、無量百千萬億の大臣●宮人●嫉女及び千子の與に圍遶せられて來て、佛を供養したてまつる。爾の時に大地變じて金剛と成る、如來の前に於て地より七寶の蓮華を涌出す、其の華百葉なり、其の華中に於て贍部金剛の千輻の寶輪あり、光明赫奕として日の如し、其の光徧ねく三千大千世界を照し、輪齋の中に於て微妙の聲を出して是の如くの言を作さく、善いかな善いかな釋迦牟尼如來、能く是の如くの祕密陀羅尼を說いて、能く無上大法輪を轉じ、能く大菩提場に詣りたまふ、此の陀羅尼是れ諸の如來祕密明心なり、是は諸の如來眞實理趣明心なり、惟し願くは世尊復た更に爲めに此の大寶廣博樓閣陀羅尼を說きたまへ、世尊已に警覺陀羅尼を說きたまふ、此の陀羅尼に由て一切の如來並に其の大衆を警覺したまふに、皆來りて集會す、世尊此の祕密陀羅尼を說きたまはんこと今正しく是れ時なり。世尊此の陀羅尼は是れ成佛の根本なり、能く一切の罪を除き、能く一切の苦海を竭し、能く一切の生死の曠野を遮止し、能く一切の煩惱の瀑流を越ゆ、若し此の陀羅尼大明王なくんば、終に無上正覺を成ずること能はず、此の陀羅尼は是れ成佛の種子なり、是れ大法炬を然し、是れ大法憧を建て、是れ大法螺を吹き、是れ大法鼓を擊ち、是れ法師子座なり、善い哉世尊、惟し願はくは廣く大衆のために此の大陀羅尼王の曼荼羅と印法と畫像の法とを說きたまへと。爾の時に大會に雲集せる天●龍●藥叉●彥達嚩●孽嚩拏●緊那羅●摩護羅誐●人●非人等、咸く希有奇特の心を生じ、皆な世尊を禮し、瞻仰して住せり。爾の時に世尊、大衆の虔誠の請を聞き已つて、即ちために廣く此の陀羅尼大敎王法を說きたまふ。

○(一)根本陀羅尼品第二

爾の時に世尊諸の大衆に告げたまはく、我今此の陀羅尼敎王を說かん、此の陀羅尼は、能く無上菩提を成就せん、若し受持するものあらば、能く一切の罪業を除き、身淸淨なることを得ん、即ち根本陀羅尼を說いて曰く　曩莫、薩嚩怛他引孽多去擊　南、引一唵、

(一)根本云云　梁の失譯牢梨曼荼羅經には此の以前の文なし、以下の文を翻して牢梨曼荼羅經といふ。此の印相は下卷にあり

二尾補攞孽陛、三麼抳鉢囉二合 陛、四怛他蘖多、五伊揉拾寧、六摩抳摩抳、七蘇上聲鉢囉二合 陛、八尾麼黎、九娑引孽 囉、十儼鼻囉、十一 吽、十二 吽、十三 入嚩二合 攞、入嚩二合 攞、十四 沒馱尾盧枳帝、十五 襄嗢夜、二合引 地瑟耻二合 多、上聲孽陛、十六 娑嚩二合引 訶。引十七

爾の時に世尊、此の大寶廣博樓閣善住祕密根本陀羅尼を說き已りたまふに、此の大地に於て六種震動し、大寶雨及び大妙華を雨らし、一切の來る所の大衆咸くみな歡喜して未曾有なることを歎ず、能く一切の善法みな悉く成就して十地を證得せしむ。是の時に十方の諸の如來同聲に釋迦牟尼如來を讚歎して言さく、善いかな釋迦牟尼如來、乃し能く此の入菩提道場陀羅尼を說きたまふに、若し纔かに此の陀羅尼を聞けば一切の惡趣を除滅す、纔かに此の陀羅尼を憶念すれば、則ち諸の微妙の香華●塗香●末香を以て十方の一切諸佛に供養することと爲る、若し能く纔かに誦すれば即ち無上正覺を退轉せざることを得、乃至百劫●千劫●百千劫にも一切の如來其の功能を讚歎し盡したまふこと能はず、此の陀羅尼は大威力あり、一切の諸魔終に其の障礙を作す能はず、一切の寃家●惡友●鬼神●藥叉●羅刹●人●非人等其の便りを得ず、無量の善根を增長す、若し纔かに此の陀羅尼を念ずれば福を獲ること無量なり、何に況んや久しく能く誦持せんをや、其の福校量すべからず。爾の時に執金剛手藥叉將及び四大天王、佛の所に往詣して恭敬し合掌し、佛足を頂禮し。供養して住して佛に白して言さく、世尊我等此の陀羅尼を持せん有情を擁護して、加持養育しみな歡喜せしめん。爾の時に世尊金色の手を舒べて執金剛手菩薩の頂を摩し、及び四大天王を安慰し、是の如くの言を作さく、我此の陀羅尼を以て汝に付囑す、若し此の陀羅尼を持する者あらば、汝當さに擁護すべしと。爾の時に執金剛手菩薩及び四大天王、佛に白して言さく、世尊我等付囑を受け已る、此の大敎王を以て常に當さに彼の有情の、陀羅尼を受持する者を擁護すべし。

○(一)心及び隨心陀羅尼品第三

爾の時に世尊、復た心陀羅尼を說いて曰く 唵、一麼抳上聲、嚩日(二)哩、二合 吽。爾の時に世尊復た隨心陀羅尼を說いて曰く 唵、一麼抳上聲(三)軫の切 駄上聲嚩、二 吽泮吒半音

(四)若し根本陀羅尼を誦持せば、時日宿曜を簡擇するを假らず、齋戒を限らず、但し一萬徧を誦滿し已て、然して後佛前或は舍利塔の前に、白月十五日に於て潔淨洗浴して

(一)心及び云云 心呪と隨心呪となり。此の二呪は殊勝なること諸宗皆之を知れり。
(二)哩 和本に嚩に作る。
(三)軫 和本に輕に作る。
(四)若し云云 持根本呪法。

鮮淨衣を著け、力に隨て供養せる、四盞燈を然して諸の香華を散じ、陀羅尼を受持する者は三白食を食し、制底を旋遶すること一百八帀し、陀羅尼を誦すること一百八徧し、便ち當處に於て寢息せよ、天曉けんと欲する時、如來即ち其の身を現じたまひ、執金剛手菩薩も亦た前に現じ、所有る願はみな意の如くなることを得。若し五無間罪を造らば、是の如くの法を作し、(一)次に第三徧せば方さに感現することを得ること疑惑を生ずること勿れ、常に清旦に於て誦すること一百八徧すれば、所求の事みな成就することを得、蠱毒●諸毒も害をなす能はず、水も漂はす能はず、火も燒く能はず、賊も劫むる能はず、病も侵す能はず、他の寃怖なく常に重病なく、亦た眼病●耳病●鼻病●舌病●口病●齒病●唇病●頭痛●支節の痛なし、一日の瘧●二日●三日●四日の瘧悉く身に著かず、諸惡の毒蛇●虎●狼●禽獸も害をなす能はず、厭禱呪詛も亦た身に著せじ、此の陀羅尼の威力是の如く一切の怖畏を息め、能く一切の惡障を滅して、能く一切の功德を生じ、能く六波羅蜜を成就し、能く如來の境界を成就す、纔かにも此の陀羅尼を誦すれば、みな能く一切の事業を成辦す。若し人ありて大高山頂に登り此の陀羅尼を誦すれば、眼の所見の處を盡して、所有る衆生一切の罪業を滅し、亦た一切の地獄の業を離れ、傍生の身を免るることを得。若し天廟の中に入り此の陀羅尼を誦すれば、諸の天神みな悉く教を奉せしめん。若し龍地に入りて此の陀羅尼を誦すれば、一切の龍衆みな來りて歸命せん。若し日前に於て此の陀羅尼を誦すれば、日天子即ち其の人の前に來現して、求むる所の意願みな能く之を與へん。若し人ありて執金剛手菩薩の前に於て、此の陀羅尼を誦すれば、金剛手菩薩其の前に現じて、求願する所の者亦た意に隨ふことを得。若し人ありて菖蒲の根を取て此の陀羅尼を誦すること一千八徧し、口中に之を含んで王宮に入るに、所有の演說妃●后●嫉女歡喜し淨信せん。若し胡椒を加持して口中に含み、他人と共に語るに、出す所の言辭みな悉く信受し當さに歡喜を生ずべし。若し白芥子を加持すること一千八徧して虛空に擲げんに、一切の惡風●雷●雹みな消散するを得。若し鹽を加持すること一百八徧し、淨行の婆羅門に與ふれば皆來りて敬受し此の鹽を食する者みな歡喜を得。若し刹利を敬愛せしめんと欲はば、白芥子を取て護摩すること一千八徧すれば、即ち敬愛を得。若し安息香を加持すること一千八徧して一切の鬼魅病の人の前に於て燒かば、其の類する所に隨つてみな自ら語を下し、彼の病即ち差えん。若し亢旱するの時は、先づ瞿摩夷を以て地に塗り、四肘の方壇を作り

(一)次　或はいふ至の字か。

中心に一水池を畫き方二肘を青色に作り、池中に於て瞿摩夷を取て土に和し泥と爲し、揑ねて一龍を作り、腰已上を菩薩の身と爲し、菩薩の面を作り、其の頭上に於て三の蛇頭を出し、腰已下を蛇身と爲し、池中に於て盤屈す、其の龍徧身黃丹を以て塗て赤色と作らしめ、金薄を以て龍の心上に貼り、壇の四邊を遶て白粉を以て畫いて蓮華を作り、壇の四角に於て四隻の箭を挿み、五色の線を以て箭を纏繞し、其の壇を周圍せよ。又た線上に於て五色の小旛を懸け、四の角に四の水缾を安し、四門に香爐を安せよ。又た四箇の小缾を用て、一缾に乳を盛り、一缾に酪を盛り、一缾に乳糜を盛り、一缾に酥及び砂糖を盛り、四盞燈を然し四種の香を燒く、所謂る安息・薰陸・白檀・蘇合なり、壇上に於て七種穀子（大麥・小麥・稻穀・菉豆・油麻・芥子・白芥子・）を散し、五色の食飲並に諸の華果を供養し、念誦の人は面を東に向へて坐し、白芥子を取て先づ陀羅尼を誦し、加持すること一千八徧し已て、然る後に白芥子一顆を取り、陀羅尼を誦すること一徧して龍の頭上を打ち、一千八徧を滿せば、其の龍即ち雨を降し一切の龍みな降伏せん。若し雨を止めんと欲はば、白芥子を加持すること一百八徧して龍の池中に擲げよ、其の雨即ち止まん。若し惡風・雹雨あらば、佉陀羅木を取て橛を作り、龍の池邊に釘てば、即ち雹下らず、惡風即ち止むことを得ん。若し毗那耶迦を縛せんと欲せば、白芥子を取て加持すること一百八徧して、毗那夜迦の頭上に安せば、便ち其の障礙を作すこと能はず、乳を以て毗那夜迦を洗へば即ち解脫するを得、所作の事業みな成就するを得。其の持誦者常に清潔にして鮮淨の衣を著すべし、此れは是れ根本陀羅尼法なり。

音釋

聲（居影の切）囊（先代の切）孽（魚列の切）陛（部禮の切）瘡（魚略の切、瘡病なり）瘻（力鬬の切、瘻部禮の切、後の病なり瘻股なり。）瘰（瘰は郎果の切、癧は郎狄の切、瘰癧病は節の結するなり。）

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷上終

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷中

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

〇成就心陀羅尼法品第四

凡そ心陀羅尼事業を成就せんとならば、十萬徧を誦すれば即ち一切如來を見てたまつり、二十萬徧を誦すれば一切の佛土を見ることを得、若し三十萬徧を誦すれば一切曼荼羅に入ることを成するを得、一切眞言法悉く成就するを得、四十萬徧を誦すれば持明仙中轉輪王たるを得、五十萬徧を誦すれば一切阿蘇囉及び諸の仙窟●龍宮の窟門自ら開いて、悉くみな入ることを得、若し六十萬徧を誦すれば一切の伏藏を見ることを得、若し七十萬徧を誦すれば即ち過去無量生の宿命の事を憶知し、若し八十萬徧を誦すれば即ち寶印三麼地を得、若し九十萬徧を誦すれば一切菩薩の遊戯神通加持を得、若し一百萬徧を誦すれば、一切如來の灌頂したまふを得、一切如來と與に同會し、福慧是の如く倍增して無量殊勝の功德を獲。若し五無間罪を造り聖人を誹謗し、正法を誹謗し阿鼻地獄に入るべからん者は、此の陀羅尼十萬徧を誦するに由て、一切の業障悉くみな消滅し不退轉を得、宿命智を獲、一切如來護念攝受して、眼清淨●耳清淨●鼻清淨●舌清淨●身清淨を得、無量殊勝の功德を增勝して、轉た更に身業清淨を增勝し、兼ねて世間の種種の事業意に隨て成就することを獲。復た次に雄黃法を說かん。好き雄黃を取て熟銅器中に置き、白月十三日より清淨に洗浴し、鮮淨の衣を著、三白食を喫す、所謂る乳●酪●粳米を佛前に於て加持すること十萬徧せよ、十五日の夜に至て加持する所の雄黃三種成就の相を現ず、若しは煖、若しは烟、若しは光焰あらば即ち成就するを得、若し煖ならば將用て額に點せよ即ち安怛那成就するを得、阿蘇羅窟及び一切の神仙の龍宮に入て持明轉輪王の位を得。音樂の所作みな成就するを得。若し烟出でなば用て眼中に點ずれば、當さに一切菩薩の宮殿住處を見るべし、又た一切金剛族類の菩薩を見たてまつり、一切の諸の惡魔障礙すること能はず、一切の法藏を(一)獲得し、所去の處に隨てみな通達するを得。若し火焰を現ずれば即ち虛空に騰りて然炬陀羅尼三摩地を證得して、三十三天の中の主宰と作るを得、所須みな得。若し山の頂上に於て誦すること一萬徧すれば、一切の衆生に尊重せらるゝことを得、所求みな得。一切の贍部

(一) 獲得　通達するなり。

の人咸く來て恭敬す。若し水池中に入て誦すること一千八徧すれば、一切の諸龍みな悉く降伏せん。白芥子を取て加持すること一千八徧して虛空に散擲すれば、時に應じて雨を注ぎ諸龍を降伏せん。若し常に日日誦持すれば大吉祥を獲、若し一切の病を患ふれば、氷一缾を取り因陀羅呵悉多藥（白及藥なり。）及び鉢羅奢藥（赤及なり）白芥子並に欝金香●白檀香等を以て各の(一)一分を缾中に內著れ、加持すること一萬徧して、此の香水を取て頂に淋灌すれば、一切の大重病人みな除差するを得、及び一切の罪障を滅し、所有る符書厭禱みな悉く消滅して、一切殊勝の吉祥を獲得す。若し癩病を患ふれば澡洗し、灌頂するも亦た除差するを得、若し(二)白癜風を患ふれば、水を以て灌頂するも亦た除差することを得。若し女人ありて男を求めんと意欲すれば、水を以て灌頂すれば即便ち男を生ず、若し人ありて久しく持誦するも靈驗なく悉地現前せずんば、此の灌頂の法を作さば速かに悉地を得ん。是の如き等の世間●出世間の所求の一切の願、みな成就するを得ん。

(一) 一分　流志本に云く、一小兩半と。

(二) 白癜「シロナマズ」なり。

○成就隨心陀羅尼法品第五

隨心陀羅尼を誦して一萬徧を滿すれば、所有る諸鬼神、障難を作す者悉く來り、足を接し禮拜し白て言はん、持明者我等を救護して我が命を斷ずること勿れ、我を使ふ所の者あらば決定して了するを得、我みな成就せん。若し二萬一千徧を誦すれば、即ち一切の天龍敬伏して天中の主たることを得、出す所の言辭天みな奉行せん。若し三萬徧を誦すれば一切の鬼神藥叉等咸な悉く順伏せん、若し四萬徧を誦すれば意に鈎召せんと欲するに、意に隨て即ち成ぜん。若し五萬徧を誦すれば、鈎召追攝せんと欲する所の若しは天、若しは龍、若しは藥叉、若しは孽嚕拏、若しは緊那羅、阿蘇羅●摩護羅誐、及び仙人●婇女●沙門●婆羅門●刹利國王●王后●宰相●群臣及び餘の種種の人等、みな意に隨ふことを得ん、安息香を燒いて白芥子を和し、若し六萬徧を誦すれば、無垢三摩地を得ん。若し七萬徧を誦すれば、持明仙中の轉輪王と作ることを得ん、若し八萬徧を誦すれば、執金剛手菩薩及び眷屬と與に其の前に來り現せん、若し九萬徧を誦すれば、諸の菩薩に無畏を施與することを得ん、若し十萬徧を誦すれば、一切の如來を見たてまつることを得、彼等の如來是の言を作したまはん、善男子汝往かんと欲する所の諸佛の刹土、みな意に隨ふことを得て、障礙あることなからん、一切の眞言に通達し、經論に通達し、一切の如來加持して三貌三菩提に於て退轉せず、及び種種の

世間●出世間の法を得、心に樂求する所みな成就することを得、諸佛如來みな悉く印可したまふ。

○(一)諸儀軌陀羅尼品第六

坐眞言に曰く　唵、引一摩扠、軍吒利、吽吽、二娑嚩引二合訶引三　七徧を誦して然る後ち坐し、餘の護持の法を作せ。

○次に壇界を結する眞言に曰く　唵、引一摩扠尾惹曳、駄囉駄囉吽、二娑嚩引二合訶引三

此の眞言を誦し、白芥子を加持すること七徧して、四向に散せよ便ち結界を成ず。

○次に十方界を結する眞言に曰く　唵、引一入嚩二合里多、麼扠、二虛止囉室哩二合扠、吽吽、泮吒半音三　此の眞言を誦し、香水を加持して白芥子に和し、一百八徧して十方に散せば、即ち十方界を結することを成ず。

○毗那夜迦を辟くる眞言に曰く　唵、引一摩扠鉢囉二合婆、嚩底、二賀囉賀囉、三吽吽泮吒、半音　娑嚩二合訶引四　此の眞言を誦し、灰水を加持すること二十一徧して十方に散せよ。(二)

○頂髻眞言に曰く　唵、引一嚩日囉二合摩扠、二底瑟吒二合底瑟吒、三二合吽吽泮吒、半音四

(一)諸儀軌云云以下儀軌なり、始に坐の眞言あり、坐常の行法の時、坐しながら之を誦すべし、是には別の印相は之れなし、結跏牛跏等即ち是れ印相なり。

(二)流志本に云く則ち一切の毗那夜迦をして悉くみな縛せしめ、能く難を作すなけん。

此の眞言を誦すること七徧して、右手を加持して拳に作り、大指を舒べて以て頂を摩し、右に旋らすこと三帀すれば、即ち護身を成ず。

衣を加持する眞言に曰く　唵、引一摩扠微布黎、二地里地里、三吽泮吒四　此の眞言を誦すること七徧して衣服を加持せよ。

○洗漱の眞言に曰く　唵、引一尾你庚二合嚩底、二訶囉訶囉、三摩訶引摩扠、吽吽泮吒、半音四　此の眞言を誦して水を加持し、手を洗ひ口を漱ぎ、及び用て身に灑げば、能く諸根を淨めむ。

○洗浴の眞言に曰く　唵、引一蘇涅摩攞嚩底、二訶囉訶囉、三播奔弭哩弭哩、四吽、娑嚩二合訶引五　此の眞言を誦し、白芥子の水を加持すること一百八徧して身に浴す。

○結護眞言に曰く　唵、引一摩扠達哩、二吽吽、泮吒半音三　此の眞言を誦し用て一切の香華●果實●飲食に灑ぎ、及び所用の物を、みな此の眞言を用て加持して之を護れ、

○神線の眞言に曰く　唵、引一地哩地哩、二微麼羅迦哩、三吽吽、泮吒半音四

○華を獻ずる眞言に曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、二布惹麼扠、吽吽三　所有の華みな此の眞言を誦して加持せよ、散ずる時も亦た誦せよ。

○塗香の眞言に曰く　（朱）流志本に曰く、香を塗て壇を泥る呪に曰く。又曰く此の呪を誦し香を呪して壇に塗る。　唵、一引薩嚩怛他孽多、二嚩駄摩抳、娑頗二合　囉拏、吽三

○燒香の眞言に曰く　唵、一引入嚩二合　里多摩抳、二阿沒囉矩吒、娑頗二合　囉拏、上聲尾孽底吽三

○燈眞言に曰く　唵、一引入嚩二合　里多始佉黎、二駄嚩哩、三吽吽、泮吒、四半音

○食を獻ずる眞言に曰く　唵、一引鉢囉二合　嚩囉、引孽囉二合　嚩底、二娑囉娑囉、三吽吽四

○閼伽を獻ずる眞言に曰く　唵、一引摩訶末抳布囉耶、二駄囉駄囉、吽吽三

○供養物及び食等を奉獻する眞言　唵、一引摩訶微摩犁、吽吽、二娑囉娑囉、吽三

○護摩眞言　唵、一引入嚩二合　羅、薩普二合　囉、二誐誐那、鉢囉二合　多囉抳吽吽三

○念珠を加持する眞言　唵、一引嚩止囉、摩抳、二鉢囉二合　靺多耶、吽三　此の眞言を以て念珠を加持すること七徧し、若しは本眞言を念誦すること一徧して一珠を移せば、即ち一切如來所說の眞言一徧を誦することを成じ、一一の眞言は無量百千那庾多徧を成ず。

○念誦時眞言に曰く　本眞言を念誦せんと欲する時は先づ此の眞言を誦す。　唵、一引嚩日囉摩伊、迦囉二緊迦哩吽吽泮吒三

○結跏坐の眞言に曰く　唵、一引蘇鉢囉二合　靺底多、吠藝、二摩抳摩抳、娑嚩二合引　訶三引

○一切如來を警覺する眞言　唵、一引薩嚩怛他孽多、二嚩庾半聲惹吠、三多囉多囉四吽、摩抳迦娜寧、娑嚩二合引　訶五引

○一切如來を請する眞言　唵、一引素微布羅鉢囉二合　嚩黎、二杜嚕杜嚕、吽吽三

○求願眞言　唵、一引薩嚩怛他孽多、二地瑟吒二合　那、質多、僧嗒訖叉二合　拏、三嚩日哩二合　吽吽四

○菩薩の願を求むる眞言に曰く　唵、一引蘇尾布羅、嚩娜寧、二訶囉訶囉、（二）吽三

○一切の天龍を請する眞言　唵、一引阿鼻娑摩耶、嚩日哩、二合　駄囉駄囉、吽二

○四天王等を請する眞言に曰く　唵、一引摩抳、尾誐嚩底、吽二

○弟子を加持する眞言に曰く　唵、一引輸上聲婆摩抳。二戸盧戸盧、吽三

○弟子を加持して弟子を壇に入れしむる眞言に曰く　唵、一引薩嚩怛他孽多、二喝哩二合捺耶、嚩日哩二合　抳、三達囉達囉、吽吽、四（二）

（一）吽　和本にあり、流志本及び牟黎經には一吽。

（二）流志本に曰く入壇に臨まん時、門前にて禮拜し、已て跪跪し、合掌して之を誦し即ち壇中に入るべし。

○一切の佛、一切の菩薩●諸天等に食を獻ずる眞言　唵、引一尾囉尾囉逝、二鑠誐那嚩吽你、三攞吽攞吽、吽吽四　所有る一切の香●華●飲食みな此の眞言を誦して用持て之を獻せよ。

○護身の眞言に曰く　唵、引一摩抳、蘇唵二合婆抳、二吠誐嚩底、三囉訖叉二合　囉訖叉二合　鎝、吽四

○諸の聖衆を奉送する眞言に曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、二嚩日囉二合　矩盧你底娑摩二合　囉抳三尾誐底、四入嚩二合　羅入嚩二合　羅、五吽吽、娑嚩二合　訶引六　此の眞言を誦し、一切處に通じて用ひよ、所謂る本尊を奉送し、閼伽●香華●飲食を獻ずる等に用ひよ。

以上一切心眞言は、先づ各の一百八徧を誦し、然る後に作法する時纔かに誦すれば、一切の罪を滅し一切の苦惱をみな解脱することを得、諸佛如來決定して菩提の記を授け、當さに作佛するを得べし、先世の惡業も此の眞言を受持すれば、悉くみな消散して無量恒河沙數の功德を獲、速かに無上正等菩提を證し、能く法輪を轉せん。

○建立曼荼羅品第七

(一)爾の時に世尊、曼荼羅儀軌を說きたまはく、時に依り法に依て先づ勝地を擇んで、然して後に壇を作れ、其の壇四肘四門あり、瞿摩夷を以て土に和し、徧ねく之を塗拭し、壇上に一白蓋を張りて壇の大小に稱はしめよ、壇の中心に於て二肘を取て、拼一小方壇を作り、先づ白檀香を以て塗拭し、次に鬱金香を用て之に塗れ、或は五色の粉を以て撚成し、或は畫くも亦た得、新器の中に於て彩色を和し、之を用て小壇中に於て七寶樓閣を畫き、樓閣中に於て一佛の形像を畫き、說法の相を作す、佛前に一蓮華を作り七寶莊嚴し、蓮華胎中に於て一輪を畫作し、其の輪(二)百輻臍輞具足し、金を以て莊嚴す、輪外に焰光を畫く、其の蓮華の莖は吠瑠璃色なり。佛の左邊に金剛手菩薩を畫き而も忿怒形に作れ、右手には金剛杵を執り、左手には白拂を執る。右邊には摩尼金剛菩薩を畫け、種種の瓔珞をもて其の身を莊嚴す、左手には寶珠を執持し、右手には白拂を執る。四角に各の四天大王を畫け、身に甲冑を著け、手に器仗を執り、種種の頭冠●瓔珞をもて其の身を莊嚴し、瞋怒形に作れ。其の小壇中に七寶界道を畫き、其の壇上に於て、一傘蓋を懸けたり、一肘量なるべし、傘蓋の四面に於て周帀して旛を懸く、其の大壇の東門に五色の繒旛を懸く、四の金緋を以て香水を滿ち盛り、緋中に

(一)爾の時云云　四肘壇法を明す。

(二)百輻●高二本は千に作る。

於て七寶及び諸の香藥●五穀を著き、缾口に於て時華と果ある枝條とを挿み、繒帛を以て缾の項に繫けて壇の四つの角に置く、又た四つの銀缾を以て乳を滿て盛り、大壇の四隅に安す、若し金●銀の缾なくんば、金銀を以て缾に塗りて之に替ふ。中壇南門の中に於て大吉祥天女を畫き、種種の瓔珞をもて其の身を莊嚴す、北門の中に餉棄尼天女畫き、壇の西門の中に金剛使者天女を畫け、八臂にして種種の器仗を持し、種種の瓔珞を以て莊嚴し、上に青き繒旛を懸く、中壇の四邊に於て香●華●飲食を、力に隨て供養し、三十二燈を然して種種の華果を其の壇上に散じ、佛像の前に於て金の香爐を置いて蘇合香を燒き、金剛手菩薩の前に銀の香爐を以て安息香を燒き、摩尼金剛菩薩の前にも亦た、銀の香爐を以て蘇合香を燒き、四天王の前に於て薫陸●蘇合●白膠香を燒き和して燒く、吉祥天女の前に於て白檀香を燒き、餉棄尼天女の前に於て安息香を燒き、金剛女使者の前に於て(一)薩羅計香（是れ青膠香）を燒き、四天王等の前に於て各各の別して飲食を以て之を供養し、其の中壇の(二)四門の外に各の吉祥標門を立て、其の大壇の東門中に訶利帝母を畫き七子圍繞す、南門の中に於て(三)大自在天王を畫き、西門の中に於て華齒羅刹女を畫き、北門の中に於て毗摩天女を畫け、顏貌美麗にして七嫁女あ

(一) 薩羅計香　白膠香の同類異名か

(二) 四門の外云云　是の如く文に依れば、常の壇にも灌頂壇にも四方に皆門標あるべし

(三) 大自在天王　其の天女たるべし。故に東は訶利帝母、西は花齒女、北は毗摩天女なるが故なりと

りて圍遶せり、壇上の四邊に於て三十二隻の箭を挿む、其の一一の箭は五色加持の線を以て纏ひ周帀圍遶す、線の上に於て五色の小旛を懸け以て莊嚴となす、大壇の外食界道上に於て種種の華●種種味の飲食●種種の果●(一)七種の油餅●三十二椀●三十二缾●三十二の香爐を安置し、燈一百八盞を燒き、種種の末香●種種の燒香なり、所謂る薫陸香●安息香●必栗迦（苜蓿香）●白檀●沈香●多摩羅香●蘇合●薩羅計（青膠是れなり）(二)五石蜜香を燒くべし。又大龍腦香●麝香●麝金●紫檀●白檀等を以て各各の以て塗香となし、次に食飲を獻ずべし、乳●酪●沙糖水●石蜜水各の八缾に盛り、乳粥八椀、又た粳米●菉豆●油麻を以て相和し粥に作り八椀、粳米飯●歡喜團各の八椀、又た粳米粥八椀、復た油四瓦椀、酥四瓦椀、沙糖四椀、石蜜四椀、油麻四椀、果子四椀、七種の穀子四椀を盛り、種種の飲食を以て供養すべし、所謂る天竺餅●煎餅●菉豆餅●油麻煎餅●無憂餅●妙味餅●酥餅●沙糖餅、已上の飲食得る所に隨ひて營辦し、當さに弟子を引いて壇門の中に入るべし、兩邊に香水二缾を置き、弟子のために入壇の儀軌を作すべし、其の弟子入り已て即ち弟子のために灌頂し、此の眞言を誦し以て用て灌頂せよ。眞言に曰く　唵、引一摩訶尼布羅、二鉢囉、二合　底丁以の切　瑟耻（シュツチ）二合　多、悉第、三阿毗詵者鈴、四薩嚩怛他孽多（タア）、鼻曬（ビセイケイ）闍、

(一) 七種　種種なるべし。

(二) 五石蜜　流志本には五味香に作る。

五婆囉婆囉、三婆囉三波囉六吽吽吽も　纔かに灌頂し已れば、先世の一切の罪障一切の業障悉くみな清淨にして、一切如來攝受、一切如來加持、一切如來灌頂、一切如來安慰、一切悉地現前することを得、思ふ所、求むる所みな願を滿することを得て、即ち一切如來(一)三昧耶曼荼羅に入ることを成じ、一切如來の法性に入り、甚深の法忍を證し、菩提場に往詣し、是の如き等の勝上功德を獲得し、乃至不退轉を獲得して、無上正等菩提を證せん。

(一) 三昧耶　三昧耶形にあらず、曼荼羅なり。

○畫像品第八

爾の時に世尊、諸の大衆に告げたまはく、我今畫像の法を說き、而も能く一切の事業を成就せん、新白氎の割截せざる者を取るべし、或は一肘或は二肘、四方を等しからしめ、畫人は八戒を受くべし、其の畫の彩色は新器の中に於て盛り、皮膠を用ふる勿れ、七寶莊嚴の樓閣を畫き、樓閣の中に於て如來を畫き、說法の相に作り師子座に坐したまふ、佛の右邊に(二)金剛手菩薩を畫け、十二臂にして黃白色なり、其の像四面なり、正面は歡喜、(三)右邊の面は忿怒の相、左邊の面は口を開いて狗牙上さまに出づ、當頭上の面は眉を顰め目を怒らし、頭冠瓔珞をもて種種に莊嚴し、蓮華の上に於て半跏して坐せり。

(二) 金剛手云云　瑜祇の大勝金剛なり。
(三) 右邊　他二本は右邊を左面に左邊を右面に作る。

左邊に寶金剛菩薩を畫け、四面十六臂なり、正面は歡喜、右面は青色にして摩訶迦羅天の面を作り、左面は綠色にして(一)師子の面を作り、頭上の面は眉を顰め齒を露はし、忿怒し淺綠色に作る、右邊の第一手には眞多摩尼寶を持し、佛に獻ずる勢に作り、左邊の第一手には蓮華を持し、右の第二手は安慰手に作り、左の第二手には三戟叉を持し、二手は合掌し餘手はみな諸の器仗を執る、右の第四手には輪を持し、左の第四手には劒を持し、右の第五手には金剛杵を持し、左の第五手には華篋を持し、右の第六手には念珠を持し、左の第六手には軍遲を持し、右の第七手には刀を持し、左の第七手には梵夾を持し、右の第八手には寶塔を持し、左の第八手には須彌山を持し、蓮華臺上に於て半跏して坐す。其の座下に於て餉棄尼天女を畫け、八臂ありて跪坐し合掌す、佛を供養する相に作る、金剛手菩薩の下に吉祥天女を作れ、跪坐して寶器を持し、種種の寶を滿て盛り如來に供養せり、吉祥天女の像に於て金剛使者天女を畫き、笑面に作れ、四臂あり、種種の瓔珞をもて嚴飾と爲し、手に種種の器仗を持す、餉棄尼天女の後に華齒天女を畫け、身に素服を著け手を以て華を持し如來を瞻仰せり、如來

(一) 師子面　流志本には半は師子に作り半は人面に作るといふ。

の前に於て七寶の華を畫作せよ、其の華百葉にして金を以て臺と爲し、吠瑠璃を莖と爲す、其の蓮華の上に(一)百輻輪を畫作せよ、臍輞具足す、輪外を周帀してみな光焰あり、蓮華の根下に於て四天大王を畫け、悉く甲冑を被、種種に嚴飾し手に器仗を執る、蓮華の下に水池を畫作せよ、七寶を以て莊嚴せり、池岸上に於て持誦人を畫くべし、跪坐して手に香爐を持し、並に華枝を持す、又た念珠を持して跪坐し如來を瞻仰せり、寶樓閣の上に於て虛空中に於て梵天●毗紐天●大自在天を畫け、華を散じ供養せり、是の如きの儀則に依て像を畫くべし、其の持誦者は新淨の衣を著け、三白食を食し、白月八日より如來の前に在りて、法の如く念誦し、十五日に至て(二)十萬徧を滿せしめよ、其の像動搖し及び自身熾盛の光明を見、無障礙眼を獲得して、清淨摩尼行三摩地を證し、一切の持明仙の中に於て轉輪王と爲り、親たり一切如來を見たてまつる、纔かに一徧を誦するに、一切の地獄●傍生を遠離し、能く貪●瞋●癡等を斷じ、諸の慳悋の垢を離れて、一切の功德を成就し、一切の安樂を獲得し、一切の善根を攝受し、一切の如來に加持せられ、一切の菩薩に安慰せられ、一切の諸天悉くみな擁護し、一切の藥叉●羅刹●畢隷多●比舍遮●阿蘇羅●彥達嚩●孽嚕拏●緊那囉●摩護囉誐●人●非人等悉く來

(一) 百輻　流志本には千輻に作る。

(二) 十萬遍　心呪なり。

りて侍衛し、一切の王宮に於てみな供養するを得、諸の世間をしてみな順伏することを得せしめ、一切の功德波羅蜜みな悉く圓滿す、是の如き等の殊勝の功德悉くみな獲得す、若し纔かに誦すれば、猶は如上の福利を獲、況んや多く增勝にして受持する者をや、若し讀誦し受持し相應し供養して成就を求め、並與に印契●眞言●相應して像前に對することあらば、其の人諸佛に等同にして、天人世間の供養禮拜を受くべし、其の人諸佛に等同にして、如來の授記したまふ所を見るべし、知るべし、其の人決定して無上菩提を退轉せず、復た母胎より生ぜず、所生の世界において蓮華化生し、諸佛菩薩を離れずして、所生の處諸の如來と共んじて集會し、乃至菩提場に坐せん。

○護摩品第九

爾の時に如來、復た諸の大衆のために護摩法を說きたまふ、先づ身心を淨にして然して後に作法すべし、一一の法速かに成就せしめ、廣大の利益を起し、諸の有情のために是の如きの心を發して、護摩を作し如法に供養すべし、護摩眞言に曰く　唵、一引　娑嚩二合　訶鉢底、二部囉二合　部嚩、入聲三　吽吽、泮吒、半音　娑嚩二合引　訶引四　此の眞言を以て油麻●白芥子を加持して酥に和し、一徧し一燒して一百八徧を滿せば、能く一切の

眞言法をして速かに成就することを得しめ、一切の障者毗那夜迦を除遣し、一切の罪●一切の煩惱●一切の寃家●惡友みな摧伏し禁止することを得、其をして迷惑せしめ、一切の惡夢●災怪●不祥の事自然に消散せん。又た安息香●白芥子を以て酥に和し、眞言を誦すること一徧して一たび火中に投げ之を燒き、一千八徧に滿せよ、一切の鬼魅の頭自ら破裂し、一切の病患●諸の瘧速かに除愈するを得、一切の鬼神變怪みな遠離するを得ん。

又た酥を以て白芥子に和し、一たび眞言を誦し、一たび火中に投じて、一千八徧に滿すれば、一邑の主たることを獲得せん。

又た白芥子を以て酥に和し、護摩すること一千八徧すれば、一切の諸魔の恐怖●寃家●他敵悉くみな除滅せん。

又た天木(一)杉木是なり を以て酥に和し、護摩すること一千八徧すれば、囉惹並に內宮の眷屬歡喜し敬愛するを得て、所求みな遂げん。

若し白膠香を以て酥及び白芥子に和し、山峰の上に於て護摩し、前の徧數の如くせば、一切諸宮の窟門自然に開いて、即ち中に入り持明仙中の王たることを得ん。

(一) 杉　和本には松に作る。

又た(一)香膠を以て芥子油に和し、龍池の邊に於て護摩すること一千八徧すれば、一切の諸龍みな敬愛するを得、勑せられてみな之を作し、時に於て雨を降らし、苗稼を損せず。

又た飲食を以て護摩すること一千八徧して如來を供養すれば、即ち五穀豊饒なることを得ん。又た鹽を以て護摩すること一千八徧すれば、一切の藥叉女みな來りて足を禮し、是の言を作さん、(二)大家我が命を斷ずること勿れ、意に任せて驅使せんにみな成辨することを得んと。

又た酥を以て粳米に和し、護摩すること一千八徧すれば、(三)大吉祥を獲ん。又た胡椒を以て日に對し護摩すること一千八徧すれば、常に諸天の擁護を得、大吉祥を獲ん。

又た大吉祥天女の前に於て、油麻を以て白芥子に和し護摩すれば大財豊饒なるを得ん、又た遏伽木を以て護摩すること一千八徧すれば、即ち諸佛菩薩を警覺し、悉く是の人を知ることを成じ、一切の罪を離れ、一切の世間●出世間の眞言王に於て、悉くみな現前し、一切の病を除き、諸の寃敵に於て最勝なることを得、一切の生死苦も陵逼することを能はず、此の眞言の力に由るが故に、諸有の善業みな(四)果成就し、一切の惡夢不

(一) 香膠　流志本に云く、乾陀囉樹香(安息香)なり。

(二) 大家　互相に其の人を稱歎する詞なり。

(三) 大吉祥　流志本には「大富貴」を得るに作る。

(四) 果　高本に易、和本に擧に作る。

祥の事みな消散することを得、一切の厭禱、一切の繫縛、一切の煩惱侵擾すること能はず、是の如き等の護摩の事業、能く息災を作し能く安樂を獲、財利を獲得す、設ひ諸の惡見に墮することある衆生も、正見を得せしむ。爾の時に婆伽梵、金剛手菩薩に告ぐ、此の敎王大威德あり、是れ一切如來の心、是れ諸の如來の母、是れ諸の如來大法輪を轉ず、是れ諸の如來菩提場に往詣したまふ、是れ諸の如來大法幢を建つ、是れ諸の如來大法螺を吹く、是れ諸の如來金剛座に坐し、是れ諸の如來魔軍を降伏す、是れ諸の如來の最勝祕密、是れ諸の如來の極大祕密なり、金剛手此の陀羅尼は贍部洲に於て一切有情の煩惱を息め、能く一切有情の罪を除き、能く贍部洲の有情●地獄●餓鬼●傍生の業を竭し、能く有情の生●老●病●死の愁歎苦憂及び諸の熱惱を除かん。爾の時に世尊復た金剛手菩薩に告げたまはく、我天眼を以て諸の如來を觀ずるに、此の陀羅尼所生の功德聚を說きたまふこと能はず、此の陀羅尼には如上の最勝殊妙なるあり、是の如く廣大にして是の如く甚深なり、是の如く等勝なり、最勝なり、上なり最上なり、大神通あり、是の如く大寶廣博樓閣敎王は、薄福少德の衆生は必ず此の陀羅尼の名字をも聞かず、況んや復た見ることを得、受持讀誦せんや。若し此の陀羅尼の名を聞見することあらば、是の人已に曾し恒沙の諸佛菩薩に親近したてまつるなり、金剛手、此の陀羅尼は是れ如來の心、解し難く入り難し、若し善男子善女人ありて、百千萬劫に於て八十俱胝那庾多百千恒河沙の諸佛菩薩に、飲食●衣服●房舍●臥具●百種の湯藥●旛蓋●香華●塗香●末香を供養し、復た七寶の三千大千世界に滿てるを以て、日日中に諸佛に奉施せん、金剛手汝が意に於て云何んぞ是れ善男子●善女人の功德多きや不や。金剛手菩薩、佛に白して言さく、世尊此の人功德無量無邊にして稱げて數ふべからず、若し此の陀羅尼一徧を誦することあらば、此の人の功德前の功德に勝り、諸佛如來說くとも盡す能はず、若し善男子●善女人ありて、一時の頃に於て此の陀羅尼を作意し思惟せん、前に比するに一切の如來の飲食●衣服●香華●七寶を供養する功德を稱量し、前に倍勝するに即ち一切の如來を供養することを成ず。爾の時に如來是の語を說き已りたまふに、衆中の天●龍●藥叉●彥達囉●阿蘇囉●孼嚕拏●緊那囉●摩護囉誐●人●非人等、一切の大衆踊躍歡喜し、聲を發して稱讃し、五體を地に投じ虔誠に禮敬し合掌して、佛に向つて白して言さく、世尊此の陀羅尼、如來世間に出でたまふに等同なり、今佛世尊、贍部洲に於て能善く此の祕密陀羅尼心法を建立したまふ。

爾の時に十方より同じく會したまへる諸佛菩薩、咸く釋迦如來を讃じて言はく、善いかな善いかなと。既に讃歎し已て各の本土に還りたまふ。爾の時に釋迦牟尼世尊、佛の神力を以て娑訶世界に還りたまふ。

音釋

鬱紇勿の切闍伽梵語なり、此に水といふ、闍は烏葛の切、靺音は餉式亮の切、末毘賓の切、眉を蹙むるなり。

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷中　終

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷下

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

爾の時に金剛手祕密主菩薩の面貌熙怡微笑して、身毛聳え竪ち、金剛杵を持して、輪を擲げ空に揮つて、種種の香華●衣服●嚴具を以て諸の持明仙衆に歌讃し歎詠せられて佛の所に往詣し、諸の香華●衣服●嚴具を以て佛の上に散し、佛を遶ること三帀し、佛足を頂禮し、漸く佛前に進み偏へに右肩を袒ぬぎ、右の膝を地に著け掌を合して佛に白して言さく、世尊、如來今世間に於て大法炬を然し、贍部洲に於て陀羅尼教王を建立したまふ、若し此の陀羅尼を見聞するあらば、佛世に出興したまふを見たてまつるに等同なり、是の如く知るべし、世尊是の大寶廣博樓閣善住祕密大印曼荼羅教明王法を說きたまふに、若し纔かに此の陀羅尼を聞く者あらば、無上菩提に於て決定して退せざるを得、疾く無上等覺菩提を證し一切の罪障を解脫せん、惟し願くは世尊　諸の衆生のために此の陀羅尼の印法を說きたまへ、即ち伽陀を以て佛に問ひたてまつる。

此の秘密印は　云何んが輪結し　云何んが指を安し　云何んが復た臂を安し
云何んが手を以て手を按する　云何んが印を以て觸れて　而も加持を作す　云
何んが印を心に在く
云何んがして臂を舒べ　云何んが三昧耶　云何んが安慰の印　云何んが神力を
以て
加持し速かに成就せん　云何んが金剛座　云何んが灌頂印　云何んが法輪印
云何んが無上　無能勝密印を持し　云何んが轉輪の印　及び如意寶の印
云何んが四王の印　云何んが吉祥天　秘密の契印　云何んが餉棄尼
及び女使者の印　云何んが壇中　一切聖衆の印を持し　云何んが迎請の印
云何んが根本の印　心及び隨心印　如上の(一)法印　惟し願くは大牟尼
而も我がために解說したまへ　此の印を結ぶに由るが故に　一切の業成就す
纔かに此の印を見るが故に
諸の罪みな淸淨なり　[二]若し眞言法を修せんもの　[三]無上の悉地を成せん　願く
は佛眞實を說き

(一)法印　和本には印法に作る。

[二]、[三]　亂脫

[二]此の印を結ぶに由るが故に　[四]世尊我がために說きたまへ。
爾の時に釋迦牟尼如來、大衆の中に於て金色にして象王の鼻の如くなる百千福莊嚴の
臂を舒べたまひて、金剛手祕密主菩薩の頂を按し、而も之を安慰して是の言を作さく、
金剛手此の大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼印品、是の如きの印法、汝今諦かに聽き善く
聽き、極めて善く聽き作意し思惟せよ、今汝に委寄す、汝應さに極めて印品及び曼荼
羅成就の法を恭敬することを生す、後世に當て印品を敬重せんものは、一切の印、如
來に等同にして、薄伽梵菩提場に詣するが如く、法輪を轉ずるが如く、佛舍利の如しと
知れ、後世の時に於て下族類の人・惡性の有情・破戒の有情・懈怠の有情・不淨信の者・
躭嗜の有情・我慢の有情に授與すべからず、斯の如きの類にはために說くべからず、此
の陀羅尼は如來の舍利に等同にして、隱沒せしむる勿れ、若し薄福の有情ありて、我
が此の法を聞いて便ち毀謗を生せば、當さに知るべし此等佛を毀謗する如くにして、
異りあることなきなり、是の故に金剛手、善く此の陀羅尼を執持する所在の處、佛の
如くにして異なることなかるべしと・爾の時に金剛手菩薩、佛足を頂禮して白して言さ
く、世尊是の如く是の如し、世尊の所說我心を專にして、受持し恭敬し供養して以て

佛恩を報ずべし、惟し願くは世尊、我がために演說したまへ、我當さに如來三昧耶を守護し敢て違越せず、敢て棄捨せず、敢て疑惑せず、持明者速かに成就するを得せしむべし。爾の時に薄伽梵、念を作さく、正に知る大衆の中に於て、吉祥の儀軌を以て此の大寶博廣樓閣善住祕密陀羅尼大印品を修行することを說く、持明者善く須らく法に依て澡浴し、及び五淨を飲み、法に依て加持し及び自ら護身し、新淨の衣を著すべし、先づ白檀香を以て徧ねく手臂に塗り、然る後に復た鬱金香を用て塗り、神線を繫け、臂釧●茅鐶を右臂に安し、喧鬧を離れたる密靜の處に精室を建立し、或は舍利塔の前にみな佛像に對し、面を東方に向へ吉祥坐及び結跏坐を作り、先づ一切の有情に於て大慈心を起し、深く悲愍を生じて、即ち應さに根本陀羅尼を誦すべし、次に心陀羅尼●隨心陀羅尼を誦すべし、華鬘●燒香を以て一切如來に供養し、並に持金剛觀自在●曼殊室利●慈氏等の、有情を憐愍したまふ者を供養し、徧ねく十方一切の如來を禮し、奉獻する所の者は二手合掌して是の如くの言を作すべし。

十方に住在したまふ　諸佛我を攝受したまへ　十方に徧在したまふ　過去及び現在

未來の諸の世尊　菩薩威德者　我今悉くみな禮したてまつる。

唵、引一牟尼摩尼、二鉢囉二合嚩囉、三鉢囉二合嚩縒、四戀哆耶、二合鉢納銘、二合五摩訶鉢囉二合陛、引婆嚩二合引訶、引六

次に普徧光明寶清淨如來心印を結べ。先づ右の手の拇指を以て頭指の甲上を捻して鐶の如くし、餘の三指之を展べ、次に左の手を以て其の頭指を展べ、大拇指を屈して三指の甲上を押し、二手相對して心前に置け。

寂靜心に住して　佛の形像を觀想すべし　身儀寂靜なるべし　復た寂靜(一)の根を以て

身動搖すべからず　靜慮を動せず　印を結び密言を誦し　數は二十一に限れ

唵、引一薩嚩怛他孽多、紇哩二合捺耶、二摩扼、入嚩二合攝寧、三阿去聲尾瑟吒二合也吽引四

纔かに此の印を結び、即ち一切如來心印を持し、廣大の福聚を積集すること、恒河沙那庾多百千如微塵の諸佛の如し、若し善男子●善女人●苾芻●苾芻尼●優婆塞●優婆夷あつて、三千大千世界を滿して、七寶及び天妙衣服●塗香●末香●燒香●華鬘●瓔珞●諸の莊

(一)根　高●和二本には眼に作る。

嚴の具●憧旛●寶蓋を以て、一一の佛に供養すること百劫を滿して、是の如く一切の佛を供養し已らん、若し人ありて此の印を結び、眞言を誦すること一徧すれば、所生の善根百分にして其の一にも及ばず、如上の恒河沙の諸佛盡く其の福聚を說くこと能はず、是の如く大威德大神驗あり、纔かに此の印を結び眞言を誦して地獄の一切衆生を觀念すれば、彼の地獄の衆生みな解脫するを得、此の觀行に由てみな極樂世界に生ずるを得、是の如き等の阿修羅及び餓鬼界●傍生みな一切の身垢を解脫することを得、過●現の生身淸淨なることを得、一切の如來攝受し護念すれば即ち一切如來を見ることを成じ、みな此の普徧光明寶淸淨如來の印を結ぶ威力に由るが故に。次に一切如來心印を結べ、亦た安慰一切如來の印と名く。先づ左肘を以て胯に當て平に展べて掌を仰け、即ち無名指●小指を屈して、大拇指を以て之を押し、右手(一)は前印に准じて改めず、眉を顰め(二)羯吒訖叉眼にし自ら其の身を視、微しく身を屈して齒下唇を咬へ、眞言を誦すべし、曰く　唵、引一薩嚩(サラバ)怛他(タタ)孽(ギヤ)多、二鉢(ハウ)囉二合(ハ)賀囉、引孽囉摩捉、吽三　纔かに此の印を結び眞言を誦するに、即ち一切如來所有の三昧耶曼荼羅に入ることを成じ、則ち三昧耶を知る者に成んぬ、若し人百千劫より來たの宿障、此の印を見るに由て、

(一) 前印云云拇指頭の甲を捻し餘の三申ぶ。
(二) 羯吒訖叉菩提流支譯には斜視なり。

即ち消滅するを得、一切の惡趣の門を閉ぢ、即ち一萬四千俱胝那庾多百千佛大三昧印を結び、及び眞言を誦するに成る、又た一切如來部族の印を結ぶに同じ、一切の夜叉●羅刹●部多●諸の毗那夜迦等、みな悉く燒かれて一火聚の如し、是の諸の障者面みな(一)地に踣し、みな三昧耶に順じて、敢て違越せず、一切の諸天誦持者の二足を頂戴してみな三昧耶に住し、纔かに此の印を見聞するに由るが故に、即ち一切三昧耶を知る者と成る、一切惡龍も亦た順て三昧耶に住して敢て違越せず、三昧耶あることなけれども、祕密曼荼羅敎軌儀を知らざる者なく、悉くみな入ることを成ず、印を結び眞言を誦するに由るが故に、諸有の惡人●敬信せざる者●及び外道●怨敵●有情を饒益せざる者も、みな慈心を起して深く恭敬を生じ、一切の惡意を懷く諸の煩惱者、悉くみな消滅して、即ち三昧耶を具することを成じ、即ち一切の罪障を離れて即ち三寶を歸依することを成じ、即ち大福德聚を成就し、諸の疾病を遠離し、一切の慳悋煩惱の垢を離れん、次に一切如來普徧大寶三昧耶祕密大印を結べ。先づ右の手を以て、右の膝の上に置き大拇指を以て中指の甲上を捻し、次に左の手を以て仰けて橫さまに心上に安し、拇指は中指●無名指の甲上を押し、頭指及び小指を舒べ、慈心を發して目を開いて住し、即

(一) 地に踣し面を地に覆するなり

ち眞言を誦して曰く　唵、引薩嚩怛他孽多、引二　毗三冒駄娜、嚩日囉二合　吽三

纔かに此の印を結び眞言を誦すれば、即ち一切如來に安慰せられ、みな善哉と稱へらるゝことを得、手を舒べて頂に按し、憐むこと愛子の如く、則ち一切如來の子と爲る、千倶胝那庾多恒河沙の諸佛に共に安慰せられ、其の人の一切の罪障みな清淨なることを得、一切の煩惱悉くみな消滅し、一切の菩薩悉くみな禮敬し、一切の諸天悉くみな侍衛し、一切の鬼神並に一切の夜叉羅刹、悉くみな敢て侵陵せず、一切の障礙、毗那夜迦敢て惱害せず、十方に馳散し一切みな慈心を起すは、此の印を見るに由るが故なり、疑あることなかれ。持明者此の最勝印を持するを見ば、當さに佛・菩薩現前して安慰したまふと知るべし、此の眞言を誦するに由て、當さに知るべし是れ佛の音聲なり、諸佛に等同なり、佛語は甚深なり聞くこと難しと。若し善男子・善女子・苾芻・苾芻尼・鄔波索迦・鄔波斯迦あらん、若し持明者結跏趺坐し印を結んで眞言を誦せんに、若し此の眞言を持する人を見ることを得ば、則ち六十二恒河沙百千倶胝那庾多諸佛如來應正等覺を見ることを成ず、疑惑を起すべからず、應當に彼の人を供養し、其れに衣服を奉るべし、恭敬を起すこと大師の如く想ふべし、持明者を觀ずること諸佛に等同にせよ、當さに知るべし、是の人則ち諸佛に同じ、一切の希求勝願みな滿足することを得、若し一時間印を結び眞言を誦し、慈心をもて徧ねく六趣輪廻の諸の有情・二足・四足・多足を緣じ思惟して(一)悲愍の心を起さば、輪廻の有情及び傍生の者みな安慰するを獲、佛菩提を獲、久しからずして諸天擁護し、一切の曼荼羅に於て三昧耶を知る者と成り、即ち一切の眞言を誦するに成んぬ、即ち一切の印を結ぶに成んぬ。(二)次に一切如來莊嚴大寶光加持祕密大印を結べ。二手を以て右左を押し、背相叉へて二頭指を屈し、各の鈎する如くし、二小指各の直く竪て二大指各の屈して掌中に在き結跏趺坐し、印を以て齋上に當て、身を傾けて右に向へ、眉を顰め眼寂靜にして視、諸佛を觀想し大慈心に住し、眞言を誦して一切の有情を矜愍すべし、佛の色相を觀じて印を頂上に置き、印を結ぶ時、唵字・吽字・泮字を誦し、印を結び已れ、唵字を誦するに由て菩提場を加持するに成んぬ、吽字を誦するに由て轉法輪を加持し、泮字を誦するに由て菩提樹を加持し、須彌山の傾動せざるが如し、一切の如來に加持せられ、一切の佛みな授記を與へ、一切の處人天を加持し、是の人身清淨なることを得、日光摩尼照曜するが如く、一切の罪を離れ福德聚を增長す、是の處猶ほし窣堵波のごとし、此の印を結ぶに由る

(一)悲　高本には慈に作る。
(二)次に一切云云　右、左を押し背相叉へ、左は內縛して二頭を屈して各々鈎の如くし、二小各々直く竪て、二大各々屈して掌中にありと。

が故に、猶ほし菩提場のごとし、諸佛に加持せられ十地を加持し、亦た不退轉の處を加持し、能く宿障を淨め諸の惡趣を解脫し、諸の地獄の門を關閉し諸天の門を開く、是の人七十二恒河沙數俱胝那庾多百千の諸佛の所に於て善根を種植し授記を獲得す、一切の鬼神●夜叉●羅刹及び龍みな恐怖を生じ、及び諸障毗那夜迦、面を地に踣して火聚焚燒するが如し、及び諸の餘類難調伏の者、摧壞すること疑ひなし、此の印は見がたく聞きがたく、一切の罪を離れ、及び八大地獄を離れ一切の眞言敎法を成就し、即ち一切の曼荼羅に入るに成んぬ、一切三昧耶の印なり、如來の所說みな加持を得、亦た能く一切の印を加持し、佛菩提を成じて最勝なり、纔かに此の印を結ぶに一切の處常に加持を得、眞言に曰く　唵、引薩嚩(ナウ)怛他孽多(タヲ)、引地瑟(シュツタ)姹二合　那(ナウ)、二摩尼摩尼、吽泮吒、半音三

次に如來寶大金剛安立金剛師子座の印を結べ。先づ金剛跏坐を結ぶべし、即ち金剛合掌の印を結び、身金剛杵の形と爲ると想へ、微しく身を屈して觀想せよ、毛端に徧うして徧ねく觸れ、然して後に二手合掌して二頭指を屈し、二大指の甲を捻し、二中指を竪て金剛杵の形の如くし、直く二無名指を竪て二小指を以て無名指の背を拯在し、印を以て地に觸れ、及び二膝に觸れ即ち齋に安せよ、此を二金剛師子座の印と名く、其の地なほし金剛のごとし、十方に周帀して金剛牆の如し、亦た一切如來の座と成る、一切如來の加持に由るが故に金剛座樓閣となる、一切の難調伏の者も沮壞する能はず、一切處に無畏を得、及び障者毗那夜迦一切の諸魔の類、此の印を結ぶに由てみな超勝するを得、彼みな一切馳散し、及び夜叉●羅刹●大力作障の者悉くみな遠離す、難伏にして形を見さゞる(みるは)者及び諸の不友●怨敵●惡心の衆生悉くみな殄滅す、此の印を結ぶに由るが故に、一切の有情若しは男、若しは女みな敬愛を得、王及び後宮みな歡喜を得、及び餘の有情の地上にあるはみな敬伏することを得、一切隨順して晝夜間斷なし、諸佛加持に由て金剛寶殿を成じ、師子座を建立す、佛の神通加持に由るが故に俱胝恒河沙數百千の應供正徧知の處の如く、金剛師子座と成る、纔かに此の印を結ぶに由て、是の如き等の如來の所に於て金剛座を奉獻するに成り、則ち一切如來の神力加持を獲、纔かに如來寶大金剛建立金剛師子座の印を結ぶに由て、一切の地獄●傍生●焰魔界の餓鬼●阿蘇囉の身、一切地獄等の、先世の業障に由れるをも、此の金剛牆を以て摧壞せしめ繫縛せしめ、みな消滅せしめて、其の身淸淨なることを得、金剛不壞の身と成る、

眞言を誦して印を結ぶに由るが故に、諸の惡趣に於てみな解脫することを得、及び一切の罪を解脫す、眞言に曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、鉢囉二合嚩囉、二摩尼嚩旨黎、二吽吽、泮吒、半音四

(一)次に一切如來大寶出生灌頂大印を結べ。二手合掌して金剛杵の如くし、二頭指は傍に舒べ、二中指節を屈し指面相合せ、二無名指を直く竪て(二)金剛杵の如くし、二大指は二小指の甲上を押し、吉祥跏坐を結んで印を頂上に置き、此の眞言を誦すべし、曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、尾麼羅、三婆伏、二吽吽三

幾かに此の印を結び眞言を誦すれば、其の持明者六十八(三)百千恒河沙數微塵等の如來應供正徧知に於て、一切如來神變加持を以て灌頂を獲得し、即ち彼乃至如上の如來無垢の繒を其の首に繫け、一切の曼荼羅印品明眞言を以て灌頂するを得、無量阿僧祇の福德聚を成就し、無量の善根を獲得す、一切の菩薩金剛手、持明仙人に於て百千徧を以て其の頂に灌ぐに、一切の天●龍●夜叉●乾闥婆●阿蘇囉●孽嚕拏●緊那囉●摩護囉誐●四天王●彼の持明の人に灌頂を與へ成す、一切持明仙の中輪王、彼れに灌頂を與へ成す、一切如來長子殊勝灌頂を爲し、一切如來三昧耶祕密曼荼羅灌頂を成じ、大寶廣博樓閣祕密

(一)次に云云此の異譯の註文は皆一の準ならず、今の經は合掌して二小の甲の中を以て二大の側を押し、二中立の端を合せ、二風を形作すべし、二寶を開きて立つ、之を水と名く、是れ傳灌頂の秘印なり。明の慧人は殊に此の印を秘し金剛杵玉ふと云云猶ほ口傳に云くごときなり(二)五股百千億なり

を以て灌頂を成す、一切の不友●寃敵●作障者●毗那夜迦●惡藥叉●羅刹●部多●鬼神も彼の持明者を見ること能はず、其の持誦者の身虛空の如くにして形を隱して現せず、十方一切の佛刹に普徧せる一切如來應供正徧知に、廣大の衣服●繒綵●七寶の瓔珞●莊嚴せる頭冠を以て、一切如來の所に於て大供養雲海を作し、供養灌頂を成す、幾かに此の印を結ぶに由て、是の如きの神通自在善根を得、是の如きの大威德大福利を成就す。

次に(一)一切如來光明大寶摧魔熾然法輪神通加持大印を結べ。二手合掌して心に安じ、右の手の大指●頭指の甲を以て相捻し、餘の三指直く舒べて心を掩ひ、左手の大指を屈して掌中に入れ、中指の甲上を捻し、餘の三指微しく屈し二手背相ひ著け、其の左手の掌の面を(二)前に向へ結跏趺坐して眞言を誦し、慈三摩地に住し、內心定めて寂靜なるべし、此の印を結ぶに由て即ち淸淨大法輪を轉じ、三千大千世界六種震動すること疑ひなし、諸佛菩薩みな持明者を觀察し、金剛手歡喜し、並に諸天の眷屬、持明轉輪王、常に來りて持明者を侍衛し、四大天王晝夜に常に四方を護持し、一切の如來常に加持して、法輪を轉じたまふに由て、諸の衆に於てみな一切障作障毗那夜迦に超勝するを得、持明者若し此の印を持せば心寂靜なるを得、諸の障難を離れ、是の人如來

(一)一切云云此の印亦た流志本及び牟梨經と異なり(二)心を掩ひ右の印を掌なるなり左の手の掌の面なるなり、前に向ふなり、外に向くるなり、外に向ふなり。左右の臂を背けて交ゆる印なり。(三)前に向へなり。外に向ふなり。

世に出興して大法輪を轉じたまふに等同にして、菩提場に坐し大法輪を轉じたまふが如し、我れ彼の人を見るに諸佛に等同にして應當さに供養すべし、獲る所の善福は佛を供養するが如し、持誦者心を清淨にして、諸の有情に於て常に悲愍を起すべし、印を結び眞言を誦し、少しく眉を顰め、唇齒俱に合せ佛形を觀想して、法輪を轉ずる如くなるべし、心に是の思惟をなすに諸魔を降伏し諸の障難を制せん、此の印を結び眞言を誦するに由るが故に、能く大法炬を然し大法幢を建て、大法鼓を擊ち大法螺を吹き、大師子吼を作し福德聚を增長す、纔かに此の印を結ぶに由て、八十俱胝恒河沙の諸佛の眞言密印を結ぶが如し、是の諸の如來も亦た其の威神を加へ、成く善いかな善いかなと稱して、菩提の記を授けん、眞言に曰く唵、引一薩嚩怛他孽多、三摩耶、二摩抳嚩日黎、二合 吽吽三

次に無能勝の印を結べ。右の手の大指を以て頭指の頭を跓へ屈して環の如くし、餘の三指は直く竪て、左手も亦た然なり、二手舒ぶる所の指を竪て、(一)皆相著け、印の小指を以て齎に當て、眉を顰めて下に向へ身を觀じ、右の脚を以て左の脚を押し、(二)羯吒訖叉眼訖叉眼を以て顧視し意に眞言を誦し、即ち右の脚を擧げて大拇指を以て地に觸れよ、

(一) 皆　背の字か

(二) 羯吒訖叉眼　眼斜にして顧るなり。

纔かに印を結び眞言を誦するに由るが故に、即ち能く諸魔並に諸の營從を降伏し勝るゝことを得、及び一切の作障毗那夜迦及び不現形の者、一切の夜叉羅刹を降伏し、諸の寃敵に於て通達無礙なり、及び諸の不友・寃敵に勝つことを得、(一)諸の煩惱の苦を離れ、及び諸の鬼趣に於いて勝つことを得、其の身中の貪・瞋・癡及び餘の種種の煩惱に於て彼れみな寂靜なり、纔かに印を結ぶに由るが故に、則ち諸罪を解脫し、一切往く所の處勝るゝことを得、眞言法に於て障礙なきことを得、障礙なきことを成ずるを得、一切の諸病を離るゝことを得、乃し菩提を證するに至る、一切の處において諸天十方に於て擁護す、能く勝るゝものなし、眞言に曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、惹耶尾若耶、二阿爾多、嚩日黎二合 吽吽三

次に一切如來轉法輪の印を結べ。先づ右の手を以て大拇指を握ト拳に作り、左手も亦た然なり、右拳を以て左拳の上に安ず、此の印を結ぶに由て一切如來に印可せられ、如恒河沙俱胝百千の如來、咸くみな歡喜して無上悉地を授與し、是の諸の如來決定して其の身を現じ、一切の持明仙衆の中に於て轉輪王と爲り、一切の眞言・印契・教法悉くみな通達して心に在るが如く、諸の曼荼羅に於て成就し最勝にして、一切の諸天十

(一) 諸　高・和二本にあり。今本になし。

(一)次に云云　牟梨經には此の印を說かず。

方に擁護す、轉法輪の眞言に曰く　唵、引一薩嚩怛他孽多、達磨馱覩、二摩訶麼捉、試佉黎、三喝囉喝囉、四吽吽泮吒、半音五

(二)次に金剛手菩薩の印を結べ。先づ二手を以て合掌し、二中指は右左を押し內に相ひ叉へ、二頭指並に二大指金剛形の如くし、二無名指を竪て指面相ひ著け、二大指直く竪て二小指磔り開き、其の左の肘を擧げて其の右の肘を下げ左の肘を顧視し、右の脚左の脚を押し半跏し、微しく左の脚を展べ、眉を顰め目を怒らし瞋相を作り、齒を以て下唇を咬へ、喉中に吽聲を稱へ意に眞言を誦し、己身を觀じて金剛手の如しと。纔かに印を結び眞言を誦するが故に、三十三天みな大いに驚怖し、一切の天宮悉くみな震動し、一切の夜叉羅刹王及び難調●諸龍●鬼神●毗那夜迦及び諸の作障者、悉く面を踣して地に在て、號哭して四方に馳走す、金剛手みな大いに歡喜して悉地を授與し、眞言敎法悉くみな成就し福聚增長して、持明の中において主宰と爲らん。若し能く三摩地に相應し、洗浴淸淨にして、塗香を以て身に塗り、新淨の衣服を著けよ、諸佛如來其の人を觀察して、一切曼荼羅の聖衆みな大いに歡喜したまふ、眞言に曰く　唵、引一薩囉怛他孽多、摩訶囉日囉、二合賀囉耶、二駄囉駄囉、三吽吽泮吒、半音四

(三)摩訶の下和本に摩捉の二字あり。

(四)次に云云　流志本に云く右の手の腰に叉へ頭指を拇指に壓げ左手は小拇を竪て餘の三指を竪て、牟梨經には、右手は臍上に安く、左手は臍上に仰け大・頭・小の三指を屈し、左の頭指は後に向へ、大指は前に向へ、勝上に約し餘三指は拳に爲る。但し虎口の背を以て勝上に約す。流志の經には左手と右手と相違せるか。

(五)吉祥天女印　牟梨經に云く、施囉地藏印といふ。

次に寶金剛菩薩の印を結べ。前印に准ず、唯し二頭指を磔り開いて印を安し心に當て結跏趺坐し、慈心を起して眼寂靜にして視、端嚴柔輭にして眞言を誦せよ、其の意思に隨ひて所求滿足し、金剛手常に歡喜し、彼の人を見ること所愛の子の如し、眞言に曰く

唵、引一杜嚕二合　杜嚕、二合二　摩尼摩尼、三(一)摩訶蜜伊引與二合　怛末尼二合　娑嚩二合　訶引四

(六)次に四大天王の印を結べ。先づ右の手を以て臍上に安し、大指を屈して掌に入れ、頭指を以て大指の頭を捻し、餘の三指直く舒べ、左の手は左胯の上に安し頭指を直く舒べ、餘の三指は大指を握りて拳に爲り擬勢に作り、身を前に向へて微しく屈し、眼は右の手を視、忿怒形に作り目を怒らし睛を轉せず、眞言を誦すべし、曰く　唵、引一嚕迦播里低、二惹耶惹耶吽三

次に(二)吉祥天女の印を結べ。先づ二手を以て虛心合掌して、二頭指●二中指●二無名指を散し開き、微しく屈して開敷蓮華形の如くせよ、印を結び眞言を誦するに由て、能く一切希求する所の願を滿す、是れ大威德者なり、眞言に曰く　唵、引一尾摩羅、孽羅二合縛底、二三婆囉吽三

次に餉弃尼天女の印を結べ。右の手を以て右の乳の邊に近づけ、頭指直く竪て、大指

(一) 慢　未詳

屈して掌中に入れ、中指・無名・小指を以て(一)慢して拳に爲り、左の手は左の膝に覆せ
膝の上に觸れ、身を曲げて前に向へ、目を怒らして視、眞言を誦すべし、曰く　唵、
引能上聲悉置哩三合　捉平聲二　尾娑羅吽三
次に使者天女の印を結べ。先づ右の手を以て掌を仰けて心に當て、平に展べ其の肘を
下し、次に左手を以て平に展べ、掌を覆せ、右の手の下に於て二手の背相ひ背け、其
の臂肘を擧げ、頭を引て前に向へ微しく身を曲めよ、眞言を誦して曰く　唵、引阿誐麼
野、二地囉門上聲者、吒訶悉你吽三
二手の指を以て相ひ叉へ鈎結し齊に安し、左の脚を展べ地を按せよ即ち成ず、眞言を
誦して曰く　唵、引三曼多、迦囉、跛哩布囉捉、二駄迦駄迦、三吽(二)泮四
次に華齒天女の印を結べ。先づ右の手を以て五指を屈し、蓮華形の如くし、(三)左の耳
の上に安し、左手は前に准じて心に安す、眞言に曰く　唵、引娑囉娑囉、二尾娑囉、吽
吽三
爾の時に金剛手　復た世尊に白して言さく　云何んが是れ
心印　云何んが根本の印　云何んが隨心の印なる　牟尼我がために說きたまへ　世尊是の言を作したまはく

(一) 二手合掌云云是れ常の實樓閣の印なり、謂く二大指は兩部、二頭は東方、二中實形は南方、二水は西方、二小開き立つは北方、二利牛角の義なり、又實樓閣の時は二大は塔の脚なり、二風は樓閣なり、二中の實形は屋根の形なり、二水は實憧、二小は柱なり。

(二) 泮　和本には吽に作る。

(三) 左　古傳には右に作る、他の二本は今の如し。

(一) 二手合掌に作り　心上に置くべし　二頭指を屈し　及び二大指　相ひ捻して猶ほし環の如くし
二中指蹙め屈して　猶如し實形のごとくし　二無名を竪て合せ　二小指を磔り
開く
是を根本の印と名く　智者此の印を結び　根本密言を誦すれば　即ち先の行法
を成ず
次に心印の相を說かん　先づ右手を以て　掌を仰けて心に安し　大指と無名と
而も頭を以て相ひ捻し　餘の三指は平に舒べ　次に左手を以て　大指は小の甲
を捻し
餘の三も亦た直く舒べて　左膝の上に覆せよ　是を則ち心印と名く　亦は安慰
の印と名く
功(二)德は根本の如し　次に(三)法隨心印　前の心印の相に准ず　(四)大拇と頭指と
相捻して猶ほし環の如くし　前に依て左膝の上なり。

(二) 德　和本には能に作る。

(三) 法　結の字か

(四) 大拇云云　左の手なり。

此の印を結べば、能く一切の事業を成辨し、一切の罪を滅し一切の煩惱を除き、久しからずして決定して佛菩提を得べし、若し人一一の印を結べば其の福量るべからず、此の印を結ぶに由て、無量阿僧祇恒河沙數倶胝那庾多百千の如來應正等覺に於て、大供養雲海し塗香●末香●華鬘●衣服●幢旛●瓔珞●嚴具●七寶を雨らし、一切如來に於て種種の百味の飲食を供養するに成り、如來の所宜に隨ひて供養を出生するに成り、其の意樂に隨ひて醫藥●資緣を、一一の如來の前に於て廣大に供養するに成る、印を結び眞言を誦するに由て、一切の如來に於て平等に、十方に於て即ち警覺すれば、彼等如來善いかなと稱し、悉くみな記を授與し、一切の如來其の人を安慰し、彼の人を見んことを樂ふ、金剛手持明王並に諸の眷屬の衆、晝夜に常に其の人を擁護し、四大天王決定して其の處を擁護すること、窣堵波に等同なり、此の印を結ぶに由るが故に、其の地は如來舍利塔あるが如しと、みな決定して不退轉なることを得。是の故に金剛手、若し善男子●善女人●苾芻●苾芻尼●優婆塞●優婆夷の淨信にして明を持せん者は、應當に極めて恭敬を生じ、受持し讀誦し供養し、若しは自ら書寫し、他を勸めて書寫せしむべし、應當に印を結ぶには、大信心を以てし、大恭敬を以てすべし、種種の物を以て應當に供養すべし、其の善男子●善女人●苾芻●苾芻尼●鄔波索迦●鄔波斯迦は大福成就し、一切の戒成就し、大精進●大忍辱成就し、大禪定成就し、檀那成就し、大智慧成就し、廣大の功德成就し、六波羅蜜圓滿することを獲。若し此の陀羅尼印壇場の法を得るあらば、是の如くの廣大の功德を成就せん。佛是の經を說き已りたまふに、金剛手菩薩摩訶薩及び一切の大衆●天●龍●藥叉●彥達縛●阿蘇囉●孽嚕拏●緊那囉●摩護囉誐●人●非人等、みな大いに歡喜し信受奉行しき。

音釋

捻奴協の切 盧戈の切、 跓直主の切 揲陟格の切 揲張り伸るなり 踣蒲北の切 踣仆るゝなり。

國譯大寶廣博樓閣善住祕密陀羅尼經卷下 終

兌二、縮閏五、藏十六葉四。此軌文相訓讀成し難きものあり、又亂脫多し、奇特佛頂とは金輪佛頂なり、金輪に釋迦金輪と大日金輪とあり、釋迦金輪は螺髮にして法界定印の上に鉢あり、大日金輪は寶冠形にして智拳の印なり、釋迦金輪は胎藏大日、大日金輪は金界の大日なり、此の軌は釋迦金輪なり。

(一)是の如く云云　已下序分。

一、三、二、四　亂脫

一、三、二、四　亂脫

國譯一字奇特佛頂經卷上

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智不空　詔を奉じて譯す

現威德品第一

(一)是の如く我れ聞きき、一と時婆伽梵三十三天の、如來の加持を以て無量の福より出生せる普徧光樓閣に住したまふ、大福によて俱胝の莊嚴あり、大福の佛の資糧を以て普徧ねく無量に稱讃せらるゝ無數の功德衆あり、無量の金剛の如く堅固不壞の處清淨佛世界の莊嚴あり、一切の摩尼寶王を以て莊飾し開敷し莊嚴し圓淨なり、智に於て愛樂せられ、無垢の光明熾盛の摩尼寶を以て、善く莊嚴し、乃し世界に至れり、三摩地圓清淨に一切の法の一三理趣を說きたまふこと二清淨なり 一無量の色廣博摩尼寶海を以て間錯し、無盡の如來の三摩地を示現し、清淨無盡摩尼寶王の變化し間錯せる華あり、旋流せる摩尼樹の枝ありて莊嚴せり一三善巧方便を以て示現せる二佛智を、一一切の華香摩尼寶光明あて交絡し普徧ねく熾盛なり、佛の加持より現じたまふ所の遊戲神通普徧

の光あて、大樓閣に於て一切の摩尼廣博に旋轉し、十方の觀察する所の吠瑠璃等の種種の寶を以て莊嚴し、無量の寶(一)王の階道交絡し圍繞せり、種種の摩尼眞珠を以て垂れ作して、端嚴なる一、三豎て二蓋あり、幢旛を四珠網寶網あり、覆ふに寶帳を以てし、龍と堅と栴檀とを以て塗飾せり、自在玉を以て釧飾せり、摩尼の寶網を以て彌覆し、龍(二)勝建立せる地なり、(三)徹嚴智普徧ねく光明ある摩尼の寶柱あて、寶網を以て交絡せり、師子の蘂ある摩尼寶王の娑羅樹彌覆せり、師子一、三幢二勝ある四摩尼寶の門あて刹窣妙へに莊嚴し、相映じて壞せず、曼陀羅華と摩訶曼陀羅華と曼殊沙華と摩訶曼殊沙華●盧遮華●摩訶盧遮華●輪華●大輪華●蘇摩那華●(四)鞞師迦華●多羅那華●末羅華●瞿達羅華●蘇伽地華●陀努色迦利華●天蘇摩那華●烏波羅華●蓮華●俱勿頭華●白蓮華と大華とを以て散し、無染智嚴藏師子座に坐し、妙清淨の慧を以て無二に現行して無相の法を說き、佛住に住し一切佛平等を得、無礙に不退轉の法を通達し境界に奪はるゝことなく、不思議清淨にして三世平等なることを得、一切世界に徧せる身にして、無能觀頂の相あり、一切法に於て無礙なる智、一切の行を成就せる慧、無惑の覺智無分別の身、二慧なく最勝の到彼岸に住し、如來無壞の智、解脫の智、究竟し平等にして中邊なく虛

(一)王の下、私・高二本具の字あり。一、三、二、四亂脫

(二)勝幢の義か。(三)徹嚴智 前後に多く亂脫あるか一、三、二、四亂脫

(四)鞞師迦華 此に兩生華といふ。

空を盡し、法界に遍せる無功用智を證得し、一切の佛事未來際の一切無數劫において、不退の輪を轉じて加持し、菩提場に往いて魔を摧き、等覺を證し、法輪を轉じ無著智嚴藏を現じ、一切の相圓備し所知壞することなく、依なきことを獲得し、善能く廣く十方一切の世界に於て兜率天宮に住し、(一)沒生を現じ出家し苦行し加行して、菩提場に往いて魔を摧き、菩提を現證し法輪を轉じ、般涅槃し住法●隱法を現じたまふ、四萬の比丘、八萬四千の菩薩と與なり、みな十方世界より來集せり、みな一生補處に住し灌頂位を得、無量の三摩地解脫を出生し、金剛最勝三摩地に住し、蓮華最勝三摩地を得、及び金剛喩三摩地を得、幢勝嚴具をもて遊戲し、一切の佛法みな現前することを得、功德藏莊嚴三摩地に住し、善く菩提場に趣き入佛境界に安住し、說無盡陀羅尼莊嚴一切魔境界最勝の色相を得、無盡句說不空劫の受記を得、能く(二)他敎惡衆を摧き、名稱を建立し十方に稱讚せられ、無量の檀戒忍進禪慧の方便を出生し、一切の佛讚歎稱揚したまへり、無數那庾多百千俱胝劫に作業を圓滿し甚深難測の緣生法を遠離し、四顯の邊常斷見に入ることを一、三能く一切の有情の煩惱の病に二徧ねく知り四隨應の法藥を、善く徧ねく淨く清淨端嚴の無垢の意樂あて、勇猛堅固の金剛不壞の慈善を以て、一切

(一)沒生 以下八相成道の相を明す天沒出胎のことなり。

(二)他敎 外道の敎法。一、三、二、四亂脫

の有情に於て能く受苦を攝し、敎ふるに平等の慧を以てし、無量の功德の智、虛空の際を盡し、十力陀羅尼辯才理趣に住す、所謂る觀自在菩薩摩訶薩●常觀自在菩薩●得大勢菩薩●勝慧菩薩●金剛慧菩薩●師子慧菩薩●師子勇健步菩薩●金剛勇健步菩薩●金剛將菩薩●金剛幢菩薩●無動步勇健菩薩●清淨(一)明菩薩●三世步勇健菩薩●蓮華嚴菩薩●蓮華眼菩薩●寶嚴菩薩●金剛手菩薩●虛空無垢菩薩●妙臂菩薩●妙慧菩薩●大慧菩薩●寶藏菩薩●寶幢菩薩●寶印手菩薩●嚴王影像菩薩●功德王影像菩薩●嚴王菩薩●電光莊嚴菩薩●虛空庫藏菩薩●摧疑惑菩薩●雲音菩薩●清淨慧菩薩●雷音菩薩●曼殊室利童眞菩薩あり、及び慈氏菩薩を上首となして、一切の賢(二)劫の菩薩摩訶薩と俱なりき。復た妙界分天子●勝魔天子●功德嚴天子●勝天子●寂調自在天子●勝慧天子●善思惟天子、是の如く等の大威德の天子あり、二萬の天子と與なりき、みな菩提心を發して善根を種植せり。復た四天王●天衆天●天帝釋●商主天●摩醯首羅天●梵王娑訶世界主●魔天子あり、復た大聲聞衆あり、所謂る舍利子●大目犍連●迦旃延子●富樓那●賓頭盧●驕梵波提●尊宿塔象●迦葉波●大迦葉波●伽耶迦葉波●羅睺羅、是の如き等を上首とせり。復た五千の大藥叉將あり、所謂る滿賢藥叉將●珠賢藥叉將●蓋上(サン)婆去(ラ)羅(三)水帝藥叉將●那訶羅藥叉將●般志迦(レシキヤ)藥叉將、並に訶哩

(一) 明和・高二本に眼に作る。

(二) 菩薩九百九十六菩薩なり。

(三) 水和本に本に作る。

底母あり、五百の子を以て眷屬とせり、一切の山及び大河の王あり、金翅を上首となして無量百千の迦樓羅王あり、及與び樹緊那羅王、無量の緊那羅あり、以て眷屬とせり、及與び群生の主那羅延天●伊舍那鬼主と無量の百千の眷屬あり、及與び婆蘇吉(パソキ)龍王●蓮華龍王●大蓮華龍王●娑伽羅(サギヤラ)龍王を上首となして、無量百千の龍王を以て眷屬とせり、及び餘の天●龍●藥叉●伽樓羅●緊那羅●摩睺羅伽●人●非人等と俱なりき。(一)爾の時に世尊、無量百千の衆のために前後に圍遶せられて、如來頂の眞言行を發起することを說きたまふ、大嚴の師子座に坐し吼ること師子の如く、光耀すること日の如く、照曜すること月の如く、徧ねく照すこと帝釋の如く、熾盛なること炬の如く、光耀すること梵王の如く、高く躍ること須彌の如く、海よりも大にして佛頂の眞言行を次第に而も說きたまふ。爾の時に世尊、菩薩等に告げて言はく、善男子、一切如來の一切の三摩地において、最勝なる三摩地王あり、此の三摩地に住するに由て、一字輪王佛頂とす、汝ぢ當さに諦かに聽き善く聽き、極めて善く聽き、慇懃に作意し受持すべし、受持するに由るが故に、菩薩無上正等菩提を退轉せずと。時に一切の大菩薩掌を合せて佛に白して言さく、惟だ願くは世尊、三大明王二一字四を說きたまへ。(二)爾の時に世尊、一切

(一) 爾の時云云已下正宗分なり

一、三、二、四 亂脫

最勝三摩地王に入て此の明王を說きたまふ。娜謨、三漫多、勃馱南、一引步林叶三合

纔かに此の明王を說きたまふに、三千大千世界に無量の光明網普徧ねく如恒河沙の世界を照曜す、一切の彼の世界を照曜し、一切の彼の世界を震動す、一切如來も一切の三摩地において、最勝なる三摩地王に入て、亦た此の大明王を說きたまふ、說きたまふ時に一切處にみな聞くことを得、此の三千大千世界六種に震動し、東涌すれば西沒し、南涌すれば北沒し、上涌すれば下沒し、震動し大震動し、一切の天、空より如來の前に到る、乃至阿迦尼吒天の衆までに、彼等悉くみな如來を思念す、所有る三千大千世界の中の有情、地獄●傍生●焰摩界までに、頂王の光に照觸せらるゝに由るが故に一切の苦受を除く、彼の時の有情瞋恚を離れて、互に觀ずること父母の想の如し、所有る彼の中に生ぜる有情互に是の如くの見を作す、三千大千世界の中に於て輪圍山●大輪圍山及び餘の黑山も此の明王佛頂の光明の照曜に由るが故に、下は無間大地獄に至り、上は阿迦尼吒天等に至り、所有る日月の大神通●大威德●大自在なるも、みな映蔽せられて照曜すること能はず、一處として光明徧照せざることなし。是の如く世尊の神通行を以て神通を作したまふに、癲狂の者は念を得、盲たる者は覩ること

を得、瘂せる者は能く言ひ、跛たる者は能く行き、聾たる者は聞くことを得、裸なる者は衣を得、思求する所ある者はみな食飲●衣食及び資緣の具を得、苦を受くる者は安隱なることを得、乃至懷胎の者は產生の時にみな安隱なるを得。爾の時に彼等の菩薩、世尊のみもとに往詣して、みな奇特を生じて是の言を作さく、世尊は不思議なり、奇特なり、大いに奇特なり、此の佛頂王と●世尊是の如く作したまふときに、此の三千大千世界を見るに寶網徧ねく上に覆ひ、虛空より(一)天妙華●天妙華雲●末香雲●旃檀雲●衣服塗香雲●華鬘雲●天妙華鬘雲を雨らし、一切の菩薩●一切の天●龍●藥叉●乾闥婆●阿修羅●迦樓羅●緊那羅●摩睺羅伽等、天の妙華を以て佛の上に散し、又た繒衣寶蓋幢旛天の妙音樂を雨らして、空中に於て而も奏し、彼の音樂より是の如くの聲を出さく、奇なるかな世尊佛頂と。設ひ十地に住せる菩薩も瞻覩すること能はず、所有る一切の有情互に安樂を得、念佛三摩地を得。彼の時に釋提桓因一切の盡欲界の天子、俱に世尊のみもとに往詣して佛に白して言さく、世尊若し此の大明王を持するものあらん、我等所有る一切の天彼を見ば、みな起て半座を分て與めに坐せしめん、時に世尊天帝釋に告げて言はく、天帝法として爾なり、頂輪を成就せる者には、天帝釋等の諸天見ん者

(一) 天妙華は剩字。恐く

は必ず座を分つべし、天帝、有情界に攝せらるゝものゝ、頂輪を成就せる者を見て、而も半座を與へざることあることなし、地位を得る菩薩と、不思議解脫に住せると、三摩地を得る者と、及び緣覺と離欲の聲聞とをば除く、天帝法として爾り、或は餘の頂輪を成就せるものを見て、座より起たざる者あらば、彼れが頭百分に破れん。時に天帝釋是の言を作さく、世尊我れ持明者を加護せん、若しは此の明王を修し、若しは讀誦し、若しは供養し、若しは經卷を書寫し乃至受持せんものは、彼れ惡趣に墮せず、彼をして正念を得せしめん。世尊天帝釋を讃歎したまはく、是の如く是の如し、天帝若し此の明王を成就する者讀誦する者あらば、必ず惡趣に墮せじ、宿命智を得諂曲せず、離間語なく矯らず異心あらず善巧方便を具せん、天帝釋頂輪を持せん者惡趣に墮すといはば、是の處あることなけん、常に婆羅門刹利大王の族に生じて三端正にして色を具し相好あり、文筆(一)論工巧を成就し慳悋ならず、聞持して忘れざることを得、二父母(二)雜せじ、四法として爾り、佛頂の威德は不思議なり、比量すべきことなし、佛頂の族は不思議なり、時に彼の一切の天衆菩薩みな奇特を生ず、其の有情は無量の佛を供養するなり、彼の人の手に至ることを得れば、一切の天世攝受す、若し彼の人

一・三　亂脫

(一)論　此の上に恐くは書の字あるか。

二、四　亂脫

(二)雜　和本離に作る。

の手に至りぬれば、沮壞するものなし、若し此を得れば不思議の功德を成就す。

印契品第二

爾の時に金剛手菩薩、無量俱胝の持明衆に圍遶せられて、世尊のみもとに往詣して、頭面に足を禮して佛に白して言さく、世尊、(一)大持明者あつて、佛敎の眞言行に於て修行せんに、彼れ方便を具せず、善く儀則を知らざらん、彼の有情を利益して此の方便に由て、速かに成就を得しめんがために、惟し願くは世尊、佛頂の眞言敎を演說したまへ。佛、執金剛に告げたまはく、明を持せん者は先づ當さに三歸を受け、菩提心を發し、淸淨に澡浴し大悲を以て一切有情を愍念すべし、寂靜の處に於て契印を結ぶべし、親り承禀して而も受けよ、若し此に異んじて結ぶ者は、諸魅及び毗那夜迦而も障難を作し、死しては地獄に墮せん、灌頂せざる者、菩提心を發さゞる者、彼の人の前にしては此等の印を結ぶべからず、先づ三部心の印を結ぶべし、(二)四頂互に內に結び合せ、其の二輪並べ竪てゝ前に(三)指に附著せよ、是を(四)一切如來心の印と名く。即ち前の印の左の輪を屈して掌中に入れ、右の輪を前の如く竪てよ、是を蓮華部心と名く。

(一)大　若の字か

(二)四頂云云　地・水・火・風の四內縛なり。

(三)指　蓋の字か。

(四)一切云云　佛部心の印なり。

即ち前の蓮華部心の印の右の輪を屈して掌中に入れ、左の輪を前に依て竪てよ、是を金剛部心の印と名く、二手竪てゝ互に諸頂を交へ、心を虛にして合掌して華の掌中に在るが如くする、是れ普通一切佛頂の印なり。金剛藏先づ當さに一切世間・出世間の眞言において、上上なる一切佛頂の主、(一)轉輪王の印相を結ぶべし。二手內に相ひ叉へて拳に作り、(二)二光を竪てゝ上の節を屈し、二輪並べ竪て、二蓋兩の節を屈して二輪の上に相ひ拄へよ、此れは是れ輪王の根本の印なり、一切の印の中に最も殊勝なり。

即ち前の根本の印の右の蓋を、右の光の後に於て直く竪てゝ著けざらしむる、是を頂の印と名く。

即ち前の根本の印の二蓋を、各の光の後に於て直く竪てゝ相ひ著けざらしむる、是を頂印と名く。

即ち前の根本の印の二蓋、各の屈して二光の背に拄ふる、是れ甲冑の印なり。

即ち前の根本の印、二蓋の二の節を屈して背けて相ひ逼め、二輪平かに竪てゝ二蓋に附けよ、是れ鎧印なり。持明者此の印を結ぶに由て、設ひ頂行等も附近すること能はず、何に況んや餘の作障の毗那夜迦等をや。

(一) 轉輪王の印相釋迦金輪の根本の印なり。

(二) 二光此の軌の印說の文は、輪・蓋・光・鎧・勝の五佛頂を以て大指より小指に至て之を配し名く。

即ち前の根本の印の二蓋を屈して二光の第三の節に拄へよ、是を輪王の心印と名く、眞言と相應すれば能く一切の事業を作す。

即ち前の根本の印の二蓋を屈して二光の第三の節の上に附くる、是を輪王の心中心印と名く。

即ち前の根本の印、右の蓋を右の光の後に屈して、身に向へて三び招け、是れ迎請の印なり、此の印に由て一切の眞言(一)聖天を請し及び持金剛を召す、何に況んや餘の菩薩等をや、左の蓋を外に向へて三び擲げよ、是れ奉送の印なり。

即ち前の根本の印二蓋屈して相ひ拄へて二光に附け、輪二各各に蓋の側に竪て附けよ、是れ閼伽の印なり、先づ掌の中に於て華を安して然して後に此の印を結べ、初め迎請し及び奉送するに、各の此の印を用て閼伽を奉獻せよ。

即ち前の根本の印、二輪各の屈して掌中に入れよ即ち方隅界を成す。

即ち前の印二輪並べ竪てゝ微しき蓋に著けずして目上に瞻視して而も結べ、是を上方の印と名く。

即ち前の印二輪並べ竪てゝ更互に左右に動搖せよ、是を摧諸關鍵の印と名く。

(一) 聖天聖尊にして歡喜天にはあらず、故に二字共に清音に讀む。

(一) 左右云云　二大二頭交へ入れて鎖の如くす。

(二) 塗香の印　以下五供養の印は今の文の如し、眞言は常の五供の言を用ゆ。

即ち前の根本の印、(一)左右の蓋と輪と各の相拄へて環の如くして、各の光に依て住せよ。

是を一切有情及び俱摩羅天●梵天●大自在天●那羅延天を縛し、縛し已て鈎召して順伏せしむる印と名く、蓋と輪とを解するときは卽ち解脫を成ず。

即ち前の根本の印他の眞言を斷壞することを得んと欲はば、二輪の甲を以て二蓋の甲の側を掐へよ、一切の眞言明斷壞することを成ず。

即ち前の根本の印、右の蓋を屈して左の光の下の節に倚せよ、是れ(二)塗香の印なり。

即ち前の根本の印、左の蓋を屈して左の光の下の節に倚せよ、即ち是れ華の印なり。

即ち前の根本の印、二蓋各の屈して、二光の下の節に倚せよ、是れ燒香の印なり。

即ち前の根本の印、二蓋の一の節を屈して、各の二輪の側に附けよ、是を獻食の印と名く。

即ち前の根本の印、二蓋の兩つの節を屈して、背相ひ著けざらしめ、二輪を並べ竪て、以て蓋の側を捻せよ、是を燈の印と名く、修行者此等の印を以て念誦の時結び用ひよ。

(一) 根本云云　禁刀兵法。

(二) 根本云云　殺龍鬼等法。

一、三、二、四　亂脫

即ち前の根本の印、二蓋の甲二輪の甲の上を拄へよ、是を能く一切の難調の鬼魅起屍茶吉尼及び水行の者を縛すと名く、其の口を縛す却て結ぶこと根本の如くすれば、即ち解することを成ず。

根本の印を結んで華果を以て印の中に安して、念誦して人に與ふれば即ち敬愛することを得。

即ち前の根本の印、二蓋の一節を屈して相ひ逼め、二輪を以て並べ壓して忿怒を以て本眞言を誦せよ、能く象●馬車輪を禁止す、即ち此の印を以て象に乘て結んで遙かに擲ぐれば、能く佗の敵を禁止す。

(一)根本の印を結んで軍陣に入れば、能く一切の刀兵を禁じて、害すること能はざる所なり。

(二)根本の印を結んで忿怒して池井泉に擲ぐれば、一切の龍宮火焰熾然として、一切の那伽(ナウギヤ)を殺害して空中に擲ぐ　一、三　一切の持明仙●乾闥婆●緊那羅をも、二能く殺害す。

四爾の時に世尊、復た金剛手菩薩に告げて言はく、此の大曼荼羅をば持三昧耶と名く、能く一切の天●龍●藥叉●乾闥婆●阿修羅●迦樓羅●緊那羅●摩睺羅伽●人●非人等を摧く、一

切の菩薩も違越すること能はず、一切の難調伏の有情を調伏し、能く一切の眞言明を壞し、一切の菩薩を鉤召す、一切の佛稱讃し稱譽し歡喜して大師子吼したまふ、纔かに結ぶときは設ひ十地に住する菩薩をも、みな消融し驚駭せんと欲す、何に況んや餘の梵天等をや。是の故に善男子、我れ汝及び觀自在菩薩のために大師子吼す、善男子此の一字轉輪王の眞言は、無量の如來に從て受得して、轉じて他のために說く、一切の天衆も奇特を生ず、善男子、此の不思議の一字輪王は一切如來の說なり、善男子、我れ過去世の阿僧祇劫に、彼の時に當て佛有しき、轉輪聖王如來應供正徧知と名けたてまつる、三摩地を以て轉輪王の形に住したまふ、善男子、我れ彼の時に於て曾て長者たりき、彼の如來の所に於て諸佛に承事し供養し食を設く、金剛手時に彼の如來、此の一字輪王の眞言を說きたまふ、我れ彼の時に於て(一)家を捨て非家に趣き、大精進を以て成就を求め、此の身を捨てずして持明轉輪聖王と成ることを得、神通を得て阿迦尼吒天に遊びき。善男子、我れ無量百千俱胝の有情を成熟して、無上正等菩提に安立し、無量百千の難調の有情を調伏して、次第に等正覺を成ずることを得しめき、善男子、當さに知るべし此の不思議輪王佛頂は、大威德(二)天精進勇健なり、百劫にも具さ

(一) 家を捨て云云是れ出家なり。

(二) 天和・高二本に大に作る。

に說く能はじ、我れ今少分を說かん、後の五濁の世に於て廣く一、堅固の有情二、淨信三、大乘の者に於て顯揚し宣布すべし、其の人則ち一切如來の祕密を持せん、善男子、此の一字輪王は一切如來の祕密なり、一切如來の堅實なり、一切如來の最勝なり、一切如來の加持三摩地において、眞實となす、一切の三摩地において、上上にして如來に等同なる最勝の三摩地なり、一切の菩薩をして奇特を生ぜしむる三摩地なり、一切如來に顯示す、諸の菩薩をして思惟し校量することを能はざらしむ、善男子、我れ略して如(一)來自ら此の眞言形に住したまふことを說かん、善男子、我れ中に於て一切印加持大輪王廣大擲印の相を說かん、兩の脚を並べて立て、左の脚の大指を以て右の脚の大指を壓し、二手右の膝より左右に旋轉して、金剛舞の如くして、漸く上げて乳に至り、又た兩の頰に於て旋轉して頂上に至り、根本の印を結んで即ち(二)尾捨佉に住して立て。纔かに梵天と俱魔天と　帝釋と摩醯首羅天と

那羅延と一、三天二及び大四衆と　龍と藥叉衆と及び修羅とに擲ぐるに

羅刹●毗那夜迦等の　一切の隨族及び鬼衆

迷亂し悶絕して恐怖を生ず　所有る三住する者二天に、四羅刹

(一) 如來云云大日經に陀羅尼形と云ふと同じ、是れ梵字を身に布するなり。

(二) 尾捨佉　邇入の義、今頂輪王は行者の身に邇入し行者は本尊に邇入するなり。

一、三、二、四 亂脫

一、三、二、四 亂脫

地下に住する鬼神の類　纔かに此の印を結べばみな馳散す

行者悲愍の心を起して　息災念誦して苦惱を除くべし

心眞言を誦し心印を結んで　淨心にせよ彼等安樂を得ん。

是の如く金剛手、擲印に二種あり、所謂る(一)共と不共となり、此れは是れ不共の印なり、我今次に共印を說かん、脚を平にして立て右の脚を擧げて舞勢の如くして旋轉せよ、根本の印を結んで頂上に安せよ、是を害印と名く、大魔陣難の處に於て用ふべし、纔かに此の印を結べば、一切の諸魔十方に馳散す、金剛手此を共印と名く。

夫れ擲印を結ぶことは、事法に依て(二)五支を以て身を成じて想へ、自身一字輪王の如くして七珍圍遶し光明赫奕として瞻睹すべきことかたし、左の手は左の跨を拄へ、右の手には輪を持す、左右(三)阿哩茶鉢囉(三)合哆哩茶にして按步し、目を怒かして左右を顧視すること師子王の奮迅するが如くして、然して後に擲印に住し、印を結んで頂に安せよ、即ち十二輻の金輪を想ふて、魔の所在の方に隨て其の印を擲げ、或は彼の魔の形を畫いて印を以て之に向へて擲げよ、後に慈心を起して息災の法を作すべし、佛母の眞言を誦し或は心眞言を誦して息災護摩し或は彼の形を作て牛乳を用て佛母の眞言を誦して、以て之を灌沐して安樂ならしめよ、然らざれば累劫に障道の因緣を作す。

爾の時に金剛手菩薩、佛に白して言さく、願くは世尊、易き方便を說きたまへ、世尊或は有情あつて下劣にして精進勤勇すること無からん、世尊彼れは最勝の成就を修すること能はず、是の故に彼の有情の大乘に住する者の爲めに、作業の易き方便を說きたまへ、世尊、如來の加持力に由るが故に、五濁末の時に於て、此の大明王に由て少しき方便を以て一切の毒を治せん。佛、執金剛に告げたまはく、即ち前の根本印、二風を竪て合せて針の如くして以て毒を發動せよ。

即ち前の印、二蓋を以て相ひ拄へて下に向へて屈して搖動せよ、迷悶の毒を召するなり、然して二蓋を開け、便ち毒を發遣して散せしむるに成る。

即ち前の根本の印、二勝を開き竪てよ、是れ語せしむる(一)印なり。

即ち前の根本の印、二輪を並べ竪てゝ蓋頂に著けざれ、阿尾捨せしむるなり、互に搖動せよ倒れしむるなり、互に相ひ擊て語せしむるなり、互に相ひ纏へ、舞せしむるなり、各の擲散せよ毒なからしむるなり、善男子、此の明王は能く一切の事業を作す、其れ鬼魅等に於ても亦た是の如く作すべし。

爾の時に金剛手祕密主、佛に白して言さく、云何んが持明者、印を結ぶこと當さに何の處にか於てすべき。佛、持金剛に告げたまはく、彼れ淨く澡浴すべし、閑靜隱密の舍利ある處に於て、像の前に對して結ぶべし、若し此れに異んじて結はば、即ち傷損せられん、成就の時は徧擲の印を結んで、大魔の大いに障難せん處に於て用ゐよ、天修

(一) 共と不共云云文の中の所說は天等に局て用ゐて餘に通ぜず、共の印は自餘の一切に通ず。

(二) 五支成身輪成身觀なり。

(三) 阿哩云云是れ則ち丁字立なり

(一) 印なり和・高二本によつて加ふ

羅の鬪戰及び難調伏の有情を調伏す、若し餘處に用ふれば有情を傷損せん。

(二)曼荼羅儀軌品第三

爾の時に觀自在菩薩摩訶薩、佛の威神力を以て座より而も起て、偏へに右の肩を袒ぬぎ、右の膝を地に著けて、世尊の前に於て合掌し禮し已て佛に白して言さく、我れ世尊に眞言の不思議を說きたまへと請す、世尊諸佛世尊明王佛頂は不思議なり、設ひ十地に住する菩薩も瞻睹すること能はず、何に況んや餘の釋梵護世天等をや、今世尊應供正徧知に請したてまつる、惟だ願くは三昧耶曼荼羅を說きたまへ、過去の先佛世尊已に說きたまふ、此の曼荼羅に入るに由て、即ち一切の曼荼羅に入ることを成す、此に於て灌頂することを得つれば、一切の曼荼羅に於て灌頂を得、此に於て印可を得つれば一切の曼荼羅に於て印可を得、此に於て入ることを得つれば、一切の魔道を超越す、此を見るに由て一切の魔道を解脫することを得、此に入るに由て不退轉を得、此れに於て灌頂を得つれば、一切の眞言印に於て自在なり、此に入るに由て持金剛攝受して一切の罪を離るゝことを得しむ、此れに入るに由て能く一切の事業を堪任す、此れに入るに由て安樂にして方便し易く、能く大明王を成じ、一切の障難を離る、此れに入

一、四、二、五、三、六
亂脫

るに由て或は善男子或は善女人無量の功德を成就す、世尊、我れ曾て人のために此の一字明轉輪王を修して、無量の菩薩の三摩地を得しめ、不思議の如來の加持を得せしめき、世尊我れ曾て憶念するに、恒河沙數劫を超えて、彼の時に當て佛あり、寶髻如來應供正徧知と名けたてまつる、世界を妙慧と名けたりき、我れ彼の時に當て貧匱なり、柴を賣る方便を以て活命しき、我れ一四寶髻如來應供正徧知の二彼の五成就したまへる無量の功德を聞いて三所の六如來の前に於て願を發さく、如來みな成就せしめたまへと。彼の時に於て家に在て是の思惟を作さく、我れ今寶髻如來を請したてまりて、飯食を設けんと、早に起きて柴を賣て食飲を營辦し、世尊に往詣して佛を請して飯食せしむ、如來請を受けたまひき、我れ佛世尊に於て廣大の淨信を發して食を奉獻し、佛を禮し已て是の願を作して言さく、一切衆生をして貧匱ならしむること勿れと。彼の如來我が信心の猛利に淸淨なることを知ろしめして我れに謂て言はく、善男子、此の一字佛頂輪王を持したてまつれと、廣く我がために本敎の福利を說きたまふ、則ち彼の世尊我がために說きたまふ、我れ歡喜奉行しき、我れ大精進勤勇を以て此の身を以て大明王を得、無礙嚴三摩地を得たりき、世尊、此の三摩地に由て無量百千の持明の者をして

無上正等菩提を成就せしめき、世尊、我れ當に知んぬ、此の如來佛頂は不思議なること
是の如し、佛の三十二大人の相の中に佛頂を最勝とす、是の如く一切の眞言の中に、
此の佛頂の眞言を最勝とす、是の如く、世尊、天世の中には佛を無上の大師とす、是の
如く佛頂輪王は、一切の眞言の一、三中の二明の四王なり、是の如く廣大なり、惟だ願くは
世尊如來應供正徧知、我がために曼荼羅を說きたまへ。爾の時に世尊、觀自在菩薩摩
訶薩に告げて言はく、汝一、三大悲者二大菩提薩埵四有情に於て大悲を以て體として生じ、
無量の大悲を以て有情を利益するが故に、大薩埵汝ぢ諦かに聽くべし、我れ略して曼
荼羅を說かん、一切の曼荼羅の中の王なり、一切の天●龍●藥叉●乾闥婆●阿修羅●迦樓
羅●緊那羅●摩睺羅伽の集會の中に、一切の佛菩薩の遊戲する所、金剛手大菩薩輪王の
三昧耶に加持する所、諸の菩薩のために三昧耶を以て利益するが故に一、三此の轉輪王を
持誦したまふに由て、二善男子如來は、四有情に於て利益を作し、末後の身を捨てゝ安樂
を得しめ能く沮壞すること無らしむ一、三大曼荼羅を得れば、二佛頂輪王の修行者、四一切
の意願豊足す、善男子、一、三先づ二阿闍梨四大菩提心に於て堅固に、大願に於て決定して
常に念誦すべし、平等の戒にをいて梵行せんもの大悲を具し一、三恩を知て二多聞にして

一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫
一、三、二、四 亂脫

四恩を報せん者、戒禁を護らん者、輪王の曼荼羅を畫すべし、此の一、三而も二教に、異ん
じて四畫せば惡趣に墮せん。彼れ先づ其の地を淨むべし、多く華果あらん處、山頂と金
剛座と轉法輪と等の處に於て一、三勝上に成就す、二畫くべし四東北の微し下れる處に於て
其の地平正にして鹹鹵ならず、棘刺骨毛髮爪甲なき處、礫石●髑髏●一、三沙二穢●四黑泥を離
れたる處、若しは土の色好らん、及び上の如くの穢惡なくば、當さに土を掘り出して却
て用て塡め築くべし、如し地已に堅うして土餘りあらば、即ち是れ上處なり、成就を
なすに堪へたり、如し土足らずんば此の處は堪へず、當さに勝處を改め覓むべし、地
を驗すること已んなば、是の如くの相貌の地に於き、廣大の悅意端嚴の樹を以て莊嚴
せる處に於き、是の如くの功德を具せる處にして曼荼羅を畫すべし、童女をして白緤
の縷を合せて(一)五色の絣線を作らしめよ、或は藕絲の斷續せざる(二)結額なき者を用ゐ
よ、或は(三)野麻を用ゐ、或は牧牛の繩を用ゐて、用て地を絣すべし、初め絣線を起首
するには、(四)心眞言を以て一百八徧護摩せしめよ、心眞言に曰く　南莫三漫多勃馱南、
引阿鉢囉二合　底呵多、捨娑娜南、引二唵、引三怛他孽都瑟尼二合　沙、四阿那縛盧枳多、沒
馱尼、五斫羯羅二合　靺嘝底、二合六吽、惹縛二合　羅惹縛二合　羅、七馱迦馱迦、八度那、

(一)五色云云未だ染めざれども終に浸すべき線なる故に因中說果して五色といふ。
(二)結額なき額は蠶の麻絲の節なり。
(三)野麻
(四)心眞言　佛頂輪王心眞言なり。

微度那、九 怛囉娑野、麼囉逾瑳囉耶、十 訶那訶那、十一 伴惹伴惹、十二 暗惡、十三 唎唎、鉢囉二合 企尼、十四 君吒哩尼、十五 阿鉢囉二合 爾多、薩怛囉三合 駄哩尼、十六 叫 戮、娑嚩引二合 訶引十七

此を輪王の心と名く、曼荼羅の中に於て、壇の中に先づ置きし所の香華を以て、加持すること一百八徧して、壇の中に於て閼伽を獻じ已て、然して後に一切の色を絣ちする に、皆な心眞言を用て加持して畫くべし、先づ白、次に赤、次に黃、次に綠、次に黑なり。是の如く等の粉或は珊瑚●金●摩尼●眞珠●吠瑠璃等を用て錯めて末となすべし、或は粳米の粉を用て種種に染めて色となして香に和せよ、是の如きを色の次第と名く、若し如上の色を得ずんば、赤土●黃土●綠土等を取て用ゐよ、自身を護し曼荼羅の處を護し、弟子を護するにはみな心眞言を用ゐよ、一、三一切の二作すべき、四(二)明王の心眞言を誦持して曼荼羅に絣つべし、隨心を用て香水を加持して壇上に散灑せよ、隨心の眞言に曰く

南莫三漫多勃馱南、引一 阿鉢囉二合 底呵多、舍娑娜南、引二 唵、引三 阿鉢囉二合 爾多特、地異の切、四

此を輪王の隨心と名く、此の眞言を以て一切の方處にせよ、塗香●華●燒香●飲食●閼伽

一、三、二、四 亂脫

(一) 明王云云 明王は輪王なり。

一、三、二、四 亂脫

(一) 羯剌賒 瓶のことにて五瓶を安す。

(二) 多く儀 和●高二本に身和に乖くに作る。

(三) 佛印 佛頂の印。

一、三、二、四 亂脫

等をも一一に加持して獻せよ、一、三則ち線を展ぶるには伊舍那の方より起首め、二中央に於て(一)羯剌賒を安して水を盛り、諸の種子及び藥を盛り滿て以て繒を以て項に繫けて四隅にも於け、四線を展べて各の兩道絣ちせよ、若しは線斷え若しは亂れ若しは結れば酥を用て六字の辨事眞言を以て護摩する、一百八徧せよ、眞言に曰く 娜謨三漫多勃馱南、引一 阿鉢囉二合 底呵多、舍娑娜南、引二 唵、引三 吒嚧唵、三合四 滿馱、娑嚩二合引 訶引五

一百八徧を誦すれば則ち息災を得、若し絣つこと直からざるときは即ち(二)多く儀に乖く、若し線亂るゝ時は即ち迷惑す、線を執るの時頗るべからず、若し頗るときは即ち身疾病す、是の故に線を漬すの時、須らく良久く粉汁をして潤ひ徹せしむ、即ち絣道麤細匀ふることを得、四角の槪太だ麤からず太だ細からず、壇と相ひ稱はしめて、之を釘つべし、是の如く等の線を以て四方四門にせよ、其の中央に佛頂輪王を安せよ、或は(三)佛印を以てし佛の左右に煩惱寃法輪を安し、また光聚と高との二佛頂王を畫け、亦た左右に一、三及び二白傘蓋佛頂と勝二佛頂と、四佛眼と佛毫相と欒吃底丁移の切と牙とを安せよ、佛慈と大福德明と及び威德明と最勝と及び商羯黎と三部母の明と阿難と須菩提と鉢と及び錫杖と等を安すべし、佛の左右に於て次第に而も畫せよ、外の四門の左右

に各の佛の使者を畫くべし、西門の中には無能勝を畫け、並に門の界道の中に於て、難陀と烏波難陀との二龍王を畫け、四門には持蓮華と持金剛とを畫け、佛の右左に摩醯首羅並に妻を畫くべし、俱尾羅天は棒持せり一切處の門の兩邊に於て置くべし、第三院は第二院の半を取るべし、第三院の中に於て梵王及び諸天迦樓羅護世等を畫け、及び餘の天をも意に隨て而も畫け、彼の三部の本族の眷屬をも亦た畫すべし、一切みな無能勝の壇の儀軌に依れ(一)金剛契の中に說けり壇を畫くこと已んなば新緋の底黑からざる者を取るべし、量に應せしめよ、阿摩羅の梢と葉とを取て其の中に挿め。又た俱緣果を取て缾の口の上に安せよ、此の土にはなし、時に隨て華果枝葉相ひ兼れて端正なる者を取れ。缾の中に諸の寶と及び諸の種子とを置き、並に香水を滿てしめよ、細き繒帛を以て其の項に繫けて壇の四角及び中央に安せよ、門ごとにみな剎柱を立てよ、時華を以て鬘と爲して莊嚴し並に幢旛を懸けよ、香爐を置いて沈水香と檀香とを燒くべし、即ち阿闍梨、壇の側に於て護摩を作すべし、根本の眞言を以て酥を用て護摩すること一百八徧して、然して後に迎請せよ、(二)明王の頭と頂と甲冑とを以て自ら身を加持せよ、一切有情に於て大悲心を起し、復た菩提心を發すべし、金銀或は瓦器を取て諸の種子及び華香水を盛て滿たしめ、右の膝を地に

(一) 金剛契和・高二本は金剛起に作る、大日經疏八にある經名。而して未渡の經。

(二) 明王の頭と頂と甲冑明王とは金輪頭の印、頂の印、甲冑の印なり

著けて根本の印を結んで明王を請すべし、心眞言を用て次第に依て天・龍・藥叉等を請すべし、即ち明王の心を以て中缾を加持すること一百八徧して、然して後に菩提樹木此の土には夜合木を用ふ。を取て火に然き、三甜に和して明王の眞言を用て護摩すること一百八徧せよ、即ち一一の眞言を以て各の護摩すること一百八徧せよ、頂の眞言に曰く (一)娜謨三漫多勃馱南、引一阿鉢囉二合 底呵多、舍娑娜南、引二唵引三斫羯囉二合 鞞嘿底、四唵引吽、五

頭の眞言に曰く 歸命前に准ず。 唵、引一斫羯囉二合 鞞嘿底、二合二 吽發、娑嚩二合 訶引三

下と上との方界を結する眞言に曰く 歸命前は准ず 唵、引一 微枳囉拏、二合 微特防去聲二合 娑尼、二 迦比羅、 貳縛哩尼、 三 怛囉娑耶、 嚩曰囉二合 吠賒、 四 薩帝㖿引囉特縛、二合五 能上聲 瑟吒囉、 三合 囉乞沙二合 帑、 發、 六

甲冑の眞言歸命、前に准ず 唵、引一 斫羯囉二合 鞞嘿底、二合二 鉢囉二合 賒弭多、 三 囉捺囉二合引 囉捺囉、二合四 娑去聲 薩摩二合 車盧、 瑟尼二合 沙、 五 囉乞沙、二合 囉乞沙二合 帑、 六 吽發、

娑嚩二合 訶七

牆の眞言歸命前に准ず。 嚩引一 莫堅二

(一) 娜謨和・高二本南無に作る。

是の如く前に說くが如きの印を、事業に隨て之を用ふべし、一切の眞言天の明には、根本の眞言を用て安立せよ、則ち世尊聖衆に於て食飲を作して、力に隨て供養し、一切の佛菩薩を禮して五輪を地に著け、香泥を以て手に塗て大三昧耶の印を結んで、之を示せ、二手虛心合掌にして諸度を各の微し屈して芙蓉の如くせよ、如來族の三昧耶の印と名く、然して後に一一に一百八徧を誦せよ、心眞言をも亦た誦せよ、曼荼羅を旋遶する聖衆に啓白すべし、我れ作すべからざる所を而も作さん、所有る過犯儀軌の加減あらんをば、惟だ願はくは聖衆過を捨たまへと、是の如く第二●第三も亦た是の如く說け、弟子已に戒を受けたる者と、眞言法に於て淨信を生ずる者と、已に菩提心を發せる者と、三寶に於て淨信せる者と、弟子の是くの德あらん者をば入らしむべし、入る者は七と八とを限れ、若し曼荼羅に入らんと欲はば、淨く澡浴し徧身に香を塗て誓を設けしめよ、若し三昧耶を越え、或は愚痴なる者あらば、無間地獄に墮せん、汝等、善男子常に三昧耶を護持すること是の如くなるべしと。弟子の爲めに三昧耶を告げて、(一)繒帛を以て面を覆ひ、三昧耶の印を結んで心眞言を稱せしめて華を擲げしめよ、彼の上に於て華の落つる所、即ち其の部族を定めよ、是の如く弟子を引き已て、

(一)繒帛云云 今の覆面の本據。

一一に弟子のために根本の眞言を誦して、酥を以て護摩すること一百八徧せよ、是の如く作し已て三昧耶に告ぐべし、汝等㈠眞言行に於て、當さに勤修すべし、㈡一切の天を輕賤すべからず、㈢大乘に於て、疑惑を生ずべからず、弟子等、阿闍梨に於て、殊勝に捨施し供養し、己身を捨てゝ轉輪王佛頂の一、三阿闍黎彼に於て、恪む心なく、悲愍の心を以て二印契及び眞言を受くべし■敎授すべし、即ち此れより已後一、三成就者を惱害すること能はず、二一切の天●龍●藥叉●乾闥婆●阿修羅●迦樓羅●緊那羅●摩睺羅伽等、及び一切の有情■一切の眞言に於て成就す、必ず能く堪任して不退轉を得、一切の菩薩の位に入り、一切の天沮壞すること能はず、則ち一切の世間●出世間の曼荼羅三昧耶に入るに成る、一切の天みな知る、是の如く善男子、菩提を成就する者は則ち悉地を得、持金剛の加持する所、行ずるに隨て安樂なり、我略して此の儀則を說く、次第に一切曼荼羅王を作すべし、一字頂輪王の稱說したまふ所なり。爾の時に曼殊室利童眞菩薩、佛に白して言さく、世尊云何なるをか阿闍梨とする、云何んが灌頂せん。時に世尊讚歎したまはく、善かな善いかな妙聲、善いかな妙音、若し灌頂を受けんと欲ふ者あらば、阿闍梨に於て前に比するに兩倍にして

一、三、二、四 亂脫

一、三、二、四 亂脫

施すべし、雙氈を施すべし、金と銀と熟銅との器に諸の種子と及び藥と香水とを滿ち盛れるを施すべし、則ち阿闍梨曼荼羅の前に對して四方に(一)曼荼羅を塗り作し、白粉を以て三肘量にせよ、蓮華を畫いて上に於て師子座を安して灌頂を受くる者を坐せしめ已て、蓋及び拂を持して吉慶の聲を誦して讃揚し、中綁を取て加持すること一百八徧し、弟子をして佛頂の印を結んで頭上に安せしめ、阿闍梨自ら弟子をして灌頂せしめ、螺を吹き鼓を擊ち諸の音聲を作せ、國王の灌頂を受くるが如くせよ、阿闍梨右の手を以て弟子の手を執て曼荼羅に引入し、一切の佛●菩薩に於て弟子を奉獻し、弟子をして佛菩薩に於て印可を請せしむべし、阿闍梨弟子のために諸佛に告げて是の如くの言を作さく、世尊、此の弟子我れ灌頂し已んぬ、此の善男子、今より已往希望することなき悲愍の心を以て、一切有情を哀愍して、一切の世間●出世間の曼荼羅を畫くべし、說の如く作すべし、是の如く一切の曼荼羅の儀軌を加行すべしと。是の如く灌頂する者をば、即ち阿闍梨とす、一切菩提の道に入る、是の如く菩薩の行に於て行ずる時は、無量の功德果報を得。

(一)曼荼羅灌頂
曼荼羅即ち正覺壇

先行品第四

爾の時に金剛手祕密主菩薩摩訶薩、座より起て偏へに右の肩を袒ぬぎ、掌を合せて佛を禮して佛に白して言さく、世尊我に印可したまふ、一切の眞言に於て灌頂を得、一切如來のみもとに於て祕密を持すと。世尊、菩薩の大集會に於て修眞言行の者の爲めに、及び我れ及び一切有情のために、一切の大衆を哀愍し利益せんとして、惟だ願くは佛頂轉輪王の敎の方便を說きたまへ、或は當來後世の人あらんを利益し安樂ならしめんが故に。時に世尊、金剛手祕密主に告げて言はく、善いかな善いかな祕密主、汝能く是の如く利益せんとして是の如くの問を作す、汝諦かに聽くべし、我れ今說かん、祕密主、此の無障礙如來頂の一切の明眞言王三昧耶の隨入の儀軌灌頂の儀を已に說きつ、我今譬喩せん。祕密主如來の天世有情に於て勝れて上上たるが如く、善男子、此の轉輪王佛頂は一切の眞言の中に最勝たり、一切の眞言王の中に上上たり、是の如く先事の儀軌を以てすれば即ち成就の儀を成ず、先づ當さに畫像の儀を說くべし、縱かに此の像を見るに由て、一切の眞言を修し、一切の敎に於て成就するに堪任す、縱かに此を見るに由て一切の罪を解脫し、一切の世間●出世間の眞言みな流通することを得、縱かに此を見るに由て持金剛攝受す、縱かに此を見るに由て一切の障毗那夜迦を遠離す、

(一)十八會教王金剛頂十八會の大本の經を指す。

(二)勇士云云　勇み強き男は思ひ切りて一錢も直段を切らざるをいふ。

(三)氈を織る　是れ絹に曼荼羅を畫くの本據なり、次の頓方とは四方なり。

(四)餘天云云　外道の天等を信ぜざるなり。

(五)菲　即ち茅の字

纔かに此を見るに由て、(一)十八會教王安樂にして成就することを得易し、纔かに此を見るに由て一切の天●龍●藥叉●乾闥婆●迦樓羅●緊那羅●摩睺羅伽●人●非人等禮敬を成す、乃至略して說く、善男子纔かに此を見るに由て、一切の世間●出世間の眞言明の上上なり、此の佛頂は一切の佛頂の中に主宰たり、我れ今畫像を說かん、童女をして線を撚らして割截せず、(二)勇士の如くに交易し織師齋戒を受けて(三)氈を織るべし、頓方三肘にせよ、先づ五淨を以て洗ひ、後に檀香水を以て洗へ、壁に於て香を塗て像を畫く所の氈を張れ、面を東に向へて前に對し、緋の底黑からざる者を安し、香水及び一切の寶藥を盛り滿てゝ、廣大に一切の佛菩薩を供養し、三時に沈水香を燒け、其の畫師は三寶を淨信して(四)餘の天を信せざる者、極めて嚴毅にして八戒を受け、(五)菲を敷いて寢息し、身に白衣を著し三時に澡洗し、三時に衣を換へしめよ、是の如くの畫人の放逸ならざる者聖者を畫くべし、大海より須彌盧山王を涌起せよ、四寶の成ずる所なり、上に於て白蓮華に坐し身白金色にして一切の三摩地の最勝王たる三摩地に正受し、結跏趺坐せり、一切の身より徧滿して輪を出し熾盛の光明あらしめよ、上に於て山峰を畫くべし、其の峰は種種の寶を以て成せり、持誦者は佛の右邊に在て本の色形にして香爐を持して如來の面を觀て、右の膝を地に著けしめよ、下に蓮華の池を畫くべし、佛の頂より光明を出す、其の光は青黃赤白にせよ、則ち此の像を寂靜の處に安して急躁ならず、聖默し節食して眞言の契經毗尼等に依れ、放逸すべからず、一切の受苦の有情に於て悲愍の心を生じ、智眼を以て善く諸根を攝し心散動せず、意常に等引して一切の懸過を遠離し、及び諸の障難を遮せんが爲めに、魚肉等を食すべからず、異の作意せず、三寶を淨信し現前に敬信し、一切有情を矜愍し、成就に於て大菩提願の意を發し、三時に澡浴して新淨の衣を著し、閑靜にして人なき大河或は山に於て、身口心疲倦せず、一切の時に佛世尊に於て廣大の供養を作し、(一)圓月に於て晝夜に食せず　白月の一日より起首して、或は菜を食し或は積麥を食し、或は乞食し、或は水を飲み、或は麩を食して八洛叉を誦して先事の法を作せ。若し安善那を成就せんと欲はば、勇士は交易し掃尾闌安善那一兩を買て、婆羅門の童女をして五淨を以て洗はしめて、面を北に向へて研しめて、右の指を以て撚りて丸とせよ　雨水を用て和して撚る時、纔か以て指の面に塗て(二)怙するに竹の膜を以てし、然も之を撚て丸を作れ、若し丸に指の文あらば即ち成就せず。

四の丸を作て蓮華葉を以て盛て之を覆ふて陰乾にし、然して後に佛前に安して護摩の

(一)圓月の異名なり。十五日

(二)怙　貼の字か。

儀軌に依て柴を然て、一千の三波多を作せ、作し已て即ち舍利ある塔に於てし、或は像の前に於て廣大に供養し、(一)波羅奢木を燒いて八日護摩せよ、一の小曼荼羅を塗て四方にして第二重の曼荼羅を安護し、白芥子を以て第三重の曼荼羅を驚覺すべし、伴ありとも伴なくとも廣大に供養すべし、眞言を以て加護を作せ、面を東に向へて茅を敷いて坐し、三の菩提葉の上に於て藥の器を安し、四の菩提葉を以て覆ひ、右の手を以て藥器を按して念誦せよ、乃し暖煙燼あるに至れ、若し初位成就せば用て眼に點せよ、持誦者の見る所の人及び彼の人持誦者を見ばみな敬愛を得、第二位成就せば力千の象に敵(ひと)しく行くこと風の如く壽命五百年にして十分が一を竊むべし、諸の持明敢て陵突せず、第三位成就せば身初日の暉の如くにして寶を以て莊嚴し、壽命中刼ならん、餘類の持明仙敢て輕慢せず、輪王をも倨傲し、七風を超えて而も行かん。是の如く素路(ソロ)旦善那(タンゼンナ)・雌黃・雄黃等の三種の成就、獲る所の悉地みな同じからん。又の法。若し金剛杵を成就せんと欲はば、霹靂木を取て十六指にして金剛杵を作れ、(二)圓月の內に三日三夜食せず、佛菩薩に於て廣大の供養を作し、(三)其の杵を具へて佛に獻じ、種種の食飲を佛に供養し、然して後に金剛杵を將て奢摩奢那(シヤマシヤ)に往き、東流の河の兩邊の土を取て和するに五淨を以てし、一肘量に窣堵波を作て、前に對して儀軌に依て供養せよ、奢摩奢那の灰を取て塔の前に於て金剛杵の形を作りて、金剛杵を上に安して手を以て上を按して念誦し、乃し乞食の時に至れ、澡浴して彼の杵を(一)擲ちて里に入て乞食し、得已んなば食を分て佛に供養して、然して後に自ら食し身を護せよ、或は伴あるにも或は伴なきにも、二手を以て其の杵の上を按して念誦せよ、乃し三種成就するに至れ、初位成就せば彼を見、及び彼れ金剛杵を持する者を見んにみな敬愛を得、第二位成就せば牛の埃塵の如く高く飛騰して行かん、力九千の象に敵(ひと)しく奔走すること風の如く、六分が一を竊み所求自在に能く鈎召し、身に光耀あり、大威德を得ん。第三位成就せば身は初日の暉の如くにして、壽命一萬歲にして輪王をも倨傲し、金剛杵を持して遊行せん。是の如く蓮華・輪・三戟叉・鉞斧等も、所求の悉地成就みな同じからん。

又たの法。指(二)光を成就せんと欲はば先事の法を作せ、滿睟せざる孩子の頭指を取て前の法の如く窣堵波を作れ、奢摩奢那に就て廣大に供養し、茅を敷いて面を東に向へて坐し、其の指を佛に獻じ已り、手を以て之を按し、乃し光を放つに至れ、燈燼增盛ならば則ち意を加へて結護し、一夜を盡して念誦せよ、乃し晨朝に至て其の指を用て

(一)波羅奢木　胡桃。

(二)圓月云云　十四、十五、十六の三日なり。

(三)其　和本にあり。

(一)擲　和・高二本には取に作る。

(二)光　和・高二本先に作る。

招けば則ち敬愛す。

又たの法。三日三夜食せずして念誦し、佛前に對して曼荼羅を作り、酥燈を然いて供養し、香を燒き茅を敷いて坐し、子母同色の牛の乳を取て盛るに瓦器を以てして加持すること一千八徧、灰を以て壇界を結し晨朝に澡浴して眞言を誦し、乳を絣して生酥を取て佛前にして廣く供養し、酥燈を燒いて眞言を誦して、前に絣する所の酥を用て人の形像を作りて、七枚の菩提葉の上に安して、像の前に對して加持して念誦し、乃し徽し動するに至て、此の酥を取れ、觸るゝ所みな敬愛を得べし。

又の法。前の法を用て龍華の藥の末を取り、人形を作て香を取て瓦に器之を安して加持すること一百八徧、觸るゝ所、思ふ所みな敬愛を得。

又の法。前の法を用て牛膝の苗の莖を燒いて護摩せよ、求むる所の財利みな得。

又の法。牛糞の中に於て佛像の前に對して一の窟堵波を作れ、高さ一肘、法に依て供養し安息香を燒いて護摩すること十萬徧せよ、一千の牛を得ん。

又の法。前の法を用て白膠香を取て酥に和して護摩すること十萬徧、十二の最勝の村を得。又の法。前の法を用て蓮華を取て、檀香を塗て一千枚佛に獻せよ、即ち城邑の主たるを得。

又の法。前の法を用て安息香を燒いて、千萬の瞻蔔華を以て佛に獻せよ、金一千兩を得。

又の法。藥ある華十萬を取て佛に獻せよ、白氎一千張を得、是の如く一切の華、色に隨て氎を得。

又の法。奢摩奢那の灰を取て、滿月に於て晝夜食せずして無名指の(一)嚕地囉を取て、和して(二)彼の人の形を作りて、左の脚踏んで念誦すること一千徧せよ、種族と並にみな敬愛を得。

又の法。婚を求めんと欲はば、稻華を取て酥蜜酪に和して護摩すること一千八徧して、其の女の名を稱して念誦せよ、即ち所願に隨はん、如し隨はずんば彼れ必ず終りあらじ。

又の法。秔米粉を以て人形を作れ、苦油を以て當心に於て盛り滿て、鐵鍼を以て刺し、芥子の油を以て塗て(三)賒摩賒那の火を取て之を炙て、念誦すること一千八徧せよ、一日間に即ち女男をして敬愛せしめん、二日には毗舍の王となる、三日には沙門婆羅門みな敬愛す。我れ今成就の事業を說示せん、牛黃を取て加持すること七徧して面を洗

(一) 嚕地囉　血なり。

(二) 彼の人　今は敬愛を明すが故に即ち所愛の人なり

(三) 賒摩賒那　是れ尸陀林なり、無執著の地を取る意なり。

へ、若し見ん者はみな敬愛せん、若しは用て額に點せよ、若し彼の人を見及び彼れ見ばみな敬愛を得ん。(一)賊の中に於て作意し念誦せばみな解脫を得ん。若し彼の人作法して自の持する眞言を損壞せば、秔米●稻穀●白俱那衞華●白芥子を用て本尊の形を作りて、左の手を以て上を按して念誦せよ一千徧、一切の眞言即ち損壞せじ。(二)若し寒熱病を除かんと欲はば、山耳の華を取て加持すること一百八徧して燒け、設ひ鬼癘も亦た除差するを得。

又た佉陀羅木を燒いて護摩すること一百八徧せよ、一切の鬼魅を除く。

又た灰を加持すること七徧せよ、佗の眞言を遮す、誦すること一徧して水を以て灑げば即ち解す。

又た蛇人を齩まば、蛇の形を畫き、刀を把て誦すること一徧して割くこと一下せよ、其の人を齩む所の蛇即ち來らん、其の刀を以て左に旋らせ、即ち發遣を成せん、歸命を幷へて眞言を誦し二の吽の字を加へよ、即ち蛇を禁止せん、歸命を幷へ吽字を加へて眞言を誦せよ、即ち解くことを成す、二の娑吒を加へて眞言を誦して、左の大指を以て地を畫せよ、人を齩む所の蛇即ち來らん、娑吒の字を去て誦すること二十一徧

(一) 賊云云　賊厄を脫る。

(二) 若し云云　寒熱病並に鬼癘を除くこと。

して手を以て額に觸れよ、其の嚙まるゝ所の人即ち起たん、加持すること二十一徧して、水を以て頭上に灑いで輪の如く旋轉せよ、娑吒を兼ねて誦すること二十一徧して水を取て鼻に當てゝ加持して四方に散せよ、即ち本居に往いて水を取て前に依て加持して地に覆せ擲せば復た來らん。

又た俱那衞の枝を以て娑吒の字を幷へて誦して地を打て、鬼魅聲を作さん、歸命を幷て誦し、右の手を以て觸るれば即ち除愈することを得。

又た歸命を除いて誦すること二十一徧、(一)摩奴沙の骨を用て橛を作て、彼の人の名を稱して地に隨て之を釘て、其の摩奴沙即ち病んで鬼魅壞亂せん、髮を以て繩を作て其の橛に繫けて誦すること一徧して之を拔かば、即ち故の如くなることを得ん。

又た娑吒の字を去けて安息香を取て丸と作して、燒いて念誦すること一百八徧して彼の名を稱せよ、或は(二)囉惹の類なりとも即ち鉤召を成せん、白膠香を燒いて誦すること二十一徧せば、即ち解することを得ん。

又た一字佛頂輪王の眞言に娑吒の字を兼ねて絹素に書し、又た樺皮の上にして幢の上に安して兩り軍たちすれば、即ち以て佗を禁止す、即ち此の幢を以て前に引け、即ち

(一) 摩奴沙　人なり。

(二) 囉惹　王なり。